

令和3年度
「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
実施報告書

令和4年3月
北海道教育委員会

はじめに

障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組については、平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行、平成 29 年の文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」や平成 31 年の学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」などを踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務となっております。

こうした中、北海道教育委員会では、令和 2 年度から文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、学校卒業後の障害者の学びの場を拡充するため、地方公共団体が教育部局と福祉部局の垣根を越えて中心となり、大学等の高等教育機関や社会福祉法人、NPO 団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築事業」に取り組んできました。

本事業では、参画する機関がそれぞれ得意とする役割を担うことで、地域全体として持続可能な障害者の生涯学習を推進する体制づくりをねらいとし、社会教育施設や大学等の教育機関、社会福祉法人等が協力し、障害者が参加できる学びの場の提供など新たな学習プログラムの開発・実証等の取組や学びの場づくりの拡大や質の向上に資する人材育成の研修プログラムの開発・実証等を進めているところです。

本報告書は、今年度の「地域連携コンソーシアム会議」の取組や各構成団体や道立特別支援学校などの取組、また、障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」などの資料等をまとめておりますので、各市町村や関係機関等における障害者の学びを支援する際の参考にしていただければ幸いです。

今後とも、本事業の実施に御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和 4 年 3 月

北海道教育委員会

目 次

I	地域連携コンソーシアム会議実施概要	
	第1回コンソーシアム会議資料	P2～
	第2回コンソーシアム会議資料	P14～
	第3回コンソーシアム会議資料	P18～
II	共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道	
	「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育」	
	全体会・分科会資料	P30～
	まとめ	P96～
III	各管内の取組	P107～

I 地域連携コンソーシアム会議実施概要

令和3年度 「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議実施概要

第1回 開催日時：令和3年7月30日（金） 13:30~15:00

- 議事概要
- ・ 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」について
 - ・ 実践研究事業（モデルプログラム）について
 - ・ コンファレンスについて

第2回 開催日時：令和3年11月26日（金） 13:30~15:00

- 議事概要
- ・ 関係団体等による取り組みの進捗状況について
 - ・ 令和3年度、共に学び、生きる共生社会コンファレンスについて

第3回 開催日時：令和4年2月17日（木） 10:00~11:30

- 議事概要
- ・ 今年度のまとめについて
 - ・ 次年度の取組について

令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業名 障害者の生涯学習推進コンソーシアム事業

提案者名 北海道教育委員会

事業の趣旨・目的

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の果たす役割は大変重要である。

特に、学校卒業後の障害者の学びの場づくりは、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体において幅広く行われていることから、地方公共団体と外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、令和2年度に引き続き、多様な関係者との連携の場として、障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する地域の支援体制づくりに重要な役割を果たす協議会に社会教育をはじめとした関係者も参加し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設ける。

その際、地域ごとの課題や学びの場づくりを進める中核的な人材、学習機会の提供主体等が多様であることを踏まえ、北海道の実態に即した規模やメンバー等によりコンソーシアムを構成し、前年度の取組を発展継承させる。

また、障害者の生涯学習を着実に推進していくためには、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることが重要であることから、道教委が関係機関等と連携しながら市町村の担当者に対象とした研修会を実施するとともに、道内全市町村への普及啓発を推進する。

事業については、次の8項目に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- ④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施

構成機関

○構成員（予定）及び役割

- ①北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課【社会教育・生涯学習】→事務局を担う、道内市町村教育委員会との連絡調整等
- ②北海道教育庁学校教育局特別支援教育課【特別支援教育】→特別支援学校との連絡調整等
- ③北海道保健福祉部【保健福祉行政】→福祉との連絡調整、事業の実施等
- ④医療法人稲生会【医療法人】→障害者対象のモデルプログラムの実施
- ⑤社会福祉法人ゆうゆう【社会福祉法人】→社会福祉法人としてのモデルプログラムの実施、社会福祉法人等との連絡調整等
- ⑥DPI北海道ブロック会議【障害当事者】→障害当事者としてのモデルプログラム実施への協力、連絡調整等
- ⑦北海道大学【社会教育論】→社会教育研究分野からの事業への助言等
- ⑧北海道医療大学【医療福祉論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施、福祉系大学等との連絡調整等
- ⑨藤女子大学【特別支援教育論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施等
- ⑩いっしょにね！文化祭実行委員会【文化団体】→稲生会と合わせた障害者対象のモデルプログラムの実施、関係団体等との連絡調整等
- ⑪道立特別支援学校【特別支援学校】→特別支援学校としてのモデルプログラムの実施
- ⑫道立生涯学習推進センター【社会教育施設】→公民館など社会教育施設等におけるモデルプログラムの開発、調査研究
- ⑬北海道教育大学【大学と地域との連携】→公開講座の実施、学生ボランティアの養成、研修会の実施
- ⑭北海道社会福祉協議会【社会福祉】→道内各市町村の社会福祉協議会との連絡調整、各種事業への協力 など
- ⑮北広島市【市町村】→市町村レベルの地域コンソーシアムモデルの形成
- ⑯岩見沢市【市町村】→「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業実施予定

令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業実施体制

○関係機関の役割

- ・地方公共団体→事務局としての全体調整、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定・推進、教育局と知事部局の連携による情報集約と提供、コンファレンスの開催による普及・啓発等
- ・社会教育施設→調査研究機能、学習相談機能の活用
- ・高等教育機関→講座の企画・助言、講座の開設（オープンカレッジ等）、履修証明プログラムの作成、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成、遠隔学習等
- ・医療法人・社会福祉法人・企業等→障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力等
- ・地域民間団体・特別支援学校→講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者のニーズの把握と共有等
- ・連携市町村→市町村版地域コンソーシアムの検討、「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業の実施

コンソーシアム体制イメージ



事業実施スケジュール

4月	・委託契約締結
5月	・第1回コンソーシアム会議の開催 (協定書等の確認、事業計画の確認、モデルプログラムの検討)
6月	・実態調査アンケートの検討
7月	・道内市町村対象研修会実施計画の確認（道内14管内において 通年 実施）
8月	
9月	・第2回コンソーシアム会議の開催 (モデルプログラムの検討、情報共有、実態調査アンケートの確認、 学びに関する情報の収集・提供システム構築への情報収集、 検討、コンファレンスの検討)
10月	・モデルプログラムの検討及び実施（通年で随時実施）
11月	★各プログラムで検討会議をもち、具体的な方策について協議 の上、随時実施する。（オンラインでの開催も進める）
12月	
1月	
2月	・全道研修会（コンファレンス）の開催
3月	・第3回コンソーシアム会議の開催 (今年度のまとめ)

令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

具体的な内容

※事業については、次の8項目に網羅的に取り組む。

①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

・コンソーシアムは、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用に見知のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）から幅広く参画を得て協定等の締結を行う。

・コンソーシアムにおいては、道内全市町村や当事者への実態調査を行い、障害者の生涯学習の推進についての実態把握を行う。さらに、各地域の教育局の機能を活かし、令和2年度に実施した質問紙調査の結果をベースにしながら、各教育局管内市町村の障害者の生涯学習推進担当者や首長部局福祉担当者、各市町村社会福祉協議会等の関係者を対象とした研修会を実施するとともに、道内の各地域の実情を踏まえた学習プログラムの検討や、地域のニーズを把握するためのヒアリングを行う。なお、ニーズ調査に当たっては、当事者の参画を得て進める。

②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援

③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発

④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施

⑤障害者の学びを支援する人材の育成

⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策（費用負担の在り方等）の検討

⇒②～⑥の事業については、多様な実施主体によるモデルプログラムを次のとおり実施する。

・②及び⑤については、社会福祉法人やNPO法人等が主体となって実施するプログラム（障害福祉サービスと連携した学びの場・費用負担と在り方等）を中心に関係団体や障害当事者からのヒアリング等を通じて課題等を整理し、事業化に向けた検討に着手する

・②については、大学の公開講座等と連携したプログラム（卒業生の主体的な学びへの参画を促進するプログラム）

・③については、大学の研究機能を活用した公開講座等のプログラム（ボランティアの育成・履修証明書の発行を見据えたプログラム）

・④については、文科省が作成した「障害者の生涯学習推進」のためのリーフレットを活用した好事例の収集や、各モデルプログラムと特別支援学校との連携したプログラム（関係機関・団体等との連携プログラム）

・⑤については、社会教育施設等における講座等のプログラム（継続的に学ぶことができる講座・人材育成等）

また、北海道の広域分散型の特徴を踏まえ、ICTの活用が可能なプログラムについては、遠隔学習を試行する。各種会議についても、遠隔会議システム等を活用し実施する。

なお、モデルプログラムについては、前年度の検討事項や、道内各地域の実態調査の結果を踏まえ、道内各市町村へ普及させることをめざし、各市町村で取り組めるモデルプログラムとなるよう開発を進める。

⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

・北海道立生涯学習推進センターの有する相談支援や情報収集・提供体制を活用し、障害者の生涯学習推進に向けたシステム構築への研究を行う。

⑧地域における関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施

・上記に示す研究によって得られた成果について、周辺の都道府県・市町村等の行政、学校、関係団体等に対して、報告・普及を行う。

文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 令和3年度 障害者の生涯学習推進研究協議会 実施要項（案）

1 趣 旨

市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりを進めるための地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。

2 主 催 北海道教育委員会（主管 実施教育局）

3 協 力 北海道保健福祉部 北海道社会福祉協議会

4 期 間 令和3年7月～12月までの間

5 対象市町村 各管内全市町村

※令和3年～4年で全ての市町村において実施する

6 参加対象 市町村教育委員会職員、市町村首長部局職員、市町村社会福祉協議会職員 等

7 会 場 各教育局で定める（オンラインによる実施も可）

8 日 程

9:30 9:35 10:20 10:30 11:45

開 会	説 明	休 憩	協 議	閉 会
--------	--------	--------	--------	--------

※午前又は午後など半日日程での開催とする（2時間～2時間半程度）

※内容や時間は、各会場の実情に応じて柔軟に計画してよい

9 内 容

①説 明：「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」

説明者 各教育局社会教育指導班

- ・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深めます。
- ・障害の有無にかかわらずともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学びます。

○説明資料については、本庁が作成する共通資料を活用する

○先進事例等の紹介については、本庁が用意する資料のほか、各市町村等の実情に応じた資料を各教育局において準備し活用する

②協 議：「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」

進 行 各教育局社会教育指導班

市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行います。

障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業

野遊び×共生社会 「インクルーシブキャンプInほっかいどう」

事業の必要性

- 障害者の多様な学習活動の充実が必要⇒コロナ禍の中、「外」に出ること、「つどう」ことがさらに困難
- 共生社会の実現に向けて支援人材の増加が必要⇒障害者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮の検討

○障害の有無に関わらず楽しめる「野遊び」とおして、共生社会実現に向けた取り組みの発信

事業の概要

●学習支援に関する実践研究 『インクルーシブキャンプIn北海道』

※「野遊び×共生社会」をテーマに、すべての人が参加できる野遊びプログラムの開発と調査研究

- ①障害者も参加可能な「野遊び」プログラムの開発
- ②合理的な配慮を含む必要な支援の研究
 - ・対象／障害のある方
(障害種別は問わない・特別支援学校生徒も含む)
 - ・人数／6名
 - ・会場／青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
 - ・期間／令和3年8～9月【1泊2日】
 - ・内容／障害の有無に関わらず楽しめる「野遊び」
(自然体験、食、宿泊・・・)
 - ・調査研究／参加者へのアンケート調査
合理的な配慮の効果等の把握

道教委社会教育課
・事務局
・全体企画、調整

コンソーシアム
参画団体
・事業運営協力
・調査研究支援

ネイパル足寄
・会場
・プログラム運営
・調査研究

ディスティネー
ション十勝
・事業監修
・プログラム支援

成果／障害の有無に関わらず生きやすい共生社会の実現・全ての人が幸せになる地域社会の創出

「みらいつくり大学」 2021年度の取組紹介

医療法人稲生会
みらいつくり大学校
松井翔惟

2018

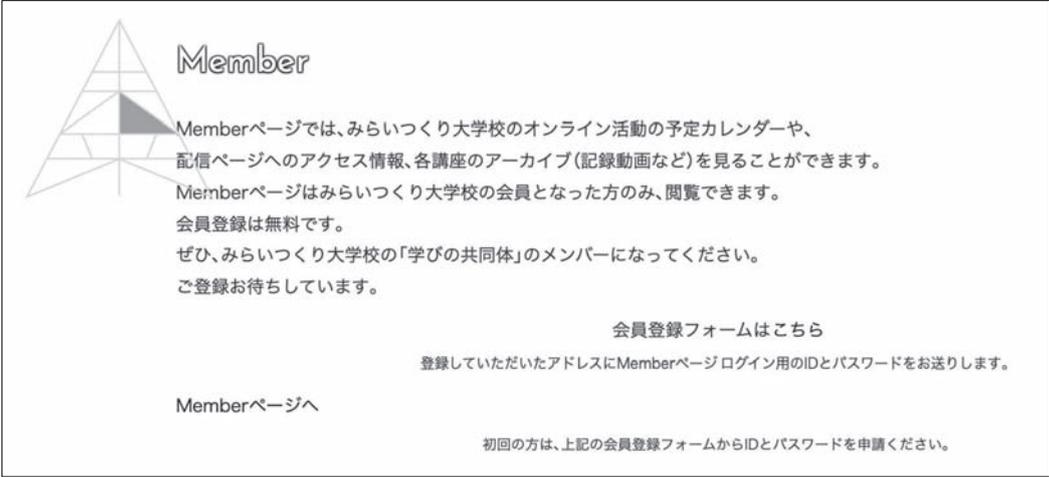
2021年5月13日～
みらいつくり研究所ホームページ(<https://futurecreating.net>)

2019

- ・メンバーページにて、会員登録を開始

2020

2021



Member

Memberページでは、みらいつくり大学校のオンライン活動の予定カレンダーや、配信ページへのアクセス情報、各講座のアーカイブ(記録動画など)を見ることができます。Memberページはみらいつくり大学校の会員となった方のみ、閲覧できます。会員登録は無料です。ぜひ、みらいつくり大学校の「学びの共同体」のメンバーになってください。ご登録お待ちしております。

会員登録フォームはこちら
登録していただいたアドレスにMemberページログイン用のIDとパスワードをお送りします。

Memberページへ

初回の方は、上記の会員登録フォームからIDとパスワードを申請ください。

2018

2021年5月13日～
みらいつくり研究所ホームページ(<https://futurecreating.net>)

2019

- ・メンバーページにて、会員登録を開始



カレンダー（参加URLの一元管理）



アーカイブ機能（オンデマンド参加）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



お手話べり

アイヌ語

みらいつくり研究所
FUTURE CREATING INSTITUTE



新聞

（奇術クラブ）

2021

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



2020



講師：関根摩耶（アイヌ語名：ノト）大学4年生。アイヌ文化が今でも強く残る北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。現在は大学でアイヌ語研究会に所属。

- ・アイヌ語弁論大会 2度最優秀賞受賞
- ・平成 年度 アイヌ語ラジオ講座 講師
- ・ 年 月から日高管内を走る道南バスのアイヌ語アナウンスを担当
- ・ 「しとちゃんねる」にて友人とアイヌ語、アイヌ文化発信など

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

（さあ、でかけようHOKKAIDO）

（奇術クラブ）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

（さあ、でかけようHOKKAIDO）

（奇術クラブ）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019

さあ、でかけようHOKKAIDO

-歴史と文化のバリアフリーガイド-

目的

・北海道各地にある社会教育施設等で行われている学びについて紹介し、生涯学習の機会につながるような当事者目線の情報を提供する。

方法

- ・動画の作成・公開を行う。
- ・みらいづくり大学の担当者と各市町村の社会教育に関わる方との対談を収録を行う。

2020

内容

- ・市町村にある博物館などの展示内容
- ・障害当事者が安心して見学・利用できる情報

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

(さあ、でかけようHOKKAIDO)

(奇術クラブ)

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019

2020

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

(さあ、でかけようHOKKAIDO)

(奇術クラブ)





令和3年度 北海道共生社会コンファレンス

背景

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実**することが急務である。

目的

障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を開催し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

○昨年度「オンライン」による実施としたことで、北海道のみならず全国から多くの参加者を得ることができた
⇒新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、今年度は引き続きオンラインによる参加とする

○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など
⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

北海道コンファレンス実施内容

- 令和元年度・令和2年度に実施したコンファレンスの内容を発展させたコンファレンスを実施
 - ・第1部：昨年度までは有識者によるシンポジウム形式（受動的）⇒今年度は参加者が全員参加する全体会議形式（能動的）
 - ・第2部：昨年度は地域/イベント/テーマの各コミュニティにおける「学び」を当日に実践形式で検証
⇒今年度はすでにあるコミュニティの実践から新たなつながりが生まれる可能性を検証

今年度

- ・テーマ：参加者やコンソーシアム構成団体による活動を「学び」の観点から捉え直しそれぞれのコミュニティをつなぐ場とする
- ・コンファレンスの原案を企画する、「企画部会」を設置
- ・基本的には「全体会」「分科会」「まとめ（ふりかえり）」の3部構成
- ・開催時期は「2022年2月5日（土）を想定」1日開催
- ・オンラインによる開催とする。「昨年度第1部Zoomウェビナー⇒今年度第1部Zoomミーティング」
- ・参加人数は、上限300名（Zoomの上限）

令和3年度

「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

アートアカデミーの開催による障がい者の 生涯学習推進事業

北海道岩見沢市

岩見沢市のこれまでの取組み

- 平成22年～ 障がい者アート展岩見沢ハート&アート開始
- 平成28年～ 北海道アールブリュットフォーラム開催（3年連続）
- 平成30年～ アールブリュットショウケース開催
- 令和元年 岩見沢アールブリュット芸術祭2019開催
- 令和2年 岩見沢アールブリュットギャラリー開設



アートアカデミー概要

岩見沢市では、地域資源である北海道教育大学岩見沢校と連携しながら芸術文化・スポーツに係る取組みを推進しており、地域の特色を活かし、芸術文化をキーコンテンツとする障がい者の生涯学習の推進は、障がい者本人の生活を豊かにすることに加え、多様性を包摂する共生社会の実現に資する可能性を有している。

本事業においては、アートアカデミーとして学校卒業後における障がい者が北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画運営にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

連携協議会構成

氏名	所属・役職等
藤井 備	岩見沢市健康福祉部福祉課長
白石 丈人	岩見沢市教育部生涯学習・文化・スポーツ振興課長
三橋 純予	北海道教育大学岩見沢校教授
大友 恵理	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会
壽崎 琴音	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会
村林 太郎	岩見沢ハート&アート実行委員長
松井 圭子	岩見沢市日の出小学校
三浦 啓子	社会福祉法人北海道社会福祉事業団福祉村
植田 一哉	社会福祉法人北海道社会福祉事業団福祉村
中道 章子	障がい当事者

※事務局は岩見沢市健康福祉部福祉課におく。

実施内容

○芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

○創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

○展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

○展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。

参加募集数30名、オンライン配信および市公式アカウントへの映像掲載。
各学習会の会場として北海道教育大学岩見沢校施設の利用を調整しているが、新型コロナウイルス感染症の状況によって岩見沢市生涯学習センターに変更。

スケジュール等

6月	委託契約締結
7月	
8月	参加募集
9月	芸術文化鑑賞学習会
10月	創作体験・創作学習会
11月	展示技術学習会
12月	展示実践学習会
1月	
2月	成果報告書取りまとめ
3月	

■アイヌ語講座（月1回）

今年4月から開始、月1回の講座開催を継続中。

「テアタランギ」という、アイヌ語のみを使ったコミュニケーションが人気。

■私の好きな絵本（月数回配信）

稲生会の職員が好きな絵本をYouTubeで紹介する。

絵本の感想やどのような時に読むのかエピソードを4分程度で披露。

親が入院中や外出できない子どもたちへの読み聞かせや、コロナ禍の本屋や図書館を利用できない人の本との出会いの場とする。

■270分de読む100分de名著（これまで4回）

哲学学校が休講の際の自由研究として始まった。

NHK「100分de名著」の書籍を参考に自由な参加者たちの解釈を語る。

■大学生と障害のある子どもたちの挑戦（単発）

ーオンライン山登りプロジェクトー

大学生が障害のある子どもたちとの交流の一環として山登りを企画・実行した。

ZOOMとラインチャットを活用し、山登りの様子を随時配信、映像による臨場感を届ける。終了後には交流会も開かれ、参加者のダイレクトな感想を伝え合った。

■「さあ、でかけよう！歴史と文化のバリアフリーチャンネル」（定期配信予定）

障害当事者が安心して外出し、生涯学習に繋がるであろう学びや体験の機会を得られるような当事者目線の情報を提供することを目的とする。オンラインで収録した文化的遺産の紹介や障害当事者が安心して見学・利用できる情報を提供する。

第一弾はむかわ町「穂別博物館」で収録済み。近日中に配信予定。

■THIS IS US同好会（月1回 木曜日 11:30-12:30）

みらいつくり大学校の参加者が面白いと注目を集めていた海外ドラマの同好会。

みらいつくり大学校他講座参加の障害当事者、稲生会職員、外部の介護事業所職員のほか、神戸からも参加あり。

■音楽講座（全4回）

国立音楽大学の講師をアドバイザーをして企画。音楽を通して自由な表現や創作活動を行うことで多様性や違いを楽しむ。

全4回の開催内容は全て異なり、様々な角度から音楽を捉える講座となっている。

■宗教学（2回連続講座）

北星学園大学の山我哲雄教授（岩波ジュニア新書『キリスト教入門』の著者）に、「キリスト教会の歴史」をテーマに講義を実施して頂く予定（12/15, 12/22の2回連続講座）。

みらいつくり大学 音楽講座開催 (全4回)

日程：2021年11月
～2022年2月

会場：ご自宅
参加：オンライン
(使用)

音楽講座の
最新情報はこちら



みらいつくり研究所ホームページ

〈お問い合わせ〉
医療法人 稲生会
電話

(担当 浅里のぞみ)

第1回～第3回の講座
2021年11月1日
受付開始！！

第1回 思い出の曲を 語ろう

開催日
2021年
11/25(木)
14:00～



講師
山本智子氏
(国立音楽大学)

第2回 音楽を楽しもう

開催日
2021年
12/11(土)
14:00～



講師
佐藤由理氏
(RISE 音楽教室)

第3回 作詞してみよう

開催日
2022年
1/14(金)
14:00～



講師
杉田篤史氏
(INSPI リーダー)

第4回 音楽会場に 行ってみよう

開催日
2022年2月
予定



会場
札幌市内のコンサート
ホール



講師紹介 看護師 山本智子氏 (国立音楽大学)

国立音楽大学音楽学部音楽文化教育学科准教授、博士(子ども学)、近著に、『単著「音楽キャリア発達支援」(北樹出版)、単著「知的障害者の生理・病理および心理と教育・支援」(開成出版)等。教育学を中心とする学際的な視点に基づいて、病気が障がいのある子どもの参加を通じた乳幼児期からの発達支援に係る研究や教育に取り組んでいる。

第2回 思い出の曲を 語ろう

年 木
: ~

みなさんの思い出の曲はなんですか？

音楽との出会いは偶然から始まります。あなたにとって『思い出の曲』はどのような曲ですか？曲への思いを語り合えたら新たな発見があるかもしれません。後半は音楽の効果についてプチ講座も開催します。



リズムや音のちがいを楽しんで！

同じ曲でもリズムや和音の違いによって曲の印象がガラリと変わります。自分が好きだと思う音楽に出会いましょう。

【音楽で来年の運勢を占ってみよう！？】
あなたの来年の運勢は？？ 蛍の光を題材に選んだ和音から運勢を占っちゃおう！

第3回 音楽を楽しもう

年 土
: ~

講師紹介 ピアニスト 佐藤由理氏 (RISE 音楽教室 講師)

北星学園女子高等学校音楽科ピアノコース、国立音楽大学音楽教育学科卒業。卒業後は宮地楽器(於：東京)にてピアノ講師を経て、帰札幌後は RISE 音楽教室ピアノ講師のほか、各種イベントプレイヤー、プライマルオルガニストなどの演奏活動も行っている。2017年には第3回「万人の響」コンサートにてオーケストラと共演。好評を博す。日本ギロック協会、同演会、星音会、各会員。



講師紹介 歌手 杉田篤史氏 (アカベラグループ INSPI リーダー)

1997年大阪大学でINSPI結成。2001年フジ系「ハモネブ」出演、メジャーデビュー。2005年より日立CMソング「この木なんの木」担当。2017年より音楽ハーモニからチームビルディングを学ぶ「ハモセッション」をスタート。愛媛大学羽鳥准教授と共同研究をすすめている。

第4回 作詞してみよう

年 金
: ~

自由な表現があつていいじゃない！！

『この木なんの木』の曲にオリジナルの歌詞をつけます。新しい年を迎え、これからの自分のスタートをぜひ歌詞に込めてみませんか？
【声を出すだけが歌じゃない】
耳で聞く、目で歌う、様々な表現で歌ってみよう！！



第4回 音楽会場に 行ってみよう

年 月
(予定)

札幌市内の音楽会場を見に行こう！
どこに行くかの詳細は後日発表します！楽しみにしていてね♪

※申込み受付日は調整中です



全2回
ZOOM講義開催!

宗教学講座

キリスト教会 の歴史

信仰は同じでも袂を

分かつことがある。キリスト教の歴史には「キリスト教会の歴史」と呼ぶべき人々の歴史があります。

第一線の研究者であり若者向けの入門書の著者でもある専門家の講義を聴くことのできる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

キリスト教入門

山我哲雄 著



岩波ジュニア新書

第1回 ローマカトリック教会と東方正教会

日時：12月15日（水）18:00～19:30

第2回 プロテスタント教会の諸教派

日時：12月22日（水）18:00～19:30

講師：山我哲雄先生（北星学園大学教授）

旧約聖書学がご専門。岩波ジュニア新書の『キリスト教入門』（2014年）も執筆されています。今回はこの本の後半部分について、2回に分けて講義していただきます。

どなたでも受講できます。視聴のみも大歓迎。お気軽にご参加下さい

お問い合わせ

受講登録はこちら



<https://forms.gle/ASGjvG2VV6U4fw2Y9>

参加には、事前のお申し込みが必要です（録画データは、みらいつくり研究所会員のメンバーページで視聴できます。会員登録は無料です）

医療法人稲生会 みらいつくり研究所

札幌市手稲区前田4条14丁目3番10号

電話：011-685-2799（法人代表）

E-mail: brotom1977@gmail.com（担当:土島）

HP: <https://www.futurecreating.net/>

登頂から下山まで
つながり続けた先に見えたもの

大学生と障害ある子どもたちの挑戦

オンライン山登り project 報告会

羊蹄山に登りたい。そして重度障害のある子どもたちに山頂に広がる素晴らしい景色を届けたい。一緒に登山を楽しみたい。シンプルな学生たちの想いから始まったこのプロジェクト。最終的にはオンラインでつながりあった空間にこれまでにない感動が広がりました。なぜ挑戦しようと思ったのか。どんな準備をしてきたのか。彼らの報告とともに、そこで得られた「学び」を皆さんと共有します。



10月23日(土)
15:00～16:30まで

Zoom + YouTube Live 配信！

コーディネーター 土畠智幸

医療法人稲生会理事長。札幌市内及び近郊の小児在宅医療に加えて北海道全域を対象に医療的ケア児の暮らしをサポートする拠点整備事業を展開。学びを通じたみらいづくりに挑戦中。



札幌市内の学生チーム
DOSANKO DREAMix
(学生の枠を超えたイベントを企画。地元を盛り上げたいと北海道を舞台に様々な活動を展開中)のメンバーを中心に今回のプロジェクトに向けた登山隊を結成。準備期間およそ1ヶ月で羊蹄山登頂を実現しました！



参加方法



ご登録のアドレスに
当日アクセスする
URLを事務局から
ご案内します



① QRコードから参加申込
<申込締切：10/22>

② 当日、開催時刻にパソコン
やipad、携帯電話で参加！



● お問い合わせ先
医療法人稲生会 みらいづくり研究所
☎ 011-685-2799 FAX 011-685-2798 MAIL toseikai@kjnet.onmicrosoft.com



コンソーシアム構成団体名 北海道医療大学

取組名 北海道内特別支援学校への障がい者の生涯学習に関するヒアリング調査

・取組の趣旨・目的

高等教育機関が生涯学習の提供モデルを検討するための基礎資料とするため、卒業後における生涯学習の機会として求めるものについて、特別支援学校へヒアリング調査を行い、学校教育の視点からみた生涯学習に関するニーズについて明らかにすることを目的とした。

・実施体制や連携先等

実施体制：近藤尚也、志水幸、白石淳（北海道医療大学看護福祉学部/北海道医療大学先端研究推進センター）
 連携先：北海道教育庁社会教育課による調査依頼協力

・取組の内容・方法

北海道内の高等支援学校及び特別支援学校高等部計7校について進路指導担当教員を中心に半構造化面接によるヒアリング調査を行った。調査期間は2021年10月1日～2021年12月10日、調査項目としては学校の特色、卒業生の主な進路、生涯学習の内容について、必要なサポートや工夫、学習の連続性について、生涯学習における課題、ニーズ（本人、保護者）、情報提供のあり方についてなどであった。これらについて、その内容から質的に項目の整理を行い分析した。

取組の成果と課題

<成果> 学校教育の視点からみたニーズについて3項目に整理できた。

- 1, 生涯学習に求めること・・・慣れ親しんだ場所での開催、送迎、少ない費用負担、活動内容（就労との運動、金銭管理、人間関係、健康管理、運動など）、いつでも参加できる状況、社会参加の場（仲間とつながる場）としての役割 など
- 2, 学校教育との運動・・・学校で活用した教材や学びの構成・身につけたスキルをいかした活動、運動機会の継続 など
- 3, 情報のあり方・・・有効な情報が本人に届くこと、在学時から継続できるための情報、参加きっかけとなる情報提供 など

<課題>

- ・情報提供の場や活動資源の不足・地域差（学校も情報が少ない）
- ・障がいの状況や進路（一般就労か福祉サービスか）によって情報を得られる機会の違い（一般就労だと情報を受け取る機会が少ない）
- ・学校教育では意図的に運動の場を設定している学校が多いが卒業後はなくなってしまう、学びの継続がなくなることで学校での学びを忘れてしまう、仲間とのつながりが希薄になってしまうといった学びの連続性のあり方
- ・学校在籍時から生涯学習活動そのものへの関心をどのように醸成していくのか（慣れ親しむ土台）

コンソーシアム構成団体名 北海道教育大学

取組名 みんなの遊び場 in ふじのめ2021

- ・〇目的：・特別なニーズのある児童・生徒に対する休日の余暇支援活動として、様々な運動遊びを経験できる場を提供する

（学校の教育課程の一環ではなく、社会教育活動として実施、活動保険に加入）

- ・学生が臨床活動を行うことができる場を提供する

○日時：令和3年10月31日（日）午前の部（小学生）：10:00～15:00

○場所：北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級（ふじのめ学級）体育館

○参加者：北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級の児童及び生徒とそのきょうだい

（例年は一般募集をしているが、本年度はコロナとして対策として対象を限定して実施）

○内容：車椅子体験：競技用車椅子での移動体験、鬼ごっこやボール等を用いた遊びや自由遊び

取組の成果と課題

<成果>

午前の部（小学生とその兄弟）18名、午後の部（中学生とその兄弟）18名、学生等のスタッフ21名が参加し、各種の身体を使った遊びや活動を行った。アンケートの回答には、「コロナ期間があって全然大学生と遊べなかったから楽しかった」「もっと遊べるものを増やしてほしい」などの回答や、保護者の回答には、「全身を使い、普段できる機会のない遊びをしていた」や、「家にいるとテレビゲームやDVDといった遊びになるので、体を動かして遊べる場は良いと思った」といったなどの記述が見られた。

<課題>

「慣れない環境で中々遊べなかったため、そのための工夫があればもっと良いと思った。」「体育館が狭く物が多い」などの回答があった。参加した児童・生徒がより多くの時間、安全に遊びに参加できるように、臨床経験が豊富なスタッフの確保やさらなる環境整備の工夫が必要である。



北海道社会福祉協議会

取組名 地域共生社会推進研究協議会

・取組の趣旨・目的

「地域共生社会」の実現と包括的支援体制構築に向けた考え方、実践を福祉関係者に啓発する

・実施体制や連携先等

北海道社会福祉協議会主催

・取組の内容

上記の趣旨を普及させるための市町村社協、行政、自立相談支援機関、社協以外の社会福祉法人向けのセミナー

<内容> 基調講演、基調説明、実践報告、グループ討議

取組の成果と課題

<成果>

市町村社協等の福祉関係者には地域共生社会の考え方と実践例を啓発する良い機会となっている。

<課題>

福祉関係者以外の幅広い住民層にまで啓発する取組みにはなっていない。

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道真駒内養護学校（札幌市）

事業名

高等部における生涯学習につなげる取組

趣旨・目的

- ・卒業後の生活を意識し、継続した学びにつながるよう、個々の教育的ニーズに応じた活動を通して、生徒一人一人が自ら学ぶ力を育てる。
- ・日頃の学習の成果を発揮する場面をより多く設定することで、主体的に考え意欲的に活動する態度を身に付ける。
- ・地域及び関係機関等と共に活動することで、地域の一員としての意識や、様々な人と協力して物事に取り組む力を育む。

取組内容

○障がい者スポーツの推進

- ・体育の授業を中心に、ボッチャ、フロアカーリング、ボウリングを3年サイクルで取り組む（昨年度はボッチャ、今年度はフロアカーリングなど）。
- ・学習の成果を発揮する場として、それぞれの大会を実施する。
- ・オリジナルルールではなく、あえて公式ルールに則って各大会を実施することで、卒業後の学びの拡大や継続につなげる。

○フラワースマイル作戦

- ・地域の方々に来ていただき、花の扱い方、苗の植え方や育て方などを教えていただく。
- ・地域の方々と協力して、校舎横の川沿いの一角に花壇を設置し、一緒に花を植える活動を行う。

成果と課題

○成果

- ・生徒の身近な活動に取り組むことで、生徒の主体性や達成感の向上につながった。
- ・地域の方々と関わることで、地域への関心や協働への意識が向上した。
- ・地域の方々へのお礼や作業製品の配付など、活動後の双方向的なやりとりにつながった。

○課題

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、内容や実施方法等の変更を余儀なくされた。また、直接的な活動が制限され、地域への関心の向上など期待された成果を達成することが難しかった。

学校の概要など

本校は昭和36年に開校した北海道で初めての肢体不自由特別支援学校です。
 小学部、中学部、高等部があり、132名の児童生徒が在籍しています（令和4年2月1日現在）。
 令和3年度に開校60周年を迎えました。



本校ホームページ



高等部体育大会（フロアカーリング）



フラワースマイル作戦

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道札幌あいの里高等支援学校（所在地：札幌市）

事業名

「Go for your dream.」夢のために、ベストを尽くす～生徒の主体性と個性を磨く部活動

趣旨・目的

- 【校訓】「未来」～これまでの自分を振り返り、これからの未来を創造する。「チャレンジ」～過去の経験を踏まえ、目標を掲げ進む。「感謝」～他者の好意に感謝できる。他者の役に立つことを喜びに感じられる。
- 【部活動の目的】(1)学校生活に対する意欲を高める。(2)生徒の放課後の活動を充実する(3)卒業後も積極的に趣味や特技を継続的に楽しむ姿勢を育てる。(4)活動を通して人間関係を深め、社会性を育てる。

取組内容

- 1 活動時間
毎週火・木曜日 15:20～16:45
- 2 部活動の種類
バドミントン部、サッカー部、バスケットボール部、卓球部
音楽部、美術部、パソコン部
- 3 部活動参加生徒数
約90名
- 4 令和3年度の主な対外的な活動
(1)サッカー部～北海道新篠津高等養護学校との練習試合
(2)バスケットボール部～FIDバスケットボール大会に出場
(3)パソコン部～NPO法人札幌チャレンジドから講師を招いて検定受験に向けた取組（特別支援学校ICT就労促進事業の活用）

成果と課題

- 【成果】
 - ・生徒の余暇活動、趣味を広げ、深めることができる。
 - ・異学年との関わりから交友関係が広がり、豊かな人間関係を築くことができる。
 - ・チャレンジする楽しさや仲間との協働を体感し、個性をさらに磨くことができる。
- 【課題】
 - ・感染症予防対策のため、活動に制限がある。
 - ・コロナ禍の影響のため、対外的な活動（大会など）が減少している。
 - ・職員の勤務時間内で部活動を運営しているため、活動時間に制約がある。

学校の概要など

学校教育目標：Go for your dream.『夢のために、ベストを尽くす』
～今の自分を超え、より高みをめざそう～
生徒数：169名（令和4年1月現在）
設置学科：生産技術科、環境・流通サポート科、被服デザイン科、
食品デザイン科、福祉サービス科、普通科
開校年月：平成28年4月



【サッカー部】新篠津高等養護学校との練習試合



【バスケットボール部】FIDバスケットボール大会



【パソコン部】検定練習

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道函館高等支援学校（所在地：函館市）

事業名

「地域との連携」2019函館マラソンボランティア活動

趣旨・目的

- ・社会貢献活動と生涯学習の基盤づくり
- ・ ☆学校の想い ○地域でのスポーツ大会の運営に参加～「見る・支える・知る」を経験
- ・ ○卒業後のスポーツライフや生涯学習へつなげてほしい～「する・見る・支える・知る」の始まり

取組内容

1. 函館マラソン実行委員会の協力による外部講師授業
(1)大会の特徴や魅力 (2)参加者・コースの特徴
(3)評価→改善→運営（日本一を目指す！）
2. 総合的な探究の時間との関連（テーマを生徒が自ら設定）
数学、理科、社会、職業、外国語の教科横断的な取り組み
(1)マラソンコースの歴史や課題 (2)塩分の必要性
(3)人の体のつくりと働き (4)長距離を走るための走法
(5)外国人とのあいさつ、応援や励ます表現
(6)トップランナーのスピードと距離 など
3. 大会当日の役割
(1)フル・ハーフ合わせて8000人の参加者への応援
(2)ゴール後のペットボトルや完走タオルの配付

成果と課題

- ◎運営者の大会にかける想いや説明を理解することで、準備段階から本校も運営に参画・協力していることを実感
- ◎自己肯定感の向上、新たな気付き・探究
 - ・水を渡すと「ありがと」と言われてうれしかった。
 - ・いろんな人がマラソンに参加しているんだなと思った。
 - ・マラソンが、こんなにもきついものなんだと知った。
 - ・すごく疲れたが、とても楽しめた。来年もまたやりたい。
- ◎総合考察（これからの教育目標の実現を目指して）
 - ①カリキュラム・マネジメントの確立と地域資源の活用
 - ②「生活との結び付き」（職業生活や社会生活）
教育活動全体を通じた意味付け・価値付け・重み付け等
 - ③自己の「生き方」に迫る学びを実現する授業改善

学校の概要など

平成31年度（令和元年度）に開校し、知的障がいのある生徒が対象。
学校教育目標は『共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成』とし、普通科、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の4学科から編成されている。
<http://www.hakodatekoushi.hokkaido-c.ed.jp/>



スタート応援

「お疲れ様でした」と声をかけながら配付

事業名

「地域との連携」2021 『花いっぱい道づくりの会』のボランティア活動参加

趣旨・目的

- ・社会貢献活動と地域との協働
 - 地域で長年継続しているボランティア活動への参加
 - 地域住民や地域企業の方、少年団等の子ども達と一緒に活動
- ・生徒が社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを考える

取組内容

1. 『花いっぱい道づくりの会』の活動

この会は2004年から函館道路事務所、函館市、財団法人函館市住宅都市施設公社との4者にて道路の緑化・清掃活動を実施している。花かいどうボランティアは平成16年度から18年間続き、地元に着し、今年も国土交通大臣賞を受賞している。

また、2019年には『ベスト・シーニックパイウェイプロジェクト』で最優秀賞を受賞している。

2. 参加した活動（教職員、生徒会、PTA）

この会は28団体から構成されており、本校は今年度から加入団体として登録

(1)春から秋にかけては国道沿いの花壇整備（計5回）

(2)冬はワックスキャンドルを作り、「シーニックdeナイト」を開催

成果と課題

◎学校全体で取り組む新しい取り組み

残念ながら函館マラソンが2年連続中止になり、計画していた地域と協働する活動については足りない部分があった。この活動を始めることで本校が地域との関わりを深め、生徒が卒業後の社会貢献活動を知り、考えていくきっかけとなる。

◎次年度以降にむけて

今年度は参加できる部分から実施したので、活動全体の内容や意義が生徒に充分伝わっていない面があった。次年度は年度初めから『花いっぱい道づくりの会』と連携し、計画的に活動を進めていく。1年を通して活動し、地域の方との交流を深めながら生徒会主体の働きかけやPTA活動との協働を増やしていきたいと考えている。

学校の概要など

平成31年度（令和元年度）に開校し、知的障がいのある生徒が対象。学校教育目標は『共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成』とし、普通科、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の4学科から編成されている。

<http://www.hakodatekoushi.hokkaido-c.ed.jp/>



除草などの花壇整備

初めてのワックスキャンドル製作

文部科学省委託事業 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築
令和3年度全道図書館専門研修〈経営(関係法規)〉開催要項

1 趣 旨

2019年6月に読書バリアフリー法（視聴覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が成立しました。障害の有無にかかわらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律です。この法律を出発点に、どんな人も利用しやすい図書館づくりのために役立つことを学びます。

2 テーマ

「誰もが読書できる図書館を目指して」

3 主 催

北海道図書館振興協議会、北海道立図書館

4 共 催

北海道教育委員会

5 日 時

令和4年（2022年）1月14日（金） 10時30分から15時50分まで

6 会 場

北海道立図書館 1階研修室（江別市文京台東町41番地 TEL：011-386-8521）
※JR大麻駅南口から徒歩約8分

7 対象者

道内公立図書館（公民館図書室）職員、市町村教育委員会職員、学校図書館の運営等に携わる方

8 定 員

25名（定員を超えた場合は、調整することがあります。）

9 内 容

「日程」のとおり

<日 程>

時 間	内 容
10:00～10:30	受 付
10:30～10:40	開 会
10:40～12:00	<p>講 義</p> <p>①「第6期 北海道障がい福祉計画について」 講師：北海道保健福祉部 障がい者保健福祉課社会参加係 係長 長多 将嗣 氏</p> <p>②「障がいのある方への生涯学習支援」 講師：留萌教育局 教育支援課 社会教育指導班主査 高橋 枝里子 氏</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読書バリアフリーの推進を含めた「第6期 北海道障がい福祉計画」の全体像を知り、これらの施策によって北海道が目指す社会のかたちを共有します。また、障がい者の生涯学習支援について広く学びます。</p> </div>
12:00～13:00	昼休み
13:00～14:00	<p>事例紹介 「点字図書館の仕事について」 講師：札幌市視聴覚障がい者情報センター 遠藤 宏明 氏 (札幌市保健福祉局障がい保健福祉部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ボランティアグループとの連携により点字資料、録音資料などの多様な資料を必要な方に届ける、視聴覚障がい者情報センター点字図書館の仕事を通して図書館に出来ることを学びます。</p> </div>
14:00～14:10	休 憩
14:10～15:10	<p>事例紹介 「図書館利用に障害のある人々へのサービス」 講師：日本図書館協会 障害者サービス委員会委員 椎原 綾子 氏 目黒区立八雲中央図書館主任</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>図書館と図書館資料を利用するとき存在するさまざまな障壁を認識し、障がい者サービスへの理解を深め、地域のすべての人にサービスを届ける図書館の役割について改めて考えます。</p> </div>
15:10～15:40	館内設備見学ツアー
15:40～15:50	閉 会

令和3年度全道図書館専門研修〈経営（関係法規）〉報告

1 日 時 令和4年1月14日（金）10:30～15:50

2 会 場 道立図書館 1階研修室

3 参加者 20名

※当初の参加予定人数31名中、コロナウイルス感染症対策および悪天候によるキャンセル 11名

4 日 程 別添開催要項のとおり

5 概 要

講義①「第6期 北海道障がい福祉計画について」

保健福祉部障がい者保健福祉課社会参加係 係長 長多 将嗣 様

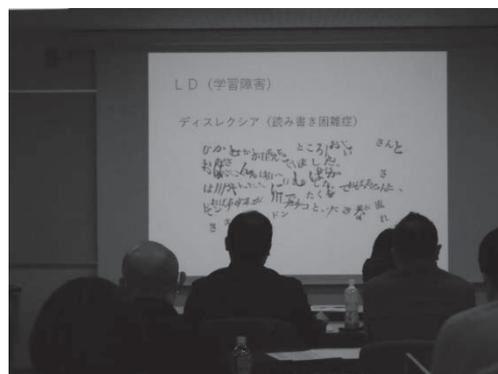
第6期北海道障がい福祉計画についての概要、現状など特に読書バリアフリーに関係ある部分を重点的にご説明いただいた。今回の研修の目的を明確にし、参加者と共有することが出来、研修の導入として参考になる講義であった。

講義②「障がいのある方への生涯学習支援」

留萌教育局教育支援課社会教育指導班 主査 高橋 枝里子 様

障がい者の生涯学習支援について、関係法令が整備されてきた過程や北海道の現在の状況などの基本的な情報の提供、実践事例の紹介などに始まり、さらには具体的に障がい者の生涯学習を支援するにあたって、どのような障がいを持っているとどんなことが苦手な場合があるのかについても解説があった。

講師ご自身の経験を交えたエピソードも多数紹介され、図書館利用をするにあたって何が問題になり、職員の対応ではどのようなことが求められるのか、参加者にも実際に図書館（室）での対応が必要な場面がイメージがしやすい講義となった。



事例紹介「点字図書館の仕事について」

札幌市視聴覚障がい者情報センター 遠藤 宏明 様

点字図書館について、設立の経緯や点字図書館がどのような施設であるのかといった基本的なところから、さらに実際の業務内容、読書バリアフリー法対応への課題まで広くご紹介いただいた。

多数のボランティアに多くの協力を得ている状況であるが、ボランティアの高齢化による担い手の確保に関する課題や、コロナ禍でなかなかボランティアの活動や新規ボランティアへの研修ができずにいる現状についても言及があった。

事例紹介のあと参加者から点字図書館の業務や資料について具体的な質問が多くあがり、関心の高さがうかがえた。

事例紹介「図書館利用に障害のある人々へのサービス」

日本図書館協会障がい者サービス委員会委員（目黒区立八雲中央図書館主任） 椎原 綾子 様

障がい者サービスとは何であるのか、何のために行うのかという定義と目的を明確にすることをスタートに、障がい者サービスの対象や制度・法律について説明いただいたのち、DAISY 資料や LL ブック等の個別の資料がどのようなもので、どのような使い方があるのかについても現物や関連 Web サイトを紹介しながら解説いただいた。

資料の提供方法、また図書館がどのように資料を使いたいけど使えないでいる人のニーズを掘り起こし、リーチするのかといった PR 方法に対するアドバイスなど、実際の図書館業務における障がい者サービスのあり方について具体的な方法が提案され、それぞれの図書館・図書室における業務の参考になる事例紹介となった。



ブックトラック上段：椎原さんの事例紹介の中で言及された資料（当館所蔵）
中・下段：当館「バリアフリー資料セット」の一部

館内設備見学ツアー

道立図書館総務企画部企画支援課 主任 木村 啓

20 分程度で館内のスロープ、車いす昇降機等の設備、またカウンターに用意しているコミュニケーションボードや拡大読書機などのハンディキャップ対応ツールを利用者の動線に沿って見ていくツアーを行った。

自館の設備の参考にするため、写真撮影を行う参加者もいた。

※交通機関のため不参加：1 名

6 アンケート結果

- ・別添のとおり回答を得、内容については概ね好評であった。〔回収率 100%〕
- ・研修当日がたいへんな悪天候であったことから、冬季の研修は避ける、もしくはオンライン開催を希望する声が多かった。

7 その他

- ・研修当日までにコロナウイルス感染症対策、悪天候によるキャンセルで 11 名のキャンセルが出たため、当日配布資料を個別に送付することとした。

障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業
地域連携コンソーシアム会議 構成員名簿

氏名	所属・職名
土島 智幸	医療法人稲生会 理事長
宮崎 隆志	北海道大学 教授
志水 幸	北海道医療大学 教授
今野 邦彦	藤女子大学 准教授
安井 友康	北海道教育大学札幌校 教授
杉澤 洋輝	いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局長
大原 裕介	社会福祉法人 ゆうゆう 理事長
野村 宏之	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 副局長
紺野 順子	D P I 北海道ブロック会議 理事
吉田 智樹	北広島市教育委員会 社会教育課長
山田 努	岩見沢市健康福祉部 主幹
近藤 正臣	北海道真駒内養護学校 副校長
松岡 志穂	北海道札幌あいの里高等支援学校 教頭
仙北谷 逸生	北海道教育庁学校教育局特別教育支援課 課長補佐
相馬 知人	北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課 主幹
山田 智章	北海道立生涯学習推進センター 主幹
太田越 雄三	(株) ディスティネーション十勝

事務局：北海道教育庁社会教育課

Ⅱ 共に学び、生きる共生社会コンファレンス

in 北海道

「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう

北海道の社会教育」

文部科学省主催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
 令和3年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道
 「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育」 実施要項

1 趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実することが急務であることから、障害者の生涯学習活動の関係者が集い、研究協議等を行い、障害理解の促進や、支援者・担い手の育成、障害者の学びの場の充実を目指す。

2 開催日時

令和4年(2022年)2月5日(土) 10:00～16:00

3 会場

オンライン開催 (Zoom)

4 主催

文部科学省 北海道教育委員会

5 共催

医療法人稲生会

6 参加対象

障害当事者及びその家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPOその他関係団体に関わる者等

7 日程及び内容

	10:00	10:15	12:00	12:05	13:05	13:10	15:10	15:15	16:00
開 会	①行政説明	②全体会	休憩 <small>(カフェポッチャ)</small>		③分科会		④まとめ、閉会		

- ① 行政説明：「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」に係る趣旨説明
 説明者 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
- ② 全体会：【事例発表】障害者のための学びの場、障害の有無によらず参加できる学びの場などの取組について
- ③ 分科会：第1～第5分科会に分かれ、事例発表やグループ協議を実施
- ・第1分科会 「自治体がつくる学びの場～誰もが参加できる学びの場づくり」
 - ・第2分科会 「障害当事者のイベント参加報告会」
 - ・第3分科会 「もやもやわくわく働くことの当事者研究」
 - ・第4分科会 「生涯にわたる学びの Кейカクについて考える」
 - ・第5分科会 「学生Summit 共生社会にむけて」
- ④まとめ、閉会

令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

主催：北海道教育委員会 / 文部科学省
共催：医療法人稲生会

障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育

2022年2月5日(土)10:00~16:00@Zoom オンライン開催

9:45-10:00	12:05-12:00	13:05-13:10	15:15-15:10	16:00
開場(オンライン) 開会・趣旨説明	全体会	休憩 カフェサボッチャ	第1分科会 第2分科会 第3分科会 第4分科会 第5分科会	まとめ (全体会)

第一部 全体会

「ともに学び、生きる 共生社会」をつくるためには、障害のあるひと ないひと 誰でも参加できる学びの場や、障害についてともに学ぶことのできる場が必要です。このような「社会教育」の場が、北海道ではすでにたくさん生まれています。各団体からの報告を聞いて参加者全員で「見える化」し、北海道の中でさらに広げるためのアイデアについて考えます。いっしょにね!文化祭、医療のケア写真展、たすくゼミナール、苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会、名寄市社会福祉協議会市民ポッチャ交流会、北海道医療大学オープンカレッジ、みらいつくり大学校 などが報告を予定しています。

第二部 分科会

第1分科会

「自治体がつくる学びの場—誰もが参加できる学びの場づくり—」
障害の有無に関わらず、誰もが参加できる学習機会の充実に向けた行政の取組について、教育施策・福祉施策等の取組事例の発表や意見交流を行います。

第2分科会

「障害当事者のイベント参加報告会」
障害者と共に楽しむイベントについて、参加した障害当事者の報告から工夫や改善策を学びます。

第3分科会

「もやもやわくわく 働くことの当事者研究」
「働くことの当事者研究」を行います。障害の有無によらず、働くことの当事者として、ともに学ぶことを探究します。「働く」って、「もやもや」しませんか。

第4分科会

「生涯にわたる学びのケイカクについて考える」
ともに学ぶ共生社会における「生涯にわたる学びのケイカク」とは?障害のあるひとを取り巻く「計画」について教育や福祉の関係者と議論します。

第5分科会

「学生 Summit—共生社会にむけて」
この2ヶ月間、道内外の大学生たちがディスカッションを通して「共生社会」について考えました。その実現にむけた「アクション宣言」を共有します。

第三部 まとめ

第一部全体会の「見える化」を振り返り、各分科会で得た「ともに学ぶための視点」を共有します。北海道で、障害のあるひと ないひと みんなで学びの場を広げるために、私たちには何ができるでしょうか。

第1回(2019年度)、第2回(2020年度)の様子は**こちらから**

<https://futurecreating.net/conference/conference-5381/>



本企画の対象者は、障害者の学びや、障害の有無によらずにともに学ぶ場に関心のある人たちです。障害当事者やそのご家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPO その他関係団体に関わる方など、たくさんの方々の参加をお待ちしています。参加方法のご相談は、下記事務局までご連絡ください。

コンファレンス開催事務局

医療法人稲生会

011-685-2799

toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

お申し込みは裏面をご覧ください。

令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンスin 北海道 参加申込書

医療法人稲生会事務局行（担当：松井、宮田）

FAX: 011-685-2798

Mail: toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

QRコードをご利用ください

申込締切 2022年1月28日（金）

メール



<https://mailto.link/m8/45qggz>

Forms



<https://forms.gle/evMbPc312KQeXFw6>

FAXまたはメール、
Googleフォームでお申し込みください。

ご記入いただいた個人情報は本コンファレンス以外の目的
で使用することはありません。

フリガナ
お名前

ご所属
(職名)

ご連絡先

電話：

MAIL:

お住まいの
地域

例) 北海道 札幌市

分科会

第1希望

第2希望

備考欄

- ・ お名前、ご所属、ご連絡先を記入してください。
- ・ ZoomのID・パスコードは事務局よりメールで送信いたします。
アドレスは必ず正確にご記入ください。
- ・ 特別な配慮等を必要とされる方は備考欄にご記入ください。
- ・ 分科会については、下記の①～⑤のなかから第1希望から第2希望まで必ずご記入ください。
なお、分科会のご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。
各分科会の詳細は表面をご確認ください。

① 第1分科会

② 第2分科会

③ 第3分科会

④ 第4分科会

⑤ 第5分科会

お問合せ先



コンファレンス開催事務局 医療法人稲生会

住所：札幌市手稲区前田4条14丁目3番10号 電話：011-685-2799

Mail：toseikai@kjnet.onmicrosoft.com

コンファレンスは、Zoomミーティング・ウェビナーを使用して開催します。
使用方法等、ご質問があれば事務局までお問い合わせください。

今年度の準備の進捗や詳細については[こちらの特設サイト](#)をご覧ください →



「障がい 生涯学習」北広島市の取り組み

～共生社会の実現と障がい児者の学びの充実に向けて～



北広島市教育委員会 社会教育課
主任(社会教育主事) 古内 誠也

北広島市について P 1

- 人口 57,726人 (令和4年1月末日現在)
- 面積 119.05平方メートル
- 姉妹都市 広島県東広島市
- 市の木、花 かえで、つつじ



本当に住みやすい街大賞2021 in 北海道

新さっぽろ <small>(札幌市東区南一条)</small>	● 新琴似 (札幌市東区)	●
西28丁目 <small>(札幌市東区南一条)</small>	● 真駒内 (札幌市東区南一条)	●
北広島 <small>(北広島市)</small>	● 手稲 (札幌市東区)	●
	● 千歳 (千歳市)	●
	● 帯広 (帯広市)	●
	● バスセンター前 (札幌市東区南一条)	●
	● 苫小牧 (苫小牧市)	●



北広島市について

P2



北広島市について

P3

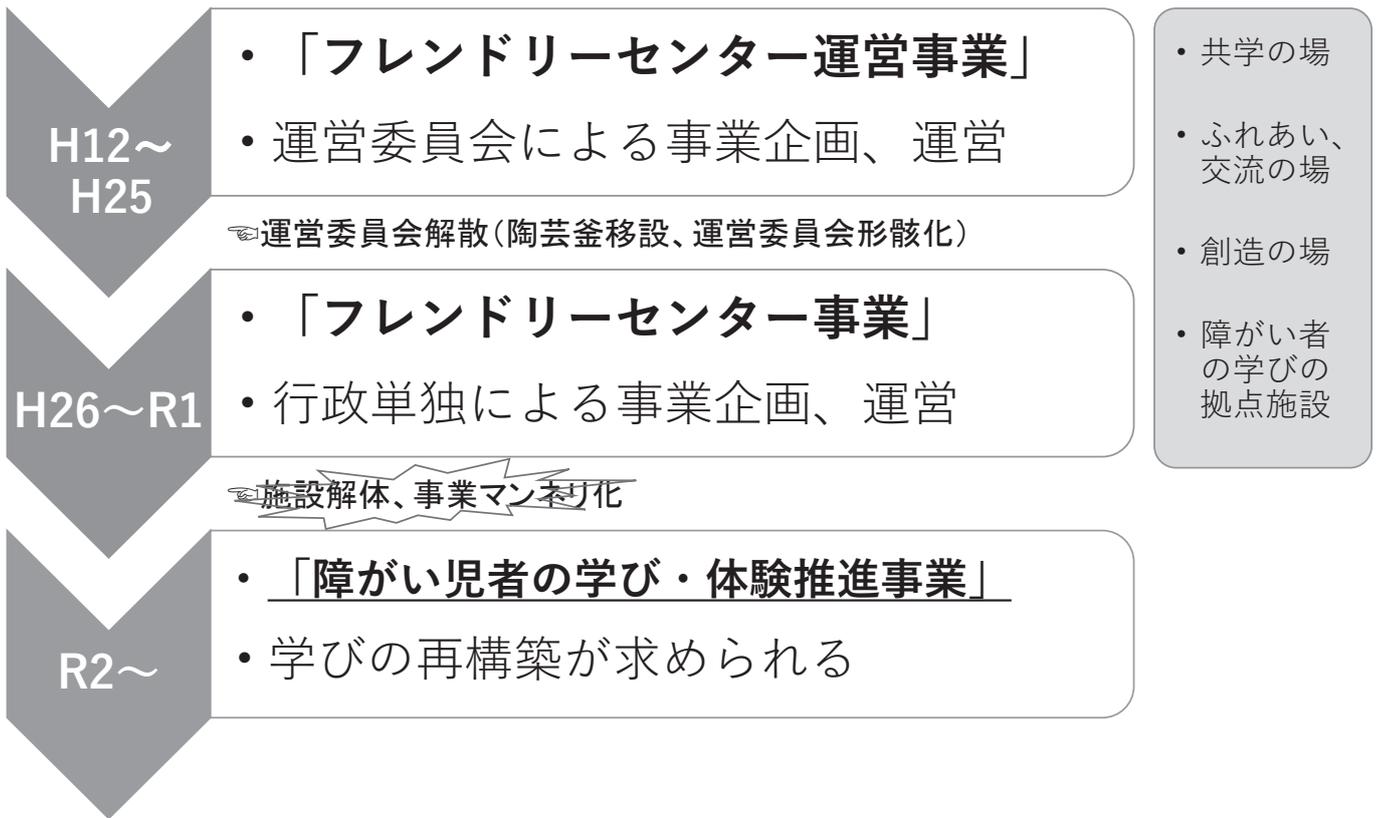
市内障がい児・者人数

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	合計	総人口	総人口割合
9歳以下	9	44	6	59	3,900	1.5%
10～19歳	28	147	47	222	5,655	3.9%
20～29歳	33	128	124	285	4,329	6.6%
30～39歳	57	120	201	378	5,202	7.3%
40～49歳	116	110	267	493	8,436	5.8%
50～59歳	203	61	241	505	7,767	6.5%
60～69歳	473	46	159	678	8,891	7.6%
70歳以上	1,783	31	250	2,064	13,967	14.8%
合計	2,702	687	1,295	4,684	58,147	8.1%
構成比	57.7%	14.7%	27.6%	100.0%		

資料：身体・知的障がいは北広島市調べ（令和2年4月1日）、
精神障がいは北海道調べ（令和2年3月31日）、
総人口は住民基本台帳（令和2年3月末）

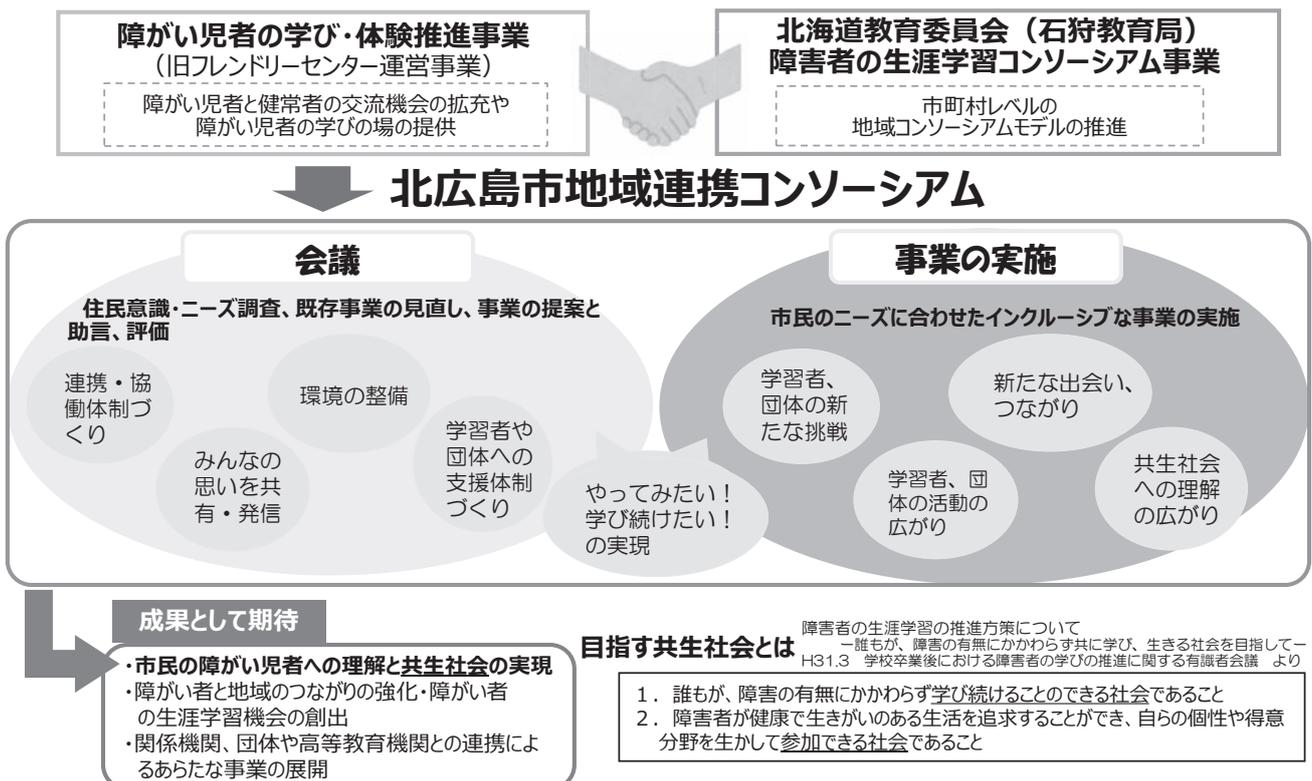
これまでの取り組み

P4



コンソーシアム事業とのコラボ

P5



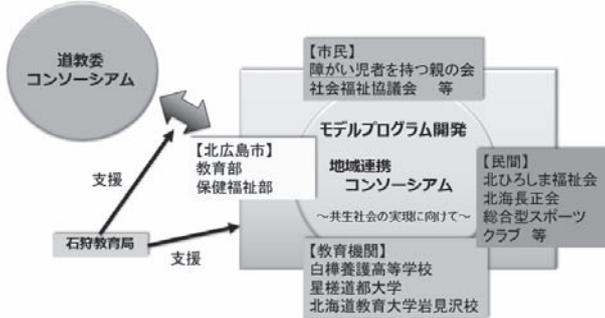
- ◆ H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障がい者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要となっている。
- ◆ 本市では、H12年より障がい児者と健常者の交流機会の拡充や障がい児者の学びの場として「フレンドリーセンター運営事業」に取り組んできた。
- ◆ 一方、事業プログラムの固定化、事業内容の改善・再構築に向け、関係機関団体等との協働の推進が必要となっている。

障がい者の生涯学習推進コンソーシアム事業

- ◆ 文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業（3カ年）」を道教委生涯学習課が受託
- ◆ 行政、民間、高等教育機関等による地域連携コンソーシアムを構成しフレンドリー事業の再構築を図る
- ◆ 研修会やコンファレンス、**モデルプログラムの開発等を実施**

北広島市モデルプログラム開発 ～フレンドリー事業の再構築～

<実施内容>



- (1) コンソーシアムへの参画
- (2) 地域の教育力と高等教育機関の融合によるモデルプログラム開発
 - ・地域の障がい者のニーズの把握
 - ・先進地視察
 - ・プログラム指導者等研修会の実施
 - ・障がい者向け、障がい者・健常者向けプログラムの実施・検証
 - ・成果・課題を共有（コンファレンス等）等
- (3) 社会教育のアプローチによる全体コーディネート
 - ・モデルプログラム開発に係る調整・参画
 - ・市内小中学校支援学級、近隣養護学校との調整・連携
 - ・社会福祉関係部局、団体等との連携
- (4) 石狩教育局教育支援課の協力・支援

(成果)

- ◆ 障がい者の地域とのつながりの強化、障がい者の生涯学習機会の創出などフレンドリー事業の再構築が図られる
 - ◆ 市民の障がい児者への理解と共生社会の実現に向け、関係機関・団体や高等教育機関との連携によるあらたな事業の展開
- ※併せて、事業推進のための社会教育主事のネットワーク形成能力、関係団体との調整力、説明力等、資質・能力の向上が図られる



自然と創造の調和した豊かな都市

1 基本構想の目的

この基本構想は、本市のまちづくりの基本的な方向性(まちづくりのテーマ、めざす都市像、基本目標、将来目標人口、ボールパーク構想^{※1})と連携した新たな価値の創造、土地利用、地区のまちづくり)及びこれを実現するための施策の体系からなり、令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの期間における総合的で計画的な行政運営を図ることを目的とした指針です。

2 まちづくりのテーマ

自然と創造の調和した豊かな都市

本市は、昭和45年度(1970年度)に広島町総合開発計画を策定して以来、「自然と創造の調和した豊かな都市」をまちづくりのテーマに掲げ、自然に囲まれた美しいまちなみの中に、市民が住み良さを実感しながら、いきいきと活動するまちをめざしてきました。

これからも、このテーマを継承し、「豊かな自然」、「利便性の高い都市機能」、「交通の要衝」などといった本市の個性を生かし、快適な生活環境の形成に努めるとともに、将来にわたって着実に成長する魅力あるまちづくりを進めていきます。

3 めざす都市像

将来にわたるまちづくりのテーマ「自然と創造の調和した豊かな都市」の実現に向けて、今後10年間の計画期間においてめざす都市像を、次のとおり設定します。

希望都市	だれもが希望を持って、輝けるまち 子どもからお年寄りまで多世代の方々が趣味、仕事、家族、友人などそれぞれの楽しみや喜びを持った生活を営み、すべての市民が希望を持ち、人が輝くまちをめざします。
交流都市	多様な交流が生まれ、にぎわいと活力にあふれるまち 観光、産業、教育、スポーツ、芸術文化などあらゆる分野において、国内外を問わず、多くの人々が行き交い、市民との多様な交流を創出することにより、にぎわいと活力にあふれるまちをめざします。
成長都市	未来に向かって、着実に成長するまち 緑豊かな充実した生活環境を維持・向上させるとともに、本市の歴史や様々な魅力に市民が誇りと愛着を持ってまちづくりを実践し、未来に向かって、着実に成長するまちをめざします。

※1 ボールパーク構想：市民連携プロジェクトとして、新球場地帯としたボールパークを整備することで、まちづくりの様々な分野に波及効果を生み出し、持続可能な都市経営と地域課題の解決を図る構想。



第1章 ともに歩み笑顔が輝くまち	第2章 学び合い心を育むまち	第3章 だれもが安全に暮らせるまち	第4章 住みよい環境にかこまれたまち	第5章 活力みなぎる産業と交流のまち	第6章 つながり成長するまち
1 子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 子育て支援・子育て環境の充実 2 幼児教育・保育、学童クラブの「量」の確保と「質」の向上 3 子どもの権利擁護の推進 4 子どもの貧困対策の推進 5 ひとり親家庭への支援 6 発達につながる段階からの支援 	1 学校教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 義務教育9年間の学びを支える教育活動の展開 2 豊かな心を育む教育の充実 3 確かな学力を育てる教育の充実 4 健やかな体を育てる教育の充実 5 特別支援教育の充実 6 社会の文化・課題に対応した教育の推進 	1 防災対策・災害復興の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 復興まちづくりの推進 2 防災対策の推進 3 自主防災組織の充実 4 治山・治水の推進 	1 都市機能の整備 <ul style="list-style-type: none"> 1 都市機能の整備の推進 	1 農業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 担い手の育成 2 農地の利用・保全 3 都市住民との交流 4 生産・流通の振興 	1 市民参加・協働の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 市民参加の推進 2 協働の推進 3 地域コミュニティの推進
2 高齢者福祉・介護の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 社会参加の促進 2 介護予防と自立の支援 3 介護サービスの充実 4 地域生活支援の充実 	2 学校教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 1 地域とともにある学校づくりの推進 2 教育環境の整備 3 学校ICT環境の整備 	2 消防・救急体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 消防体制の充実 2 火災予防の推進 3 救急救命体制の充実 	2 居住環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 住み替え支援・空き家対策 2 公営住宅等の整備促進 	2 工業の振興・企業誘致 <ul style="list-style-type: none"> 1 工業団地や各地域工業の支援・連携 2 地元企業の産業振興 3 企業誘致の推進 4 新たな産業集積の推進 	2 産学官連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 広域連携・官民連携の推進 2 大学等との連携
3 障がい福祉の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 地域生活支援の充実 2 社会参加の促進 	3 安心して学べる体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 幼児教育・家庭の教育力向上への支援の充実 2 教育相談体制の充実 3 地域が支える健全育成活動の充実 	3 交通安全・防災対策、消費者保護の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 交通安全の推進 2 防災対策の推進 3 消費者保護の推進 	3 公共交通の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 持続可能な公共交通網の形成 	3 商業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 商業団地や各地域商業の支援・連携 2 創業支援と経営安定 3 買い物環境の維持確保 4 地域への商業情報発信とつながり形成 	3 行財政運営の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 市民サービスの充実 2 効果的・効率的な行財政運営 3 健全な財政運営 4 公共施設の最適化 5 組織・職員の活性化
4 地域福祉の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 地域福祉推進体制の充実 2 生活困窮者への支援体制の充実 3 医療振興の推進 	4 社会教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 人を育む社会教育の充実 2 学び合う生涯学習機会の充実 3 学びと活動・活躍の循環 	4 平和・人権尊重社会、男女共同参画の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 恒久平和の希求と継承 2 人権意識の啓発 3 男女共同参画の推進 	4 道路環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 市内幹線道路・生活道路等の整備 2 ポールパークに関する遊歩道の整備 3 自転車道の整備 4 雪対策の推進 	4 商業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 商業団地や各地域商業の支援・連携 2 創業支援と経営安定 3 買い物環境の維持確保 4 地域への商業情報発信とつながり形成 	
5 健康づくり・地域医療の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 健康づくりの支援 2 医療体制の確保 3 国民健康保険事業の適正な運営 	5 スポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 健康で生きがいのあるスポーツ活動の推進 2 競技スポーツへの支援 3 スポーツライフの充実と環境整備 		5 水の供給・下水処理の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 安全・安心な水の供給 2 安定した下水処理 3 施設の強化・計画の更新 4 経営基盤の強化 	5 商業の振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 商業団地や各地域商業の支援・連携 2 創業支援と経営安定 3 買い物環境の維持確保 4 地域への商業情報発信とつながり形成 	
	6 芸術文化の振興 <ul style="list-style-type: none"> 1 だれもが参加できる地域文化の振興 2 創造と交流を生む芸術文化活動の展開 		6 環境保全の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 温暖化対策の推進 2 公害対策の推進 3 自然環境の保全・環境保全意識の向上 4 公衆衛生の向上 	4 雇用と就業環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 雇用機会の拡大 2 多様な働き手への就業支援 3 就業環境の充実 	
	7 歴史の継承と創造 <ul style="list-style-type: none"> 1 エコミュージアム構想の推進 2 文化財の保存と活用 3 新たな歴史の保存と活用 		7 ごみ対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 ごみの減量化・リサイクルの推進 2 ごみ処理体制の充実 	5 観光振興・シティセールスの推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 観光資源や地域人材の発掘・活用 2 観光客の受入環境の整備 3 観光コンテンツの創造とプロモーションの推進 4 シティセールスの推進 	
	8 読書活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 図書館サービスの充実 2 地域まるごと読書活動支援の充実 		8 緑の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1 緑化の推進 2 親水空間の保全 3 公園の整備 	6 交流・多文化共生の推進 <ul style="list-style-type: none"> 1 関係人口の創出・拡大 2 姉妹都市交流事業の推進 3 国際交流の推進 4 多文化共生の推進 	

第4節 社会教育の充実

現況と課題

「人生100年時代」、「超スマート社会(Society 5.0^{※1})」に向けて社会が大きな転換期を迎える中、より豊かに生きていく上で生涯学習の重要性は一層高まっています。市民一人一人が生涯を通して学ぶことができる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現が求められています。

市民が世代を超えて互いに学び合い、教え合う相互学習を通じたコミュニティ^{※2}の形成に向けた支援が求められています。

市民の様々な学習意欲に応えるため、学習ニーズを的確に把握し、意欲的・主体的に学習活動ができるよう、必要な情報の適切な提供に努める必要があります。また、現代的で社会的な課題に対応した学習機会や、市民個々のライフステージに応じた学習機会の充実を図るとともに、学習プログラムを工夫していく必要があります。

生涯を通じて自らの人生を設計し、活躍することができるよう、必要な知識・技能の習得、知的・人的ネットワークの構築や健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、学びと活動・活躍の循環を形成していく必要があります。

基本的方向

- 市民が学び合い、教え合う相互学習を通じ、コミュニティ^{※2}形成に向けた学習活動や体制づくりに努めるとともに、社会教育関係団体や市民の個性ある活動を継続するため、社会教育の充実を図ります。
- 生涯における学びや現代的で社会的な課題に対応した学習、ライフステージに応じた学習など、生涯学習機会の充実や、市民の主体的な学習活動に対する支援を図ります。
- 生涯学習・社会教育を効果的に進めるため、人づくりをはじめ、学びと活動・活躍の循環の形成を図ります。

施策

1 人を育む社会教育の充実 (SDGs: 4)

- 学びを通じたコミュニティ^{※2}づくりを推進するため、市民による相互学習の活動を支援します。
- 地域課題の解決や地域社会の維持・向上や持続的な発展に向けた市民の主体的な学習活動を支援し、市民と行政との協働による活動を推進します。

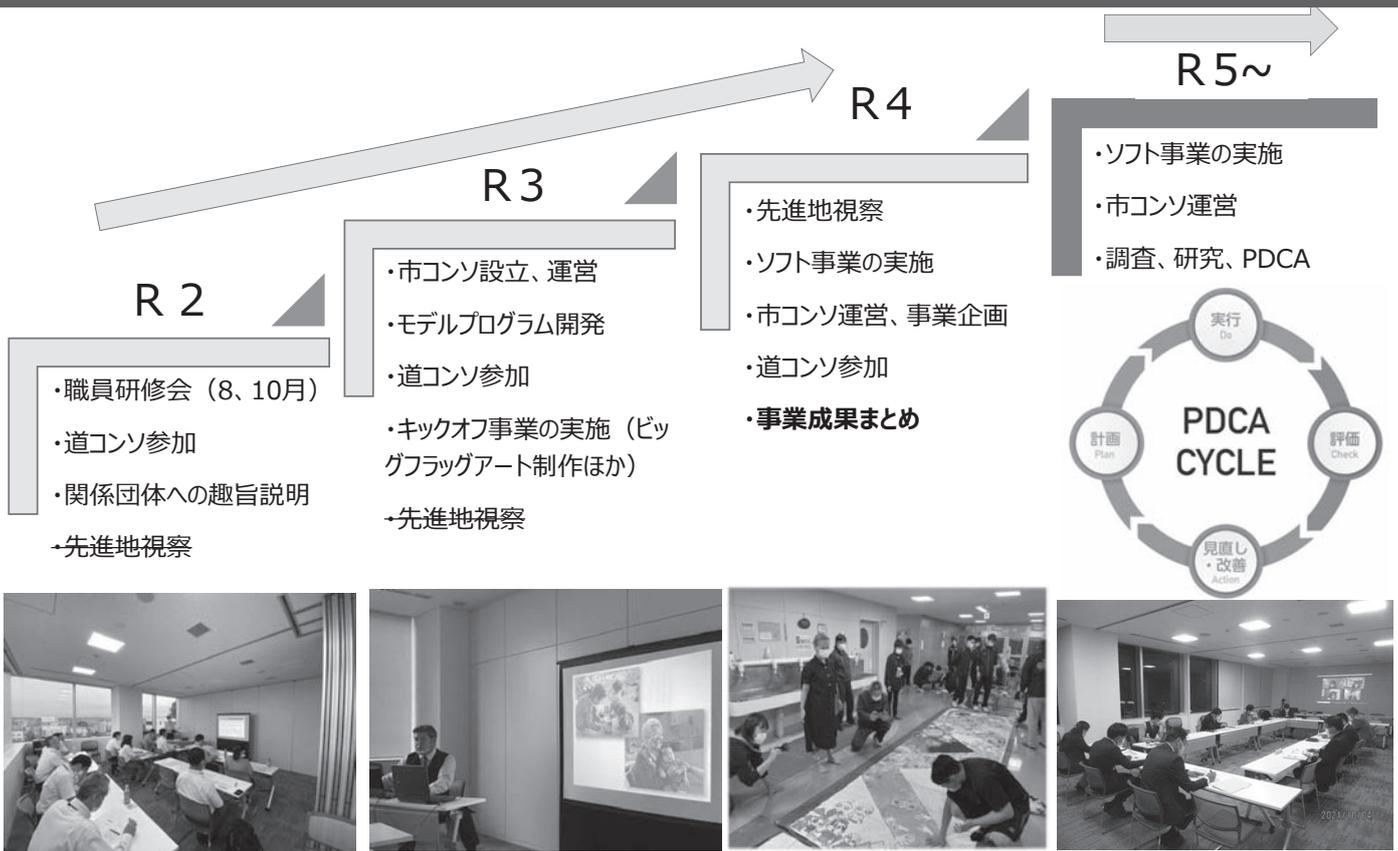
2 学び合う生涯学習機会の充実 (SDGs: 4)

- 市民やサークル団体の生涯学習の成果を生かす機会の創出を図り、市民の生涯学習に対する理解と関心を深める取組を推進します。
- 市民個々のライフステージに応じた学習ニーズを把握し、多様で豊かな学習機会の提供を推進します。

3 学びと活動・活躍の循環 (SDGs: 4)

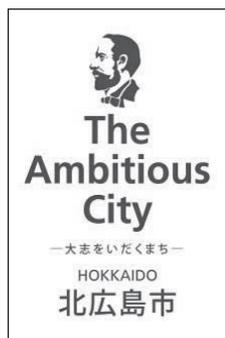
- 市民の学びを支える利用しやすい中央公民館の効果的な運営を進めます。
- レクリエーションの森の適切な維持管理を行うとともに、有効な活用方法や施設の整備について検討します。
- 社会教育関係団体等が実施する学びに関する情報の発信を通じ、学びの循環を図ります。
- 生涯学習に関わる団体相互の交流や地域間での交流を促進し、人と地域と団体がそれぞれのよさを生かして相互に結び合う「学びのネットワークづくり」の構築に向けた取組を推進します。

成果指標	現状値	目標値
「自然や地域、社会など様々な体験機会の充実」の満足度	63.8%(H30年度)	70.0%
「生涯学習活動の機会の充実」の満足度	63.3%(H30年度)	70.0%



ビッグフラッグアート制作事業

- ・市民による共生社会の実現に向けたアート作品の作成
- ・市民の共生社会実現に向けた気持ちをアートで表現、障がい児者・子ども・高齢者・大学生等 100人以上で「ビッグフラッグアート」にチャレンジ！！
- ・制作指導：Satoly（サトリー）

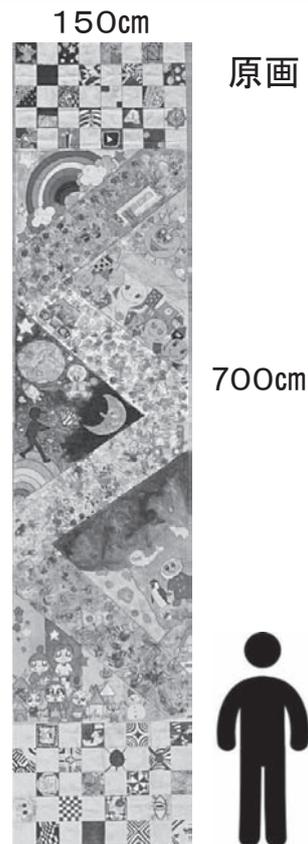


ビッグフラッグアート制作事業

P 12



懸垂幕(完成版)は文字も含め長さ10mになる予定



ビッグフラッグアート制作事業

P 13

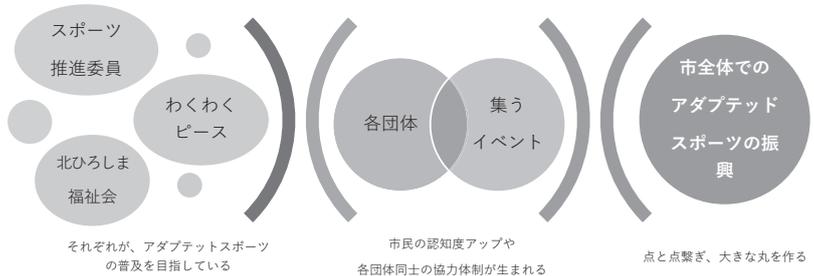
制作参加者（団体） 実績

日にち	曜日	時間	団体	人数		会場
11月5日	金	10:00~12:00	すみれ保育園	16	人	すみれ保育園
10日	水	10:00~12:00	社会福祉協議会	12	人	中央公民館
16日	火	10:00~12:00	北ひろしま福祉会	10	人	
		12:30~14:30	みらい塾	5	人	
19日	金	9:00~11:00	星槎道都大学	14	人	"
		12:30~14:30	みらい塾	3	人	
21日	日	10:00~12:00	しょうがい児者を持つ親の会	15	人	"
22日	月	15:30~16:30	北海道白樺高等養護学校	12	人	北海道白樺高等養護学校
12月6日	月	15:30~16:30	北海道白樺高等養護学校	50	人	"
8日	水	10:00~12:00	西の里きらきら保育園	15	人	西の里きらきら保育園
		13:30~15:30	地域サポートセンターともに	0	人	地域サポートセンターともに
			8団体	152	人	



スポーツでのアプローチ

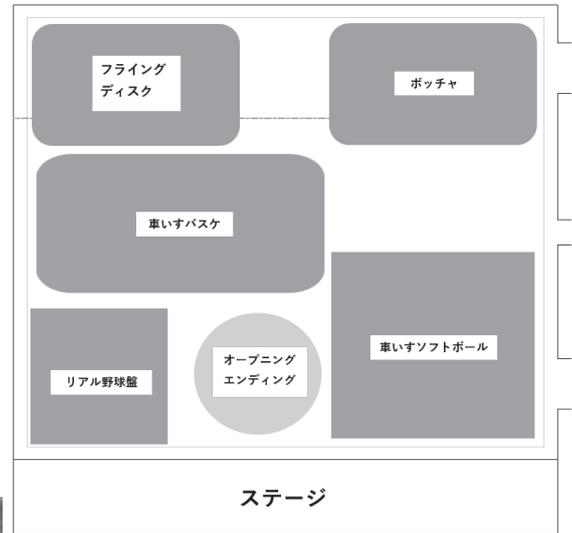
全市規模でのポッチャ大会 ※令和3年度はコロナにより中止



ボッチャ大会の代替案として、アダプテッド・スポーツ普及動画作成

総合体育館メインアリーナ

- ・アダプテッド・スポーツの認知度向上、普及を通じた学びの機会拡充を目的に映像を作成し、市HP、市公式SNSで一般公開する。
- ・札幌よしもと所属芸人2組がボッチャをメインとした様々なアダプテッド・スポーツを体験する様子を撮影
- ・種目：ボッチャ、フライングディスク、車いすバスケットボール、車いすソフトボール、リアル野球盤
- ・各種目の説明は、HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTSの子ども達が行う。



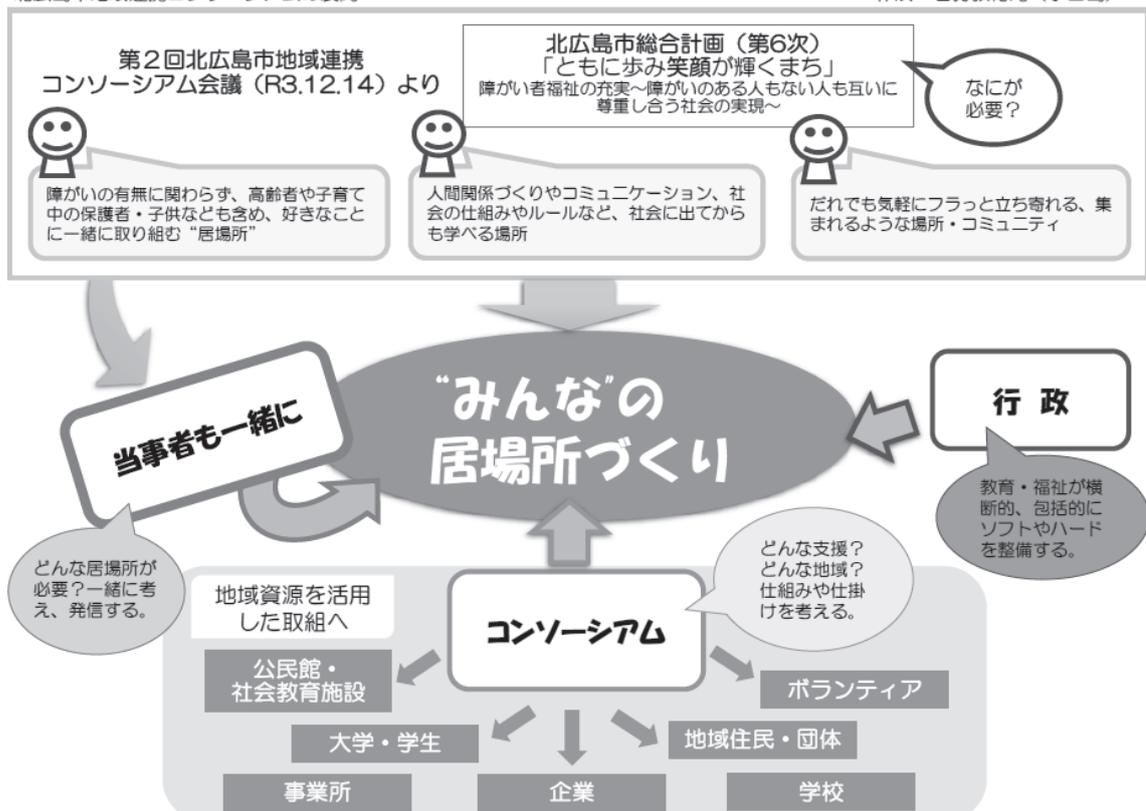
3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

コンソーシアムで見えてきたこと

北広島市地域連携コンソーシアムの展開

作成：石狩教育局（小田島）



ご清聴ありがとうございました。



みらい塾の子が共生社会を
想って描いてくれた絵 ¹⁹



いわみざわ アートアカデミー

主催 岩見沢市
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

【参加申し込み数：リアル会場 32名 + オンライン13名 計 45名】

①芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

②創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

③展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

④展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。



いわみざわ アートアカデミー

受講料
無料
定員30名

障がいのある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと、芸術の鑑賞・創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

- ① 芸術鑑賞学習会 岩見沢市公式YouTubeで随時配信
- ② 創作体験・創作学習会 11/10・11/24・12/1
「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ③ 展示技術学習会 12/15
「会場参加（いわみざわ）」または「オンライン」
- ④ 展示実践学習会 12/18～12/24
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

主催 岩見沢市
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

① 芸術鑑賞学習会 随時開催

作品の見どころや表現の工夫、作品に込められたメッセージなどを北海道教育大学岩見沢校の学生さん達に解説してもらい、「芸術文化を鑑賞する」ということについて学びます。

【配信予定内容】
岩見沢市健康福祉ホール 札幌正幸記念館展示作品、北海道教育大学岩見沢校sowfi-socui展示作品ほか
※岩見沢市公式YouTubeで随時配信

② 創作体験・創作学習会 随時開催 OR 会場参加

創作することの楽しさなどを講義で学び、様々な画材を使った創作体験を通じて、画材や画法、創作技術について学びを深めます。

講師 北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわみざわ」
またはオンライン参加

【11月10日（水）14時45分～16時30分】
講義 創作することの楽しさ
実技 ペン系画材を使った創作体験
鉛筆、色鉛筆、クレヨン、クーピー、パステル、木炭

【11月24日（水）14時45分～16時30分】
講義 作品を世に出すことの意義
実技 絵の具系画材を使った創作体験
水彩絵の具、アクリル絵の具、アquarel、油絵の具、日本画の具

【12月1日（水）14時45分～16時30分】
講義 様々な表現方法について
実技 色々の画材を使った創作体験
折り紙、クラフト、身近な素材を使った創作

③ 展示技術学習会 随時開催 OR 会場参加

装設や展示技術、展示空間づくりについて学び、作品の魅力を引き立たせる展示技術を身に付けます。

講師 教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわみざわ」
またはオンライン参加

【12月15日（水）14時45分～16時30分】
講義の基礎知識
● 展示空間づくり
● 様々な展示方法
● 作品の魅力を引き出す見せ方

④ 展示実践学習会 随時開催

アートアカデミーの中で制作した作品等を装飾色のアイデアを活かして展示します。

会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」
12月18日（土）～24日（金）

いわみざわアートアカデミー参加申込書

参加をご希望の方は必要事項をご記入のうえ、岩見沢市健康福祉課（※窓口）にお持ちいただくか、FAXでお送りください。Eメールの場合は、FAXに必要事項を記載して下記アドレス宛にお送りください。
FAX 0126-24-0294 Eメール fukuhik@f-humansou.jp 参加申し込み締切日 令和3年11月2日（火）

ふりがな氏名	参加にあたって必要な配慮にチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> その他
住所	
Eメール	
電話	
FAX	
②・③の学習会への参加方法 （どちらかに✓をつけてください。）	<input type="checkbox"/> 会場参加 または <input type="checkbox"/> オンライン参加 ※オンライン参加をご希望の場合は、ID等を後日メールでご連絡します。 なお、受講にかかる通信料等は自己負担となります。

【問合せ】 岩見沢市健康福祉部福祉課（担当：山田） ☎0126-23-4111（内線258）

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>
全3回（11月10日、11月24日、12月1日）
ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材



北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室の三橋教授・学生に講師をしてもらい、創作することの楽しさや画材や画法について学びを深めました。

パステルなどの初めて使う画材も、学生にサポートしてもらい、ぼかしやグラデーションといった技法に挑戦しました。講義の時間中に完成しなかった作品は持ち帰って完成させてもらいました。



アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>

全3回(11月10日、11月24日、12月1日)

ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材の使い方について



北海道アールブリュットネットワーク協議会さんや市内障がい福祉事業所のスタッフさんにも創作活動をサポートしていただきました。

会場の講義内容や創作活動の様子は、zoomを使ってオンラインで配信しました。zoomで作品を見せ合い交流する光景も見られましたが、画材を使うコツ等はオンラインで伝えるのはなかなか難しいものでした。



アートアカデミー開催の様子

展示技術学習会<リアル会場+オンライン>

12月15日

額装や作品の魅力を際立たせる展示方法について



額縁の構造やなぜ額装するのか、作品や会場によって様々な展示方法・見せ方ができることを学び、自分の作品の額装に挑戦しました。

額装の仕方もzoomで配信しました。



アートアカデミー開催の様子



アートアカデミー展示会

12月18日（土）～24日（金）10時～16時
北海道教育大学岩見沢校
「森の岩ギャラリー」

参加者が創作し、自分で額装・展示の準備をした作品を教育大学キャンパス内「森の岩ギャラリー」に展示しました。会場内では、アカデミーでの創作の様子などをスライドショーにして来場者にご覧いただきました。

障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「創作の時間が短かった」、「回数をもっと増やしてほしい」との意見も。

→新型コロナ感染拡大防止の観点から、講義の時間を短めに設定したがコロナの情勢に影響を受けないようなプログラム構成の検討が必要。また、障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、コース分けの検討も必要と思われる。

オンラインで講師の説明を聞いても分かりづらかったので、あらかじめオンライン用の映像を用意してほしい。

→オンライン配信の内容や方法、事前準備は今後さらに検討・研究

「芸術文化を学ぶことについて関心が高まったか」との問いにはほとんどの参加者が「高まった」と回答。

→成果を一過性のものとしないうちにも、継続的に学びの場を作っていくことが必要と考えるが、ゆくゆくは、障がいのある人が自発的に学びを深めていけるような支援の方法を検討していく必要がある。

第8回いっしょにね！文化祭開催報告

障がいのあるひと、ないひと、
いっしょに楽しむ発表会

いっしょにね！文化祭実行委員会事務局
杉澤洋輝

1

三角山放送局のおきて

★ステーションコンセプト「いっしょに、ねっ」

- ①伝えたいことがある人がマイクの前に座ること。
- ②お年寄り、子ども、障害のある人、LGBTの人、外国人、少数者や弱い立場の人たちの声を、決して切り捨てず、積極的に届けること。
- ③放送で嘘はつかないこと。



⇒誰もが思いを発信できる
放送局を作ろうとした

2

「いっしょに、ね」の精神

★おきて②: 社会的少数者の声を、決して切り捨てず、多様な意見を積極的に届けること。

- ◇視覚障害者がパーソナリティ「耳をすませば」「音を頼りに音便り」
- ◇さっされん(地域共同作業所)の利用者が出演「飛び出せ地域共同作業所」
- ◇車いすユーザーがパーソナリティ「飛び出せ!車イス」
- ◇パーソナリティがLGBTQ「ハッピーゲイアワー」「にじいろスマイルラジオ」
- ◇英語・中国語・韓国語だけで放送「サツポロ・ナビゲーション」
- ◇札幌刑務所受刑者のリクエスト番組「苗穂ラジオステーション」
- ◇乳がん早期発見、早期治療を呼び掛け・がん患者応援番組
「ピンクリボン」
- ◇ALSと闘病するパーソナリティによる「 のたわごと」
- ◇障がい者スポーツ、パラスポーツ情報発信番組「パラスポ!三角山」

3

三角山放送局は「いっしょにね」における 放送と福祉をどう考えたか・・・

- ・ 地域社会は福祉を抜きに考えられない
 - ・ 地域福祉課題を伝え、議論の場を提供していくのは、コミュニティFMの使命
 - ・ 少子高齢社会、人口減少、単身世帯急増、貧困、社会的介護、生活保護をめぐる問題、児童虐待、DV、がんサバイバー、自殺増、孤独死等
 - ・ 無縁社会から有縁社会へ
- ⇒ 誰もが日常的に伝えられる場づくりが重要

4

●「耳をすませば」初代パーソナリティ:

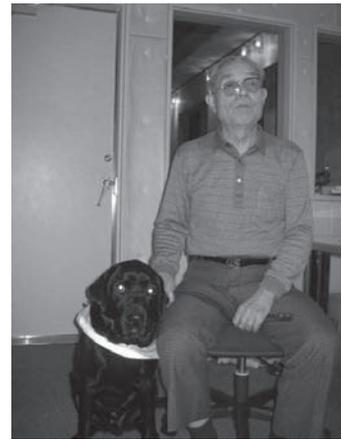
福田浩三さんと盲導犬のセディくん

福田浩三さんは、網膜色素変性症により40代で光を失い、開局時より番組を担当してくれました。2005年頃から盲導犬セディくんと共に放送局へ通っていました。

盲導犬育成の寄付を目的とした「盲導犬チャリティわんわんコンサート」

を自ら提唱し、放送局とともに3回開催、実行委員長を務め、このイベントは、「いっしょにね！文化祭」の基礎となりました。

2013年10月逝去。番組は有志の皆さまのおかげで現在も継続し、「いっしょにね！文化祭」の仲間たちの番組としても機能しています。



5

ねんりんピック北海道・札幌2009
三角山放送局・FMアップル Presents

おとなの文化祭 出演者募集!

2009年 9月6日(土) 14:00~16:00 (公開収録) 会場 北海道立総合体育センター
9月7日(日) 出演時間(演壇中) 新設演壇

応募資格: ソロ、デュオ、グループ、団体、サークルで活動している文化で楽しむ皆様
募集ジャンル: ●楽器(鍵盤アンサンブル、コーラス、各種など) ●演劇(落語、講談、漫才、時評、郷土芸能、ダンス、舞踊など)
出演方法: 演壇の出演申し込み用紙に必要事項を記入し、写真と併せて三角山放送局に郵送するか本人で応募ください。
募集期間: 5月10日(土)~6月30日(木) 必着
出演者の決定: 出演オーディションによる選考の上、出演者を決定します。結果は、通信各個人グループへ連絡します。各出演者を発行権限があります。
応募オーディション: 7月中旬予定
郵送先: 三角山放送局 企画課 100-0001 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 17号室

申し込み用紙は裏面へ➡

2009年 ねんりんピック
北海道・札幌2009
「おとなの文化祭」企画制作

2011年 福祉作業所展示も！ 地域の芸達者大集合「おとなの文化祭」主催

地域の芸達者集合!
「三角山 いっしょにねっプロジェクト」
三角山一庫 若狭目公演

おとなの文化祭 出演者・募集中!

2011年 12月17日(土) 13:00(開演)
会場 札幌市生涯学習センター「ちえりあ」ホール
(札幌市東区宮の森1丁目1番10号)参加費 「おとなの文化祭」参加費 1,000円
入場チケット 2,000円
(この日の会場へ入場1枚の入場チケットが必須です)申込資格: 個人・グループ、団体、サークルで活動している幅広い皆様。
募集ジャンル: ●楽器(鍵盤アンサンブル、コーラス、各種など) ●演劇(落語、講談、漫才、時評、郷土芸能、ダンス、舞踊など)
申込方法: 演壇の出演申し込み用紙に必要事項を記入し、写真と併せて三角山放送局に郵送するか本人で応募ください。郵送先は三角山放送局に郵送してください。
募集期間: 9月10日必着
出演者の決定: 10月上旬(詳細は別途お知らせします)。「おとなの文化祭」参加費は「三角山一庫」への登録が必須です。福祉作業所参加、出演者も決定します。結果は各自個人・グループへご連絡します。各出演者を発行権限があります。
申込用紙: 1枚1,000円(1枚1,000円)の登録費と送料が必須です。
申込期限: 12月10日(土)15時迄(当日15時迄)までです。
※三角山「いっしょにねっプロジェクト」は内閣府「地域福祉推進事業」の実施を目的として行われています。

申し込み用紙は裏面へ➡

6



2012年 放送大学北海道学習センターと共同で
「みんなの文化祭」を札幌・函館・帯広で開催

7

いっしょにね！文化祭へと発展

- 2014年、第1回開催。北翔大学との共催。



タイトル：「いっしょにねっ！文化祭 in SAPPORO」

趣旨：障がい者と健常者が一緒に参加する生涯学習発表の場。音楽・舞踊などステージ発表と、作品展示や販売などを行い、文化芸術を通じて生涯学習の実現の場とする。主催：実行委員会 事務局：NPO法人三角山

8

いっしょにね！文化祭の特徴

- 多様な人たちが同じステージでパフォーマンスを繰り広げる文化発表会。
- 理念は「いっしょに、ねっ」:テーマは相互理解
- 異なる団体やサークル間の連携ステージも活発に行われ、よりお互いを知り合う
- 当事者団体、行政、大学、医療機関、企業、NPOなど地域における多様なプレイヤーが集結。
- 北海道、札幌市などの助成、民間団体の助成、企業からの協賛金によって経費を工面。

9

これまでの歩み

・ダンス、歌、バンド演奏などのステージパフォーマンスのほか、絵画や工芸品などの作品展示を実施。文化祭開催当初の舞台発表では、参加団体それぞれのパフォーマンス発表のみでしたが、4回目の平成29年度からはコラボレーションが可能な団体同士が共同して新たなパフォーマンスを創作、発表したり、ラストには全員参加の「合同パフォーマンス」をおこなうなどその取組は年々進化しており、当日は、参加団体や来場者間での交流がさらに深まる、きっかけづくりの場にもなっています。



10

いっしょに、ね社会の醸成

●文化祭の開催に向けて、出演者ミーティング（事前発表会）や実行委員会を重ね、準備段階から障がいの有無にかかわらず、出演する人たちが交流を深め、一緒に楽しみ、助け合いながら作り上げています。

●障がい者の文化活動への参加意欲の喚起はもとより、健常者の障がい者に対する理解の深化、障がいを持つ当事者と支援する各団体を繋ぐ貴重な交流機会の場としても、共生社会の形成という面で大きな貢献を果たしています。

●さらには、この文化祭の来場者や地域の各種団体から、地域のさまざまなイベントやお祭りへの参加を打診されるなど、お互いを認め合う共生社会のきっかけづくりに寄与しています。



11

第7回・8回はコロナ対策を考慮しての実施となりました

- 第7回（2020.10.3）、第8回（2021.10.2）観客制限ありのリアル開催と、オンラインとのハイブリッド開催となりました。



12

リモート出演で参加形態も多様に



ニュースタイルでの「いっしょにね！文化祭」を実現

- ①リモート参加の新形態:より多くの方に参加いただけた
- ②ステージ台を設けずフラットにし、空間を広く使えた
- ③ 時間 分⇒ 時間 分となり、出演者もお客様も間延びせず集中して参加できた

13

YouTubeでのアーカイブ視聴増

検索

いっしょにね！文化祭
チャンネル登録者数 77人

ホーム 動画 再生リスト チャンネル

アップロード動画 ▶ すべて再生

第8回いっしょにね！文化祭
【アーカイブ】
1890 回視聴・4ヶ月前に配信済み

第7回いっしょにね！文化祭
【アーカイブ】
2116 回視聴・1年前に配信済み

第8回では「事前収録、リモートでのLIVE中継出演」がおよそ半数。収録参加ではさらに大人数での参加、工夫趣向を凝らした映像があった。通常開催よりも会場のにぎわいは減ったが、参加形態の多様化が図られ、新たな可能性がみられた。換気による休憩時間も出展・作品展示コーナーの紹介を入れ、YouTubeの進行もよかった。さらにどうつながりを広げていくか、いかに持続可能な場にしていくかなどが課題です。

14

三角山放送局の地域メディアとしての役割

地域をかき混ぜ、新しい価値を創出すること

⇒ひとを放っておけない社会にするために。

「地域内の多様な組織・団体・ひとの相互連携を通して、暮らしの中に生まれる問題を取り除くための情報伝達者であり、議論の場の提供者であること」

「いっしょにね！文化祭」もその活動のひとつ



自分の障がいについて

カムイ大雪バリアフリーツアーセンターの三田地です。よろしくお願いします。
自分は26年前ドライブの帰りに助手席に乗っていて交通事故で首の骨が折れて神経が切れたので
頸椎損傷になり四肢麻痺で手足が麻痺して胸からは感覚がなく手は動きますが両手は握力が0です。

次にイベント参加の不安ですが移動での悪路な道、段差や登り下り坂など雨の日や車いすトイレがあるのかなどです。
誰かのサポートがないと参加できないという不安があります。



毎年行われているサンロク祭りでは露店やUD神輿を車いす紅蓮隊で行われてきましたがコロナ渦で2年、開催されてません。車いす神輿は年齢、障がい有り無し関係なく誰でも参加できるようにお神輿には工夫されてます。世界に一基しかないUD神輿です。お神輿には車輪がついていて車いすユーザーや視覚障がいの方でも段差や坂道を介助してくれるので一緒に担いで楽しめるイベントです。露店ではチーム紅蓮の露店で焼き鳥やビールなど販売をして賑わいました。サンロク街周辺のホテルではトイレを使わせていただき良かったです。



相田奈美(27歳) 病名:骨形成不全症(骨が弱くて折れやすい病気)
小さい頃は外出も、あまりできずに過ごしてきました。



さんろくまつりに参加した時は、いろいろな方と交流をしました。初めて行った時は人混みに驚き、歩いている人の足を車輪で轢かないかドキドキでした(笑)



旭川北彩都ウォーキングの集い
自然を感じながら仲間達とお散歩しました。外なので、砂利道、段差などはボランティアの方などに押しってもらったりしました。



雪あかり、とても寒いですが(笑)冬しか楽しめない、味わえない景色や楽しさもあります！真冬こそ出歩くのが厳しい車いすユーザーですが、冬だからこそ、アクティブにイベントにも参加していきたいなと思います！

ユニバーサルベットとは



子どものおむつ替えだけでなく、高齢者、障害者等を含む、より多くの方が共用でき、多目的に利用できる大型ベッド・大人用ベッドのことです。大きい施設に車いすトイレが2個あった場合、一つだけユニバーサルベットが置いてある事が多いです。

車いすから見る イベント参加

堀楓香

自己紹介

堀 楓香
北海道札幌市在住。小さい頃から
ずっと地域のなかで育ってきた。
電動車椅子ユーザー。音楽と洋服が大好き。
24時間介助を受けながら、一人暮らしを
満喫している。
好きな服を着て出かけるのが楽しみ。
「全力で楽しく！」をモットーに生きている。



私は
ライブ参戦
トークショー
演劇
イベントに参加することが大好き！

しかし
イベントに参加する際、会場によって
参加しづらい環境がある。

例えば

- ・入口に段差がある
- ・イベントによって
介助者の料金もかかる
(自己負担)
- ・一人で参加した際の
サポート拒否

私がイベントに参加するときの流れ

- 運営側に電話する
- 車いすと知ると慌てる
 - 一人で参加と話すと
 - サポートできないと言われる
 - 承諾してやっとなら参加できる

障がいがある人が参加することは
運営側にとって前提にない！

そのため、 参加しづらくなる当事者もいる



私がイベントに参加して感じたことは…

嬉しかった対応

- ライブに参加した際、
- ・会場スタッフがグッズを買うのを手伝ってくれた
 - ・入口に2段の段差があったが、躊躇せず車いすをおろしてくれた
 - ・何回かライブに参加していたため、顔を憶えていてコミニケーションが円滑に進んだ

何度も参加して
顔なじみになると、
相手の“緊張感”が
和らぐ？

もやもやした体験

- トークショーに参加した際
- ・車いすと伝えた時に過激に配慮しなければならなかった
 - ・介助者が付き添わないと伝えると、スタッフはサポートできないと言われた
 - ・運営側の配慮が少なかった
- (サポート体制が必要だと思ったのが、同じ会場にいた友人のそばに席を用意しますか？と提案された)

↑友人は別の人とイベントに参加していた
同じ会場にいるとはいえ、それぞれの楽しみ方がある。
友人だから隣にいないといけなとは限らない。

なぜ一人で参加するのか？

ライブ、トークショーは
介助者分の費用がかかる

一方、美術館や
博物館は
介助者無料または
割引がある

この違いは
何なのか？

介助者分の料金がかかるとか、かからないかは主催者側の判断が多い。定まっていない。



お互いに事情を知ること、
捉え方が変わる

当事者側の視点

- ・介助者は自分のサポートする役割
2人で1人分と考える

主催者側の視点（予想）

- ・同じ空間、同じ物を見てい
るから1人のお客様として見
ている
- ・2人分の料金を取る

一人で参加した際、「手伝ってほしい」と声をかけられても身構えないでほしい。身近な人の落とし物を拾う感覚で！

障がいがあっても娯楽を楽しみたい！
でも毎回2倍の料金がかかると生活に響く。
どうすれば良いのか？

障がいがある人がイベントに参加する、かもしれない
ということが前提にあれば
もっととスムーズに参加することができる！

そのためにも、話し合いを重ねていき
当事者がイベントに参加しやすい環境を
整えていく必要がある

介助者分の料金を負担してくれる制度
が欲しい



生涯学習における「わたしとみんなの しょうがい学習ケイカク」の可能性

2022.2.5

ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンファレンス in 北海道

第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

みらいつくり研究所 所長／医療法人稲生会 理事長 土畠智幸

brotom1977@gmail.com

本人のニーズを踏まえた、学びに関する相談支援体制づくり

H31.3 障害者の生涯学習の推進方策について 第3章 障害者の生涯学習を推進するための方策 4. 障害者の学びを推進するための基盤の整備

- 特別支援教育を受けている児童生徒については、在学中は学校において**個別の教育支援計画**が作成される。卒業後も生涯にわたる学習支援がなされるように、個人情報保護の観点に留意しつつ、**個別の教育支援計画**を進路先の企業や福祉施設等へ適切に引継ぎ、活用していくことも重要である。
- 平成30年度の障害福祉サービス等報酬改定にあわせ、障害児相談支援については（中略）**教育機関等の職員と面談**等を行い、必要な情報提供を受け協議等を行った上で**サービス等利用計画**等を作成した場合に、加算が行われることとなった。このことも契機として、**在学中から**教員が福祉の相談支援に携わる職員との連携を強化し、**サービス等利用計画**作成などの障害福祉サービスの利用の流れについて、教員や本人・保護者等の理解を深めていくことなども期待される。

2つのカリキュラム観の比較

Macfarlane (1978) による成人識字教育に関する分析

	伝統的カリキュラム観	学習者中心カリキュラム観
プロセスにおける学習者の役割	外部から定式化されたことや外的ニーズの受動的な受け手	自ら最終目標を設定していく能動的な参加者
識字獲得のプロセス	技能や進歩の段階に応じた階層的なもの	全体的で、課題中心的なもの
学習者についての成人教育テューターの見識	収奪され、ハンディキャップをもつ（それゆえに劣位の）存在	失敗を非難されることのない対等な存在
学習者の自己イメージに与える影響力	相対的に重要度が低い。技能の進歩という副産物がある	意図的に自己イメージが高められる
成人教育テューターに対する学習者の見方	「自分を矯正してくれる専門家」	「自分が問題を解決するのを助けてくれる友人」
危険性	依存性が強くなる。技能を実生活に転移することによりかなり懐疑的である	学習者や学習体系などの概念が崩れ、進歩の判断基準が不明瞭になる

ピーター・ジャーヴィス著、渡邊洋子／犬塚典子監訳. 成人教育・生涯学習ハンドブック. 明石書店, 2020, p.337表



わたしとみんなの しょうがい学習ケイカク

- 2021年10月～ 試行
- 対象者（協力者）：みらいづくり哲学学校のレギュラー参加者のうち5名
- 形式：Googleドキュメント
- 記載内容：①わたしのこと（普段の自分、仕事、通ってきた学校など）、②みらいづくり大学校で定期的に参加している講座と参加開始時期、③わたしの生涯学習の歴史、④いまの興味関心、⑤いま気になるキーワード
- 活用方法：1人1ドキュメント、本人（わたし）がケイカクを記載、追記していく。他者（みんな）がコメントに入力、それに対して本人や他のみんなが返信していく。ドキュメントにコメント・返信が追加されたときはGメールに転送される。

みらいつくり大学校
FUTURE CREATING UNIVERSITY

わたしとみんなの生涯学習ケイカク

わたし：土島智幸

ケイカク開始日：2021年10月24日

わたしとみんなの生涯学習ケイカク（みんなはコメントに追加をお願いします）

わたしのこと（首段の自分、仕事、通ってきた学校など自由に書く）

- ・医療法人稲生会：理事長として運営・経営。臨床医としてときどき訪問診療
- ・北海道教育委員会/札幌市教育委員会 医療的ケア指導医；北海道立の特別支援学校、札幌市立の特別支援学校および地域の小中学校を巡回指導
- ・みらいつくり研究所所長；みらいつくり大学校のオンライン生涯学習活動の企画運営
- ・北海道科学大学客員教授；2020年度～理学療法学科・診療放射線学科合同の「生命倫理学」を担当

みらいつくり大学校で定期的に参加している講座と参加開始時期

- 哲学学校（運営担当）
- お手話べり（運営担当）
- アイヌ語講座（運営担当）
- 読書会
- 映画同好会
- THIS IS US同好会（運営担当）
- 宗教学講座

歴史	日付/年度	わたしの生涯学習の歴史
	1997-2002	北海道大学 医学部

和田敦 11:27 11月1日

医学・医療に特化した学問ですか？興味深いです。

Tomoyuki Dobata 14:05 11月1日

「生命倫理」は、安楽死・尊厳死とか、人工妊娠中絶とか、生殖医療とか、「生命」に関わる「倫理」（どのようにすべきか）を考える科目で、医療系の学部では必須科目になっていることが多いです。他に「医療倫理」というのが別の科目になっていることもあって、そちらは治療とかに関係する内容とか、医療者-患者関係とかに関する内容が多いですね。

		人新世の「資本論」（斎藤幸平）を読む
		「資本論」（六月書店）「マルクス資本論」「マルクスとエコロジー」（佐々木隆治）「大洪水の前に」（斎藤幸平）を読む予定
		「資本論を読む」に参加
キーワード	日付け	わたしがいま気になるキーワード
	2021.10.29.	〈コモン〉と〈コミュニズム〉・「集団移転」
		〈アソシエーション〉・「小泉」・「シン・エヴァ第三村」
		マルクスとエコロジー・「物質代謝」

ここ、悩んでます…。『存在と時間』の続きとしての『現象学の根本問題』（木田元訳）をやってもいいのかも…と…。『存在と時間』は「ただいまハイデガー」でもやっているの。

和田敦 14:40 11月24日

私、木田元さんの（俄か）ファンです？！？ので木田元さんが『存在と時間』の構築で未刊部（本編）を見通していたってこと、気にしていました。『現象学の根本問題』は、知識ゼロですけど『存在と時間』の続きってフレーズには、反応してしまいます。「岩波」で別の景色が見られるかも？！って期待もありますが、

Tomoyuki Dobata 12:19 11月24日

これ、いつか詳しく聞きたいです

和田敦 14:40 11月24日

哲学学校していると、「集団移転」に「マルクス（資本主義）」が絡んで、今度は「古代ギリシア」の「ヘレニズム（グローバリ化）」が絡んで来て、面白くてしょへがない!! デス。

4 通の返信をすべて表示します

和田敦 8:35 11月25日

「人生の授業」入手してしまいました。。古代ギリシア・ローマ時代の奴隷の概念が変わりました。1960年の映画『スリレックス』観なおしたら面白かったです。（けど休憩アリの3時間、）

Alt+/

興味関心	日付け	わたしのいまの興味がある分野
	2020.6~	スマートホーム化計画 (一通りできた)
	2020.6~ 2021. 2	料理・お菓子作り (一通り作って飽きた)
	2021. 1	3Dプリンター買った
	2021.3~	化粧の仕方を模索 (介助者への指示の難しさ・自分の思い通りにならないレベルの高さ・介助者の手技によるクオリティの差・自分も理想とする方向性が分からず停滞中。純粋に時間もなく面倒くさいこともある)
	22.1	小さくて使いやすいマウス探し、ゲーム、アニメ、漫画、イラスト、ドラマ
キーワード	日付け	わたしがいま気になるキーワード
	2022.1.12	マイクロアグレッション
		障害、多様性、共生社会、アライ、生産性
		自己肯定、自己肯定感
		支援、支援者と当事者の関係性

Tomoyuki Dobata
8:48 1月18日

1日3食ずっとやってたら確かに飽きるかもね (笑) 「又ニユー考えるのめんどくさいからヘルパーさん考えて下さい」とかは無しなの？

Ami
14:19 1月18日

ありだしそうしている人もいますみたいですが、介助者が冷蔵庫の中身の把握するところから始まり、また新たなコミュニケーションの手間 (このいい方は語弊もありますが) が増えるのが面倒で、やってないです。私の冷蔵庫は、決まったメンバーしかなくて、何かを作ってもらうのは難しいかもしれませんが (笑) 常備している作り置き冷凍か、冷凍食品か、魚焼くかの選択肢から選ぶことで落ち着きました。
一柳を表示

Tomoyuki Dobata

ニユーを検索 (Alt+/)

ケイカク開始日: 2021 年 10月 20日

わたしとみんなの生涯学習ケイカク (みんなはコメントに追加をお願いします)

わたしのこと (普段の自分、仕事、通ってきた学校など自由に書く)

30代!

みらいつくり大で定期的に参加している講座と参加開始時期

哲学学校 2020年10月

歴史	日付け	わたしの生涯学習の歴史
	2009	修士課程修了
	2009-2015	おもに倫理, 論理への関心から哲学に関心を持つ
	2015-	哲学カフェ, 死生学カフェ, 哲学カフェ@富士 参加, 世話人になり, 対話的探究について学びはじめる.
	2016-	静岡大学竹之内研究室ゼミに出席しはじめる
	2016.4.16-	友人との輪談会開始

Tomoyuki Dobata
15:42 1月29日

密かに追加されてた！めっちゃウケました(笑) それにしても、哲学学校始めて以来の衝撃だったな...

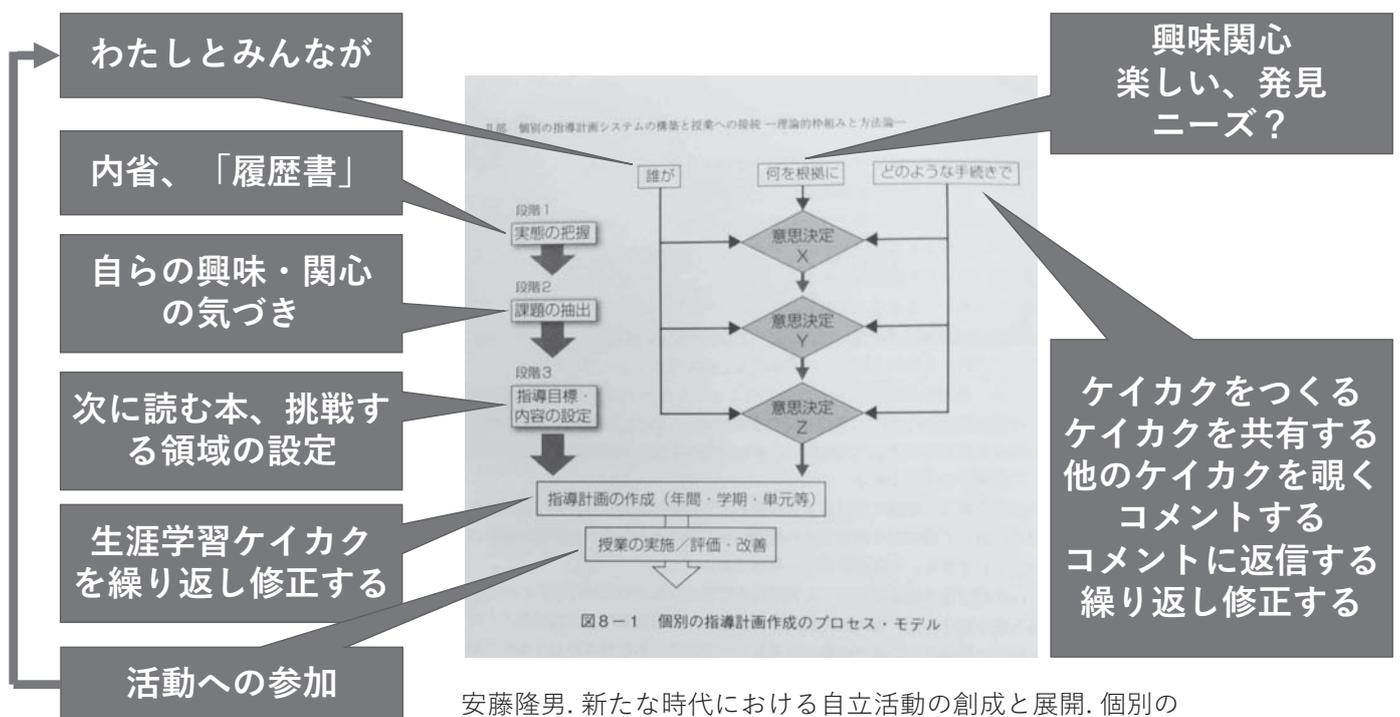
参加者の感想

【良い点】

- 他の人の興味関心を知ることができて面白かった
- 他の人からのコメントがつくと嬉しかった
- 人のケイカクを覗くのが面白い
- 「プライベートな学習」を共有。「見られるプレッシャー」を楽しむ
- 自分の内省のためのツールになった。「学びの履歴書」という感じ
- 「新たなSNS」という感じ
- 独学では難しいことも他の人と一緒に学べるという感覚がある
- ケイカクによって思いもしなかった学びに取り組むことになるなど、計画外のことがたくさん起きた

【課題と展望】

- 計画をつくることが強制されるとよくないと思う
- 知らない人のケイカクをどう見るようになるのか興味がある
- 重症心身障害者など言葉を用いることが難しい人はどうするか



ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンアレンス in 北海道 2021

全体テーマ：「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育
第2部 第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

『福祉における個別の支援計画』

令和4年2月5日(土) 13:00-15:00

相談室 あんど 管理者
作業療法士・社会福祉士
伊西 夏恵



話題 1.

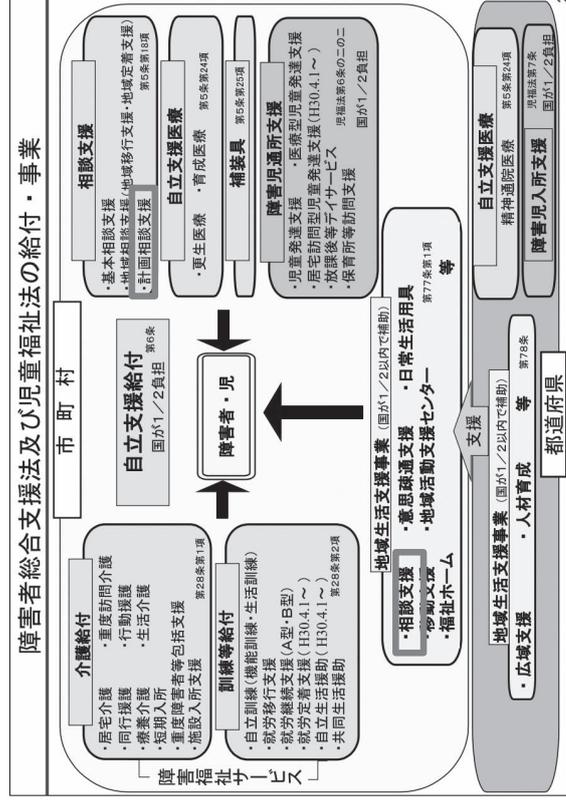
1.福祉の計画 障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画に ついて

2.医療の計画： リハビリテーション実施計画について

3.教育・医療・福祉の計画 比較と概観

本日の話題

- 1.福祉の計画
障害福祉サービスにおけるサービス等利用計画
について
- 2.医療の計画：
リハビリテーション実施計画について
- 3.教育・医療・福祉の計画 比較と概観



障害福祉に
関する制度
沿革・概要
参考資料 3
厚生労働省

教育・医療・福祉の計画 比較

分野	計画	バックグラウンド	モデル	記載項目
教育	個別の教育支援計画			※本日の他発表を参照
医療	リハビリテーション実施計画書	作業療法士	医学モデル 社会モデル	①家族・本人の要望 ②心機能・構造 ③活動 ④参加 ⑤環境因子 ⑥リハビリテーション目標 ⑦リハビリテーションプログラム ⑧前回計画書作成時からの変化・改善等
福祉	サービス等利用計画	社会福祉士	社会モデル	①利用者及びその家族の生活に対する意向 ②総合的な援助の方針

教育・医療・福祉の計画 横断的な概観

分野	計画	作成のポイント (発表者主観)
教育	個別の教育支援計画	※他の発表者の意見をお聞きたい
医療	リハビリテーション実施計画書	<ul style="list-style-type: none"> ・記載する際、主語に私(セラピスト)と本人(患者)が混在してしまう。 ・近年、ICF・社会モデルの考え方がとられるようになり、パターナリズムに陥らぬよう、使役(～させる等)の表現を避けるようになった。 ・デマンドとニーズの不一致に時折悩み、本人のための計画を作成するかセラピストのための計画を作成するかで葛藤することがある。
福祉	サービス等利用計画	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に記載された文章の主語は、あくまでも本人(よって作成者は本人)になりすまして記載する)。エンパワメントの視点。 ・自己決定を尊重し、デマンドがほぼニーズになる。 ・サービス等利用計画(案)の提出で、障害福祉サービスの支給が決定する。つまり、計画作成と行政への提出が、サービス受給における義務。

大学と特別支援学校における「学びの計画」の比較

ともに学び、生きる 共生社会ブロックコンファレンス in 北海道

第2部 第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

藤女子大学 子ども教育学科 今野邦彦

大学と特別支援学校の比較

・特別支援学校は何をすところか

学校教育法第72条 特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。

学校教育法第50条 高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

・大学は何をすところか

学校教育法第83条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

高校までと大学の違い

新入生ガイダンス資料より

	高校（まで）	大学
主な目的	普通教育	専門研究
教育機関	中等教育	高等教育
学ぶ人	生徒	学生
教員	免許が必要	免許は不要
教える内容	統一されている	統一されていない
問題の答	決まっている	決まっていない

たとえば、障害、障がい、障碍、しょうがい...

高校までと大学との違い

新入生ガイダンス資料より

- 小・中・高では、学びの「量（あるいは詳しさ）」が増えてきましたが、高校と大学とでは「質」が変わります。
- 大学は研究をするところです。
- 高校まで積み上げてきた知識や技術を使って、またそれをさらに発展させて、新しいことを考え、新しいものを作り出すところが大学です。
- 研究をするのは、大学の先生や大学院生だけではありません。
- 大学生は受け身ではなく、自ら進んで学び、考え、研究し、自分なりの答を探す存在です。
- だから、卒業研究（卒業論文や卒業制作）があるのです。
- さあ、みなさんも大学生として一步を踏み出しましょう！

学習から学修へ

- 大学では「学修」「履修」「修得」という言葉をよく使います。

- **学習**

[礼記(月令)・史記(秦始皇本紀)]

①まなびならうこと。

②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびそのための活動。

- **学修**

(主として明治期に用いた語) 学問をまなびおさめること。

[広辞苑]

大学の3ポリシー

学校教育法施行規則(2017)

- **ディプロマ・ポリシー** (学位授与の方針)

各大学, 学部・学科等の教育理念に基づき, どのような力を身に付けた者に卒業を認定し, 学位を授与するのかを定める基本的な方針であり, 学生の学修成果の目標ともなるもの。

- **カリキュラム・ポリシー** (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシーの達成のために, どのような教育課程を編成し, どのような教育内容・方法を実施し, 学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

- **アドミッション・ポリシー** (入学者受け入れの方針)

各大学, 学部・学科等の教育理念, ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ, どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり, 受け入れる学生に求める学習成果 (「学力の3要素」についてどのような成果を求めるか) を示すもの。

子ども教育学科 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本学科の教育目標を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 乳幼児期から青年期までの子どもの成長・発達を支援し、子どもや子どもを取り巻く人びとの生活の質の向上に寄与するための専門的知識を修得する。……………(知識・理解)
2. 社会が抱える複雑な問題を包括的な視点で分析し、保育・教育場面で生じる課題に対処できる論理的思考力と問題解決へと導く能力を身につけることができる。……………(汎用的技能)
3. 保育・教育を通して社会的責任を果たしていくことのできる態度・倫理観と、生涯にわたり主体的に学びを深める態度を身につけることができる。……………(態度・志向性)
4. 地域社会とかかわるさまざまな社会経験を通し、広い教養の涵養と子どもにかかわる多様な問題に対処できる幅広い視野と創造的思考力を身につけることができる。
……………(総合的な学習経験と創造的思考力)

子ども教育学科カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現させるために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系性および順次性)

- ・本学科のカリキュラムは、専門に関する学びを得るために、子どもの教育という視点からアプローチする「子ども教育専修」、子どもの生活支援という視点からアプローチする「子ども生活支援専修」、各種実習や専門領域の研究法などを学ぶ「共通」の各科目群で構成し、子どもとそれを取り巻く人びとを支えるために必要な学びを多角的に捉える力を養う。
- ・1、2年次には大学共通科目である教養科目・外国語科目ならびに学科の専門科目のうち基礎科目や保育・教育の内容に関する科目等を配置し、大学での学修や専門的な学びの基盤形成を図る。
- ・3年次以降では、各種実習を配置し、大学で学ぶ理論や技術と保育・教育現場での経験を関連付けながら専門領域に関する学びを深め、多面的な視点で子どもや子どもを取り巻く環境を捉え、保育・教育を構想する力を育成する。

2. (教養・外国語教育)

- ・ディプロマ・ポリシー各項目の基盤形成に資するために、1、2年次に幅広い教養科目を偏りな

		DP4 総合的な学習経験と創造的思考力					
		DP1 知識・理解		DP2 汎用的技能		DP3 態度・志向性	
年次	科目	保育内容・教科の指導法	保育・教育の内容	保育・教育の理論	子どもの理解	子どもと家族の支援	実習 専門研究法
4年次	応用科目		音楽表現演習 造形表現法	保幼小連携特論 現代社会と教育	子どもの理解と発達援助 特別支援教育実践論	子育て支援(講義) 生徒指導・進路指導	教育実習(幼稚園・小学校) 教育実習(特別支援) 保育実習Ⅱ 卒業研究 保育・教職実践演習
3年次	展開科目	国語科教育法 社会科教育法 算数科教育法 理科教育法 生活科教育法 音楽科教育法 英語科教育法	国語 算数 理科 社会 生活 音楽表現法 乳児保育Ⅱ 社会的養護内容 子どもの遊びと学び	教育課程総論 教育制度論 学級経営論 特別支援教育と福祉 教育相談の理論と方法	児童期以降の発達と心理 特別な教育的ニーズ に対する理解と支援 病弱児教育 視覚・聴覚障害児 教育総論 子どもの食と栄養	子育て支援(演習) 子ども家庭支援の心理学	保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅰ(福祉施設) 専門演習 臨床発達検査法
2年次	基礎・展開科目	図画工作教育法 体育科教育法 家庭科教育法 保育内容の指導法(人間関係) 保育内容の指導法(言葉)	図画工作 初等体育 英語 音楽 家庭 保育内容(健康) 保育内容(環境) 保育内容(表現) 子ども文化論 乳児保育Ⅰ	教育方法論 地域社会と学校 道德教育の理論と実践 社会的養護	教育心理学 幼児理解と援助 肢体不自由児の 心理・生理・病理 知的障害児教育 家庭支援論 子どもの保健	児童館・放課後児童 クラブの活動内容 と指導法Ⅰ	児童館実習 研究調査法
1年次	基礎科目	保育内容総論		教育原理 保育原理 教師・保育者論 子ども家庭福祉論	発達心理学 特別支援教育総論		スタートアップセミナー
		子ども教育専修				共通	
		子ども生活支援専修					
大学共通科目		【教養科目】人間と宗教 ジェンダー・キャリア形成 国際理解 社会と文化 歴史・思想 自然・科学 健康 リテラシー 【外国語科目】英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語					

取得できる免許・資格



幼 幼稚園教諭1種免許状

小 小学校教諭1種免許状

特 特別支援学校教諭1種免許状

児 児童厚生1級指導員資格

保 保育士資格

その他: 社会福祉主事、司書、司書教諭



幼 小 特

幼 小 保

幼 特 保

幼 保 児

小 特

幼 小

幼 保

3つ以内は可能

モデル4：卒業＋幼稚園教諭一種免許取得＋小学校教諭一種免許取得＋特別支援学校教諭一種免許取得

		1年	2年	3年	4年
大学共通科目	教養科目	キリスト教概論 必修2単位 女性とキャリアⅠ 必修1単位 区分 人間と宗教 選択必修2単位 人間形成 国際理解 社会と文化 選択必修2単位 歴史・思想 自然・科学 選択必修2単位 健康 リテラシー 選択必修2単位			
	外国語科目	教養科目・外国語科目から選択必修13単位以上 合計30単位以上			
		Academic CommunicationⅠ 必修1単位 Academic CommunicationⅡ 必修1単位 選択必修：4単位以上			
学科専門科目		幼稚園教諭一種免許を取得するために定められた、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等を履修 小学校教諭一種免許を取得するために定められた、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」等を履修 特別支援学校教諭一種免許を取得するために定められた指定科目を履修			

[幼稚園・小学校教諭免許指定科目]

<ul style="list-style-type: none"> ・国語（書写含む） ・社会 ・算数 ・理科 ・生活 ・子どもの遊びと学び ・音楽 ・音楽表現法 ・音楽表現演習 ・図画工作 ・造形表現法 ・家庭 ・初等体育 ・英語 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科教育法 ・社会科教育法 ・算数科教育法 ・理科教育法 ・英語科教育法 ・生活科教育法 ・音楽科教育法 ・図画工作科教育法 ・家庭科教育法 ・体育科教育法 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容（健康） ・保育内容（人間関係） ・保育内容（環境） ・保育内容（言葉） ・保育内容（表現） ・保育内容総論 ・保育内容の指導法（健康） ・保育内容の指導法（人間関係） ・保育内容の指導法（環境） ・保育内容の指導法（言葉） ・保育内容の指導法（表現）
<ul style="list-style-type: none"> ・保育原理 ・教師・保育者論 ・教育制度論 ・学級経営論 ・教育心理学 ・学校教育心理学 ・児童期以降の発達と心理 ・特別な教育的ニーズに対する理解と支援 ・教育課程総論（全体的な計画を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の理論と実践 ・特別活動・総合的な学習の時間の指導法 ・教育方法論 ・生徒指導・進路指導 ・幼児理解と援助 ・臨床発達検査法 ・教育相談の理論と方法 ・教育実習（幼稚園・小学校） ・教育実習指導（幼稚園・小学校） ・保育・教職実践演習（幼稚園・小学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携特論 ・地域社会と学校 ・現代社会と教育

大学での「計画」とは？

(藤女子大学「履修ガイド」から抜粋)

- 「履修ガイド」は、大学でどのように学ぶか、そして4年間の計画をどのように立てるとよいかの目安になるように〔履習要項〕、学科毎の〔履修の手引き〕、〔教育課程表〕と授業毎の〔シラバス〕とからなっている。
- 「履修の手引き」によって卒業までにどのような科目を選択すればよいかを考え、計画的に学ぶように心がける。
- 履修登録では、入学年度の教育課程表および「履修ガイド」を参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について、履修登録をしなければならない。

大学での「計画」から言えること

- 大学では、より自主性、自律性が求められる
- 大学での学びは自由度が高い、選択の幅が広い
- 大学では、大まかな道筋は示されるが、何をどのように学ぶかは、自分で計画する
- 生涯学習においても、あくまでも主体は学習者
- ただし、共同学習者やコーディネーターがいた方が...
 - 学びが広がる
 - 学びが深まる
 - 学びが続く

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

生涯にわたる学びのケイカクについて考える

「知的障がいのない医療的ケア児に対する

支援・指導計画・大学進学への支援」

2022年2月5日

北海道北見北斗高等学校 教諭 藤森美佐子

自己紹介

藤森美佐子

- ・平成11年より 北海道紋別養護学校勤務
- ・平成16年より 北海道紋別養護学校さたみ学園分校
(現：北見支援学校) 勤務
- ・平成26年より 北見市立北中学校勤務
- ・平成29年より 北海道北見北斗高等学校勤務

2

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

「生涯にわたる学びの
ケイカクについて考える」

- 1 事例生徒について(高校時)
- 2 ケイカクをどのように作成したか
- 3 指導・支援の実際
- 4 事例生徒の現在

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

1 事例生徒について

【事例K】

- (1) 平成14年生まれ
現在大学2年
- (2) 病名：脊髄性筋萎縮症Ⅱ型
症状：徐々に筋力が衰えていく
その他の診断：四肢体幹機能障害
高度側彎
慢性呼吸不全
手帳：身体障害者手帳1種1級
(両下肢・両上肢の機能の著しい障害)



4

令和3年度 ともに学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

(3) どのようなように指導計画を作成したか

- ①ニーズを踏まえた上で本人に必要な力を考える
(本人、保護者、通級担当)
- ②高校という環境で可能なこと不可能こと調整で可能
になることの確認 (通級担当、HR担任)
- ③入学後の生徒の実態把握(行動観察)
- ④個別の教育支援計画 中学からのものを修正
(通級担当→本人)
- ⑤個別の指導計画 自立活動の内容を
中心に新たに作成
(通級担当→本人)

9

3 指導・支援の実際

(1) 通級による指導(自立活動)の取り組み

目標①

大学の講義や課題に対応できるレベルにまで視線
入力等の技能を高める。

目標②

適切なコミュニケーション行動を選択し、自己の
要求や気持ちを言語で表現し、受け身ではなく主
体的にマネジメントする

10

代筆支援①



11

代筆支援②



12

(2) 自立活動の学習内容

①PC入力の練習(音声入力)



14

視線入力装置(意思伝達装置)

- Eye Tracker Tobii 4 c gaming peripheral
- Tobii社は視線追跡や眼球運動の解析を専門に行うスウェーデンの会社。
- 重度障害者のコミュニケーション支援技術の研究をしている島根大学 伊藤史人氏が情報提供および練習用のゲームアプリを開発している。「ポランの広場」

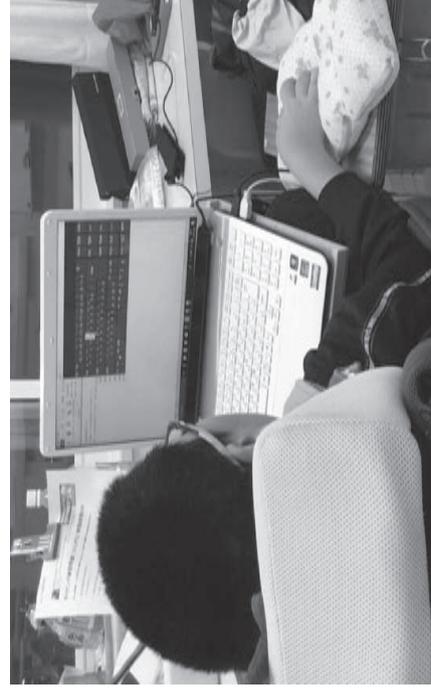
(2) 自立活動の学習内容

②PC入力の練習(視線入力)

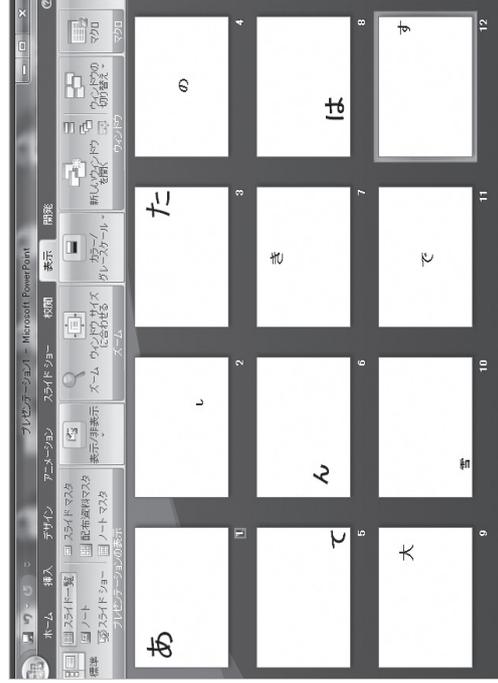


17

(2) 自立活動の学習内容 ②PC入力の練習(視線入力)



(2) 自立活動の学習内容
②PC入力の練習(視線入力)



18

(2) 自立活動の学習内容
②PC入力の練習(視線入力)



19

(2) 自立活動の学習内容
③自己マネジメント



20

(2) 自立活動の学習内容
③自己マネジメント



21

4 事例生徒の現在



22

4 事例生徒の現在



23

4 事例生徒の現在



24

指導計画作成における課題

- 中学校までは各地域の様式で個別の教育支援計画が作られていることが多い。
- 目標設定の難しさ
対象生徒にとって目標や指導内容が適切か、本人のニーズとのバランスなど日常的に複数の視点で評価していかなければならないが、それが難しい。
- 長期的展望の難しさ
特別支援の生徒の担当者は、単年度で変わってしまうことが多い。

25

さんの大学進学実現を支えた制度

- 特別支援教育スーパーバイザー派遣
- 「高等学校における特別支援推進のための拠点校事業」
- 「高等学校における特別支援教育支援員配置事業」による支援員の配置
- 高等学校における通級による指導の制度化
- 「特別支援教育
パートナラー・ティーチャー派遣事業」
- 「重度訪問介護利用者の大学等の修学支援」

26

以上でおわかります。

詳しくは平成29年度高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業 研究開発報告書にまとめています。

27

第4分科会

生涯にわたる学びの Кейカク を考える



北海道札幌あいの里高等支援学校
教諭 解良和人

学校教育目標・校訓

学校教育目標

- Go for your dream 『夢のために、ベストを尽くす』
～今の自分を超え、より高みをめざそう～

具体的目標

- 学ぶ楽しさを体感し、自ら課題を見つけ、考え、行動し、努力し続ける生徒を育てる
- 個性・能力を生かし、他者と協力しながら、北海道の未来を創造し続けることのできる生徒を育てる

未来

- 自分のよさや個性を理解するとともに、それに基づいた目標を持ち、その達成に向けて全力で取り組もうとする態度・姿勢、そして共生社会に相応しいシチズンシップを育む。

チャレンジ

- 将来の夢や希望を膨らませ、よりよい社会生活、進路決定など自身のQOL向上のために自己理解を進め、自ら課題を見出し、その課題の解決に向けて、取り組むために必要な資質・能力を養う。

感謝

- 様々な場面において、他者のよさや感情を共感的に理解しようとする姿勢を涵養する。さらに、社会に貢献しようとする意欲や他者の好意に感謝する気持ちを培う。

学校の概要

平成28年4月に開校しました

住所

・札幌市北区あいの里4条7丁目1-1

寄宿舎

・無

通学方法

・JR、バスなど
・地下鉄麻生駅からスクール便バスを運行

生徒数（令和3年6月現在）

・170名

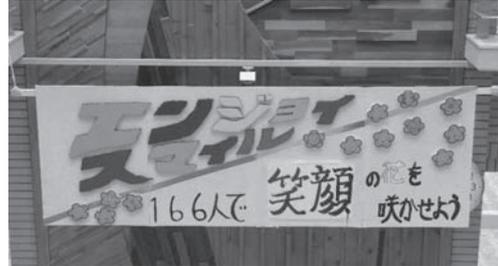
職員数（令和3年6月現在）

・91名

定員（令和3年度）

・1学級8名（普通科3学級・職業学科5学級）

令和2年度学校祭



令和元年度 あいサークル



本校非公式キャラクター アイネ

設置学科

5つの職業学科と普通科を設置しています



生産技術科

木工製品やセラミック製品の製作



環境・流通サポート科

清掃などの環境整備
書類の丁合、製本作業など



被服デザイン科

手芸、織物、染色など



食品デザイン科

生活用品、服飾製品の製作
パンや菓子の製造など



福祉サービス科

介護、清掃、調理の家事援助
接客など



普通科

各教科で得た知識・技能を生かし
「総合的な探究の時間」を通して
深める

個別の教育支援計画

◇基礎シート (様式1)

本人	ふりがな	性別	男	女		
	氏名	生年月日	平成	年	月	日
	療育手帳の有無	有 (年 月交付/次回更新 年 月)	無			
	身障手帳の有無	有 (年 月交付/次回更新 年 月)	無			
住所	その他の手帳					
	住所					
	〒					
保護者	保護者氏名	フリガナ	続柄 ()			
	住所					
	*本人の住所と異なる場合のみ記入してください					
	電話番号 (自宅)					
	(携帯)	父・母・その他 ()				
	(携帯)	父・母・その他 ()				
	緊急連絡先①	自宅・携帯 ()・その他 ()				
緊急連絡先②	自宅・携帯 ()・その他 ()					
家族構成 (令和3年4月1日現在の状況を記入してください)						
氏名	続柄	年齢	勤務先 (学生の場合は学校名と学年)	同居・別居		
フリガナ				同居・別居		
フリガナ				同居・別居		
フリガナ				同居・別居		
フリガナ				同居・別居		
フリガナ				同居・別居		
その他、近郊に在住する祖父母・親戚などがありましたら記入ください。						
フリガナ						
フリガナ						

◇学校生活上、配慮などが必要な事項

健康面	
日常生活	
身体機能	
心身面	
コミュニケーション	
対人関係	
その他	

◇本人・保護者の希望

	高校在学時の希望	高校卒業後の希望
本人		
保護者		

個別の指導計画

I 個別の指導計画

1 個別の教育支援計画における長期目標について

入学時の願い	生徒の願い	
	保護者の願い	
長期目標 (卒業時の目標)		
長期目標についての詳細	1学年	
	2学年	
	3学年	

2 自立活動

1年次

生徒の状況	
目標	1年
手立て	
評価	
前期	後期

II 学習の様子

観点	日 数	学習した内容	評 価	備 考
国語				
社会				
数学				
理科				
音楽				
美術				
保健体育				
職業				

個別の移行支援計画

個別の移行支援計画
 (平成 年 月 日 記入者: 北海道札幌あいの巣高等支援学校 担任)

ふりがな 氏名	性別	生年月日	平成 年 月 日生
項目	本人の希望(卒業後なりたい身分)	今後の課題	
【生活面】			
【対人面】			
【作業態度面】			
【作業能力面】			
【その他】 様子など			
具体的支援			
支援者・支援機関	支援内容		
<input type="checkbox"/> 日常生活	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/> 出身学校	場所 連絡先 担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的な相談窓口を行う。 ・卒業支援の訪問、卒業関係書類の配付を行う。 ・関係機関との情報交換を行う。 	
<input type="checkbox"/> 進路先	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/> 相談機関	場所 連絡先 担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事や生活の悩みなどの相談などを聞いてもらう。 ・障害基礎年金申請時の支援をしてもらう。 	
<input type="checkbox"/> 医療機関	場所 連絡先 担当者		
<input type="checkbox"/>	場所 連絡先 担当者		
備 考			

上記の支援計画に同意します。
 年 月 日 本人署名(自筆)

特別支援教育とは？

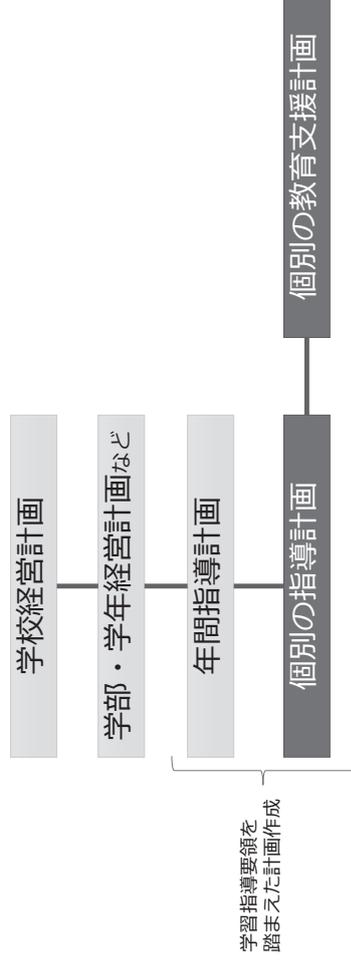
特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

「特別支援教育の推進について(通知)」(平成 年)文部科学省

第4分科会 「生涯にわたる学びのケイカクについて考える」

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
特別支援教育指導係長 津川 周一

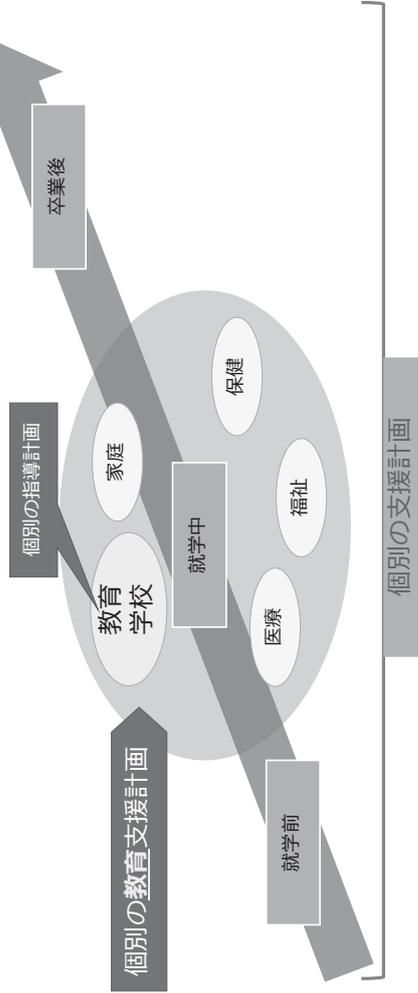
特別支援学校・特別支援学級の「ケイカク」



「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

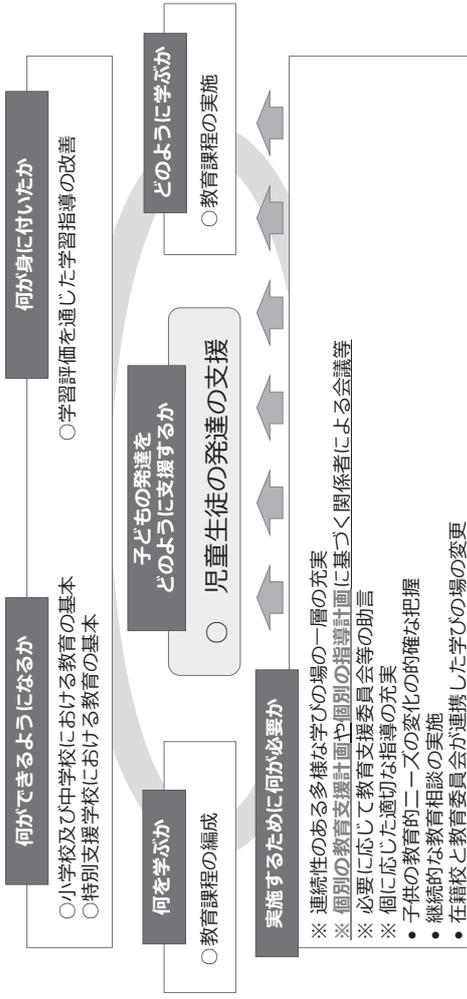
個別の指導計画	個別の教育支援計画
<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために各学校で作成しなければならないもの ○ 学習指導要領の内容を具体化し、障がいのある幼児及び児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいのある児童生徒一人一人に必要とされる教育的ニーズを正確に把握し、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて、一貫した的確な支援を行うことを目的に作成するもの

「個別の支援計画」と「個別の教育支援計画」



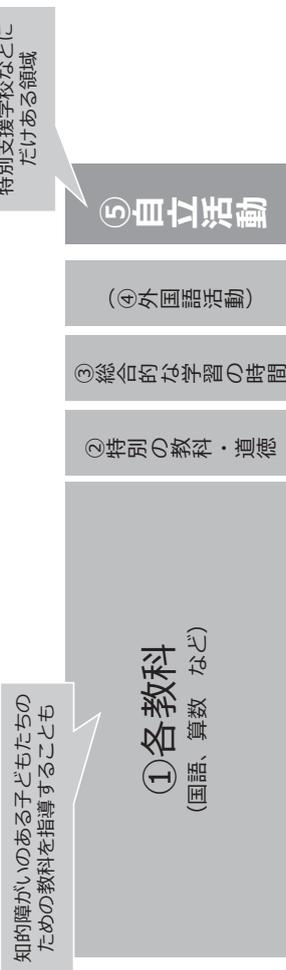
「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（文部科学省）平成 年を改変

障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに応じたカリキュラム・マネジメントの推進



「特別支援教育課程研究協議会資料」（文部科学省）令和3年を一部改変

特別支援学校・特別支援学級の教育課程（小学校・小学部の例）

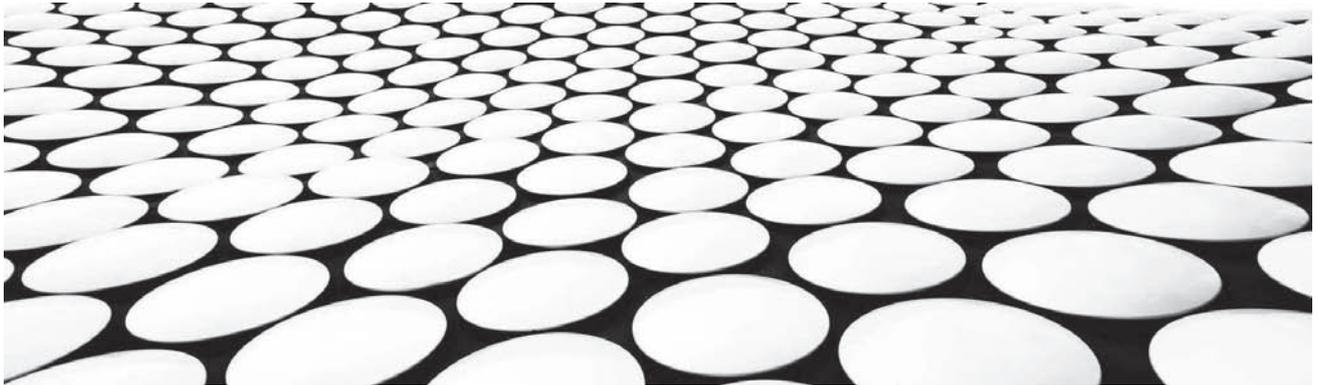


小学校と特別支援学校・特別支援学級で異なる点

- 「自立活動」の指導があること。
- 知的障がいがある場合
 - ・授業の総時数は同じだけど、各教科の時間は決まっていない
 - ・「学年」ではなく、「段階」別に目標や内容が示されている
 - ・各教科等を合わせて指導することができる「生活単元学習」「作業学習」など

令和3年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスIN 北海道

第5分科会 学生サミット発表



発表の流れ

オンライン講演会・実地体験等
2か月間の学びを振りかえり共有

アクション宣言の中身・決定過程から
学生チームが見出した論点を整理する

学びの軌跡

アクション宣言

宣言に込めた思い

学生チームによる

共生社会実現に向けたアクション宣言

学生サミット 学びの軌跡

- 10/29 第1回打ち合わせ
- 11/12 学生同士の顔合わせ①
- 11/30 学生同士の顔合わせ②
- 12/5 イベント参加①(柿のランچ)
- 12/14 お話し会①(医療法人稲生会理事長・土島先生)
- 12/17 お話し会②(衆議院議員・荒井ゆたか氏)
- 12/20 お話し会③(伴理在住の友達国際交流)
- 12/26 イベント参加②(フライングサッカー体験)
- 12/26 イベント-MTG
- 1/4 イベント参加③(とんとこクッキング@医療法人稲生会)
- 1/9 イベント参加④(重度障害当事者の方のお宅訪問・餅つき)
- 1/13 お話し会④(LGBTQ当事者の方のお話し会)
- 1/16 お話し会⑤(とんとこクッキングの振り返り)
- 1/29 イベント参加⑤(写真展)

2022/2/10

お話し会（参加者アンケートを基に）

医療法人稲生会理事長・土島先生

「共生社会の答えがまだ見つかっていないということがわかった。」

「共生とは考え続けるもので、状況により解釈が違うのだからその人ごとに考えさせる場を提供することで止まっておいた方が良い（＝自分なりに共生社会の答えを教えることはしない）のでは？と解釈できた。」

「共生社会という言葉は、もしかしたら実態なき概念で、そこについて考え続ける態度こそが求められている答えなのではないかと感じた。」

「障害は共生社会の氷山の一角に過ぎないのであって、今も新たな多様性が誕生している以上は、その都度考え、自らと異なる文化や現実と共存する一般的な能力を磨くのが必要と感じた。」

2022/2/10



衆議院議員・荒井ゆたか氏

「カナダに生まれ、小5から田舎で育った私は幼い頃はみんなに勉強に追いつくために頑張っていた。基礎的な勉強が追いついたあとでも、ずっと偏差値50は超えなければいけないと思っていた。お話を聞いて教育の現場で半分より下の子供たちがそれでも自分の価値や自分は素晴らしいと思えるようにすることが大事ということをおっしゃっていた。もちろん勉強して学びを広げることは素晴らしい。それでも偏差値50以上、偏差値高いという価値観の押し付けは決して共生ではないと思う。」

「実際に実力をもって国政に携わる方を仲間にして運動を起こしたり、自分の意見を上げたりすることは非常に大切だと思ったし、特に実現可能性という点においては、絶対に政治分野への働きかけは必要であると感じた。」

「共生、というよりも教育についての学びが深い会だった。フィンランドについてのお話があったように、他国はどういう教育があるのか、共生社会に向けての取り組みはどんなことがあるのかを調査するのもヒントが得られると考えた。」

2022/2/10



LGBT当事者の方

「共生社会アンチの人達の見解も肯定しないと、真の共生社会は実現できないのだとハッとしたり→真の共生は強制しないことだと解釈した」

「誰かにバレてしまったらという恐怖を感じたことは自分はなかったが、今よりもシビアな時代だときっと生きづらい世の中だったのだと思った。変えていかなければならないのは僕たちで、それは自分が認めるかではなく相手を尊重することができるか。迷惑をかけていないことに対して声を上げての否定は違うんじゃないかなと思った。」

「学校では、周りの人間、関わる人間を選べない(同調圧力)」

「結婚のことを考えるフェーズの中で好きであるのに結ばれない。家を借りる時も法律の面で当たり前のサービスを受けられない当事者たちのお話を聞いてすごく生きづらさはあると感じた。人をなんでも型に当てはめなくて良いと思う。」

2022/2/10

実地体験（参加者アンケートを基に）



重度障害当事者の方のお宅訪問（餅つき）

「障害者と健常者というバリアを壊すには、バリアを意識しないことが重要だと思った。もちつきという関係ないものを利用することで、自然とバリアがなくなっている状況を作り出せるのではないかと気づいた」

「障害の有無とは全く関係のない家族の温かみを強く感じた。障害とか、できるできないとか関係なく1人の人間として、愛する家族として大切な存在なのだと感じた。」

「障害当事者に何かしてあげるだけではなく、その家族に対してのケアも大事なのではないかと考えた。ご家族に喜んでもらったことも非常にうれしかった。」

2022/2/10

とんとこクッキング@医療法人稲生会



「太鼓の音や振動は、障害者健常者関係なく心揺さぶられるものなので、そういった共通のものを通せば、両者の壁みたいなものは薄まるなと体感しました。」

「久々の太鼓チャレンジ&どんぐりっこたちとの再会だった。まず太鼓は、コミュニケーションは言語だけではないのだと改めて感じさせられた。動き、声、表情などすべてを使って感情表現をしてくれる子供たちと過ごすうちに、受け取る側の感受性も豊かになっていくのを感じた。また、大人が楽しそうに運営・参加するイベントは、子供たちにもその楽しさが伝染するという、登山企画の時以来の同じ学びを得た。」

「オンライン参加の子たちの画面では保護者の方も一緒に叩いていて、親子ともに笑顔を見ることができた。私たちは社会で生きていく中で劣等感を感じたりできないことを嘆いたりすることがあるが、みんなが笑顔で過ごすことができればそれだけでいいのではないかと思った。」

「初めて重度障害の小さな子どもに会った。自分の中で、どんな子どもでもかわいいなという気持ちが変わらずあることがわかった。」

2022/2/10

ロンドン在住の方（国際交流）

「ヨーロッパの文化の進み方や多様性がすごいと感じた。日本と同じ島国ではあるが、文化を受け入れる姿勢等を見習うべきだと思ったし、海外の人にはもっとお話を聞きたいと思った。」

「ロンドンでもホームレス、貧富の差が大きい問題が印象的だった。歴史的な建物のバリアフリー化は歴史の保全との掛け合いがあるというのは日本とも似ているらしい…。文化、伝統と現代の問題との折り合いをどうつけるか気になった。」



2022/2/10

アクション宣言

① 共生社会とは何か

■ 答えは出ませんでした

→ 多様性に際限なし（今この瞬間も新たな多様性が誕生）

2 か月間の学びで触れた多様性は氷山の一角

共生社会を考え続けるスタート地点に立ったに過ぎない



2022/2/10

②僕たちのアクション宣言

I 学び・考え・触れ続ける

II いつの間にか学べる場を作る

2022/2/10

I 学び・考え・触れ続ける

- ・ 際限ない多様性に対するたったひとつの対処法「継続すること」
- ・ 氷山の一角を知っただけで、共生社会は実現しない
- ・ 様々な多様性を学び・考え・触れ続けることで、新たな多様性を受け入れる作法を学ぶ
- ・ Z世代は特に、「触れること」が重要
→誰が見たのか、本当に見たのかわからない情報が氾濫



新たな多様性に出会ったら
こうしたらいいんだ！

Ⅱ いつの間にか学べる場を作る

「稲生会の1室乗っ取り計画」



2022/2/10

稲生会の1室乗っ取り計画とは

- ・ 稲生会には使えそうな空室が・・・（おもちゃの部屋など）
- ・ その1室を使って学生の学び継続の場を創出（サークル）
- ・ 誰でも集まれる憩いの場を提供する（学び+楽しみ）
- ・ 日によって来訪者が変わる場



「いつの間にか学ぶ」

幼稚園で初めにした勉強を覚えていますか？

挨拶、手洗い、順番待ち、譲り合い・・・

挨拶 → おはようございますの歌・踊り
手洗い → 手洗いうがいの歌・踊り
順番待ち → おまけのおまけの汽車ポッポの歌
食育 → 大根抜きゲーム・焼き芋大会

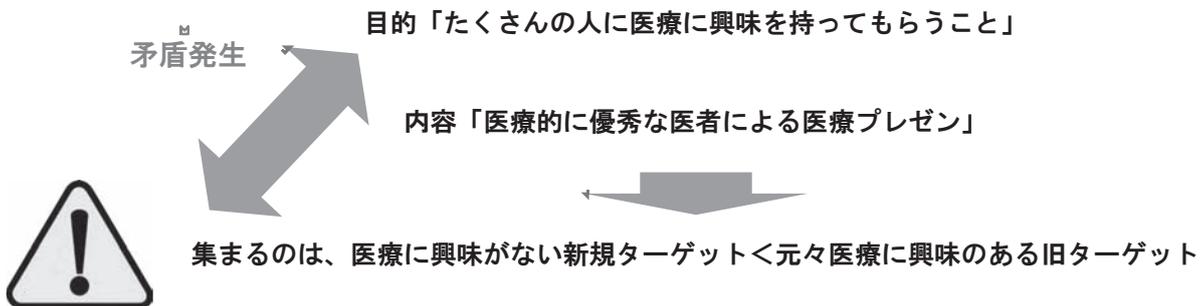
手洗いとか食育とか興味ないけど
歌やゲームは楽しい！

この時、歌ったり、踊ったり、楽しいゲームをしているうちに
「いつの間にか学んでいた」ことに気づきますよね？



2022/

(例) とある医療イベントの場合



医療に興味がない人は、そもそも医療系のイベントなんか来ない

医療系のイベントは、元々医療に興味があった人の意識を強化するため、そもそも興味がない人との格差はもはや拡大して悪化

食育に興味のない幼稚園児に、食育を真面目に語っているのと同じ

2022/2/10

興味のない人やアンチを仲間にできる学び方

- ・ テーマを前面に押し出さない
→ 出せば出すほど新規参加者にとって「つまらなそう」な情報
- ・ テーマ抜きでの魅力
→ 「医療系のイベント」に甘えて他の内容をさぼっていないか。それ抜きでもちゃんと魅力的？
- ・ 実体験で学べる「非言語的学習」
→ 理屈抜きで感じる魅力を作り出せているか？「ルールを聞くより遊びたい」に答える。



いつの間にか学ぶ「空間」の創出



終わりに

- ・ 学生が提供できる学び、大人が提供できる学び
→ 体を張る学び、経験が要求される学び、人脈・財力が必要な学び . . .
- ・ 見える、見えないの差があるだけで、万人が困難を共有
→ 人によって挑戦の内容は変わる。自分にとっての挑戦を忘れずに。
- ・ 新たな仲間を増やし、そして学び、考え続けること
→ まだ見ぬ多様性に備えること、未来の共生社会へ



ブレイクアウトセッションへの導入

- ・ 学びは理論先行？アクション先行？
- ・ 大人が提供できる学び、学生が提供できる学びってなんだろう？
- ・ 既存のイベントの良い点・改善点は？



END



今回、活動に当たってお話をきかせてくださった皆様、実地体験の提供をしてくださった皆様に心より感謝いたします。

学生チーム一同

2022/2/10

令和3年度 共に学び、生きる 共生社会コンファレンス in 北海道

日時：令和4年2月5日（土）10:00-16:00

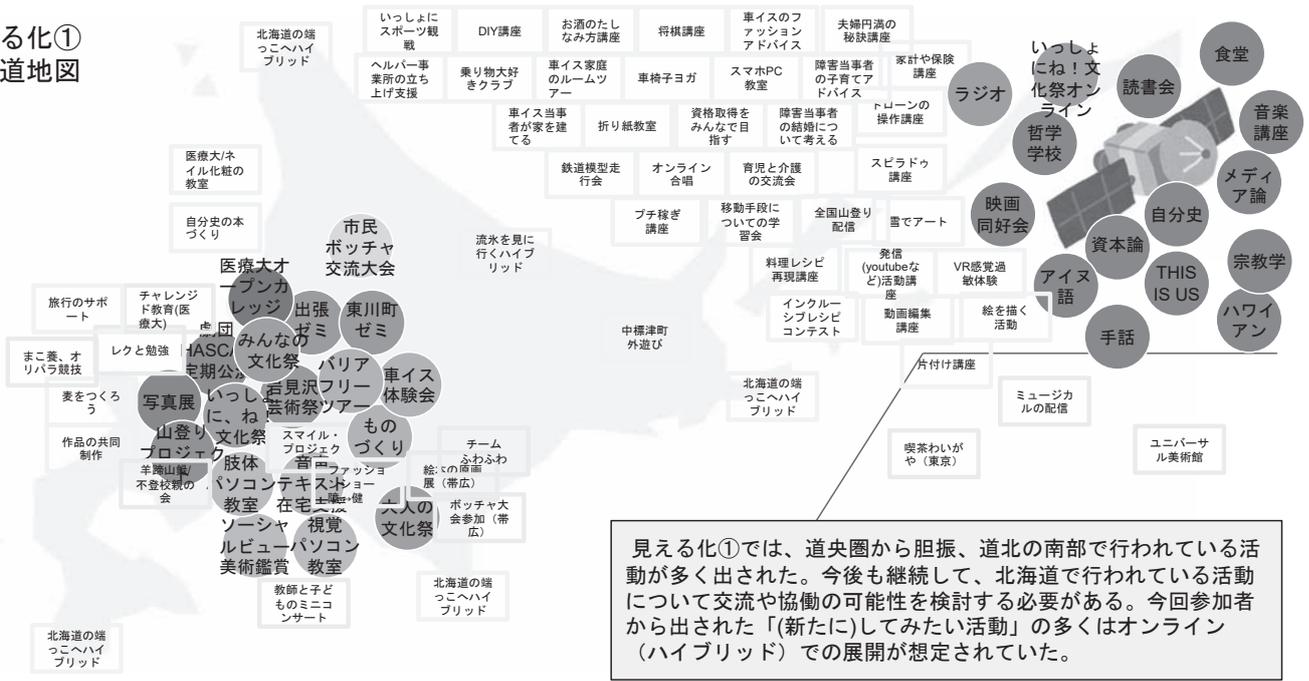
開催形式：Zoom ミーティング

事務局：北海道教育委員会/医療法人稲生会

第1部 全体会

- 今年度コンファレンスの全体テーマである「**障害のあるひと
ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育**」について、前半では11団体から実践報告を聞いた。後半では、8人前後のグループに分かれて、現在行っている実践や、これからのアイデアを出し合い、Google formsを用いて収集、それを4種類の「見える化マップ」に落とし込んでいった。
- 報告団体（報告順）：北海道医療大学オープンカレッジセミナー、チャレンジキャンパスさっぽろ、苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会、社会福祉法人名寄市社会福祉協議会、カムイ大雪バリアフリーツアーズセンター、たすくゼミナール、みらいつくり大学校岩見沢アール・ブリュット芸術祭、いっしょにね！文化祭、北星女子高校医療的ケア児写真展、Dosanko Dreamix

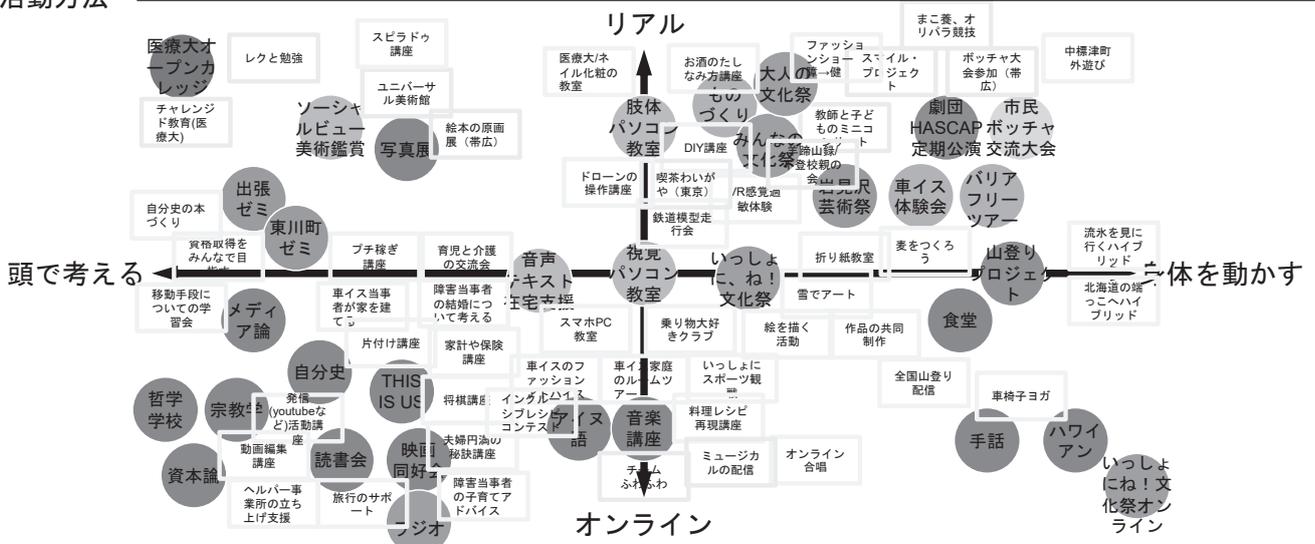
見える化①
北海道地図



- 発表団体
- 医療大オープンカレッジ
 - チャレンジキッズ
 - 小牧キッズ
 - 名寄市民パソコン会
 - 市民ポッチャ
 - カムイ大雪
 - たすくゼミ
 - みら大
 - 岩見沢芸術祭
 - いっしょにね!
 - 写真展
 - Dosannko Dreamix

見える化②
x:活動内容
y:活動方法

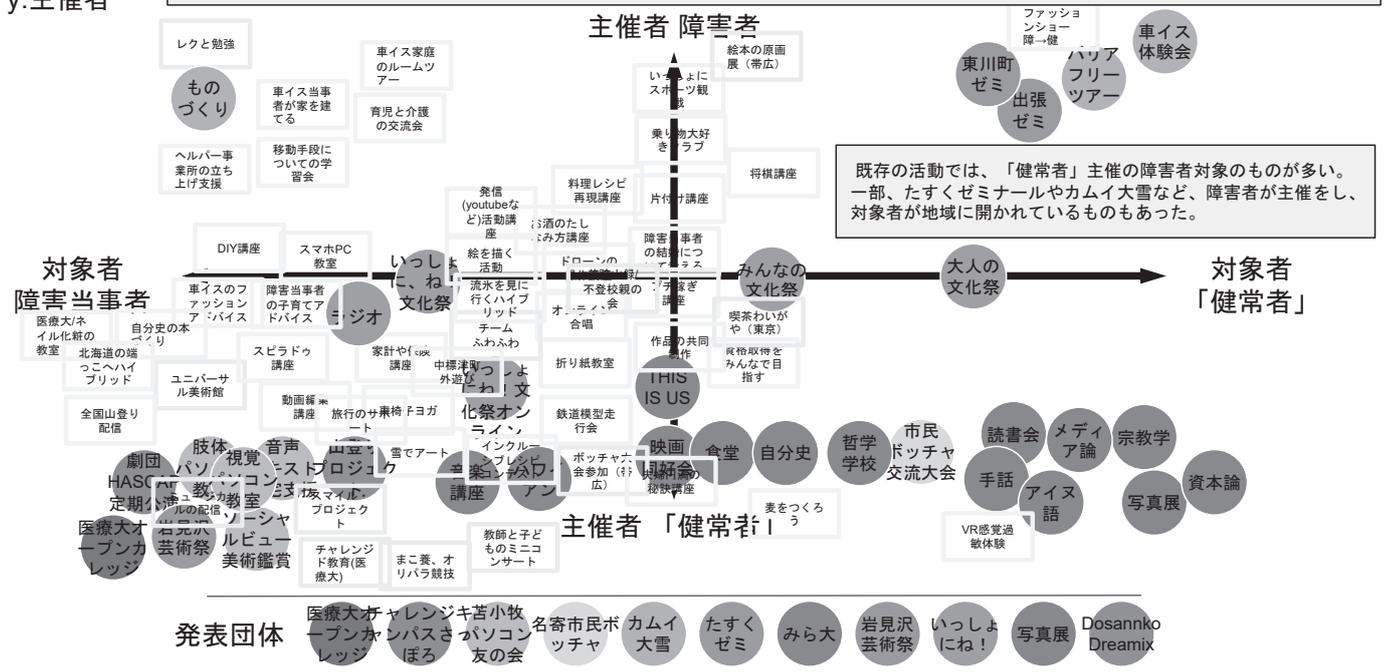
既存の活動では、リアルには体を動かすものが多く、オンラインでは頭で考える活動が多かった。実施の見通しをもつことの難しさがあったのか、「(新たに)してみたい活動」はリアルを想定したアイデアは少なく、オンラインで展開するアイデアが多かった。これまで少なかった第四象限の(オンラインで体を動かす)活動への希望も垣間見えた。



- 発表団体
- 医療大オープンカレッジ
 - チャレンジキッズ
 - 小牧キッズ
 - 名寄市民パソコン会
 - 市民ポッチャ
 - カムイ大雪
 - たすくゼミ
 - みら大
 - 岩見沢芸術祭
 - いっしょにね!
 - 写真展
 - Dosannko Dreamix

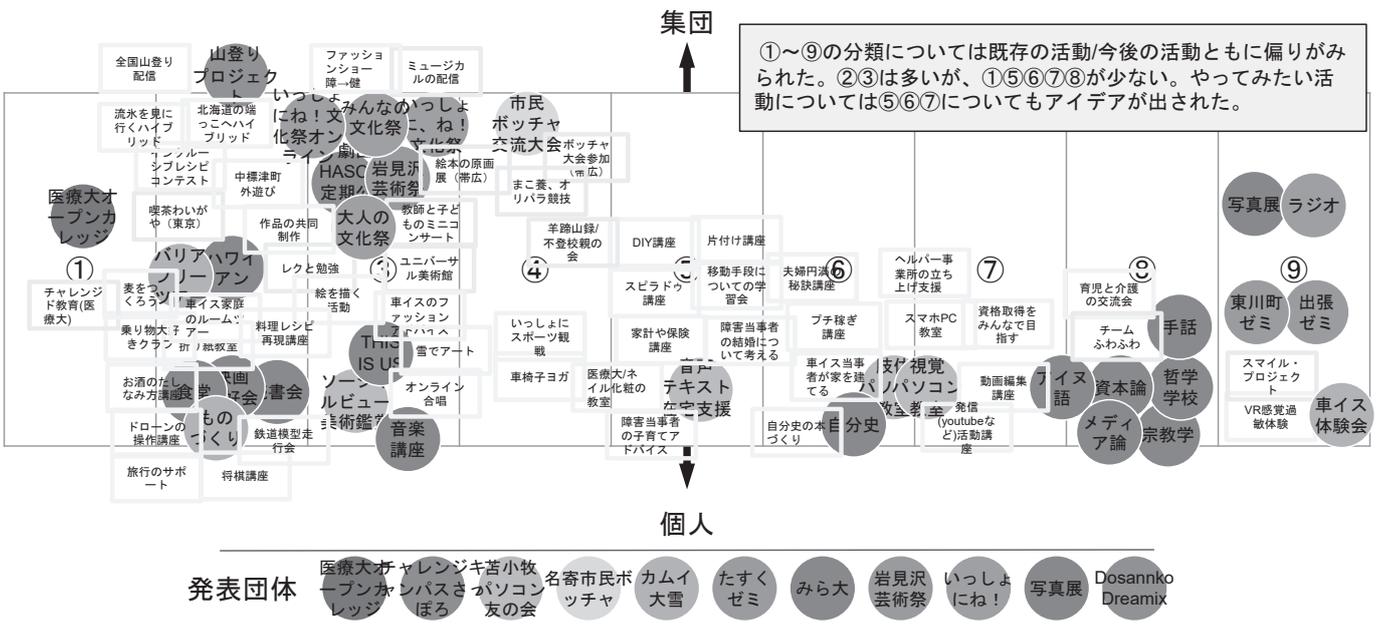
見える化③
x:対象者
y:主催者

やってみよう活動については、既存の活動よりも、おおよそ上部に配置されることが多く、障害者が主催をしていく活動への期待があることがわかる。見える化の担当者からは「対象者」の定義が難しく、例えば演劇における役者を指すのかそれとも観劇者を指すのか迷うといった葛藤もあったと報告があった。



見える化④
x:活動単位
y:文科省調査分類

- ① 学校段階で学んだ内容の維持・再学習
- ② 余暇・レクリエーション
- ③ 文化芸術活動
- ④ 健康の維持増進、スポーツ活動
- ⑤ 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
- ⑥ 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
- ⑦ 仕事のスキルアップや資格・免許など、職業生活に関わる学習
- ⑧ 一緒に刺激あつて向上していける仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係等に関する学習
- ⑨ その他



※第2部 第1分科会 「自治体がつくる学びの場 ～誰もが参加できる学びの場づくり～」

1 事例発表

障がい者の学びの充実や、誰もが参加できる学習機会の 充実に向けた取組

(1) 北海道教育委員会

令和3～4年「障がい者の障がい学習推進研究協議会」

道内の全市町村において市町村の障がい学習支援担当職員を対象

障がい者の障がい学習推進に関する基本的な研修を実施、学び場づくりの担い手を育成

(2) 空知教育局

滝川市立図書館長講演：誰もが読書ができる環境を整えるために

★障がいのある方にとって学びやすい場とは、誰もが学びやすい場である

(3) 北広島市

市町村における地域コンソーシアムモデルの推進

ビッグフラッグアート制作事業（北広島市×よしもと）

★「みんなの居場所づくり」には、当事者もどんな居場所が必要か考え、発言する

(4) むかわ町

「障がい者の障がい学習推進研究協議会」で町保健福祉課⇔町教育委員会が情報共有

★既存の事業等を活用した連携可能な取組の検討

（指導者が障がい者支援施設等へ訪問するなどして利用者負担軽減を図るなど）

★福祉との連携（他世代との交流）→放課後こども教室

(5) 知内町

「町民皆スポーツ条例」を制定

障がい者と運動やスポーツを通じた様々な交流を促進

★運動やスポーツを通じた交流により、障がい者と健常者が違和感なく交流できる

★回数を重ねることで健常者に障がい者を受け入れる心の体制が整い、

また、障がい者にも遠慮なく参加するという変容が見られた

(6) 岩見沢市

いわみざわアートアカデミー

学校卒業後の障がい者⇔北海道教育大学の教員や学生と関わり

芸術を教わる側から、教える側になることで、自分らしく暮らせる社会実現を目指す

2 協議

「障害者が参加できる学びの場」づくりの現状と課題、今後の方向性

(1) 子ども達が小さな時から一緒に学ぶ空間づくり (インクルーシブ教育)を進める必要について

お互いの成長を感じあえるように、共に学びあう空間づくりは大切（保護者）

学校にも限界があるため、地域ボランティア等で共に学び合う体験は大切（養護学校教諭）

当事者が小学校のクラスに入って学ぶ取組も進めている（名寄・元社会福祉協議会）

リーダー研修の参加者等も個別サポートして修了することができている（名寄・生涯学習課）

安全面や生活指導面で配慮すべきことを保護者とよく共有する必要がある（知内）

当事者を支援する「べからず集」を作成し、支援方法を学んでいる。（苫小牧・パソコン教室）

(2) 教育委員会と福祉部局の連携について

講師を頼まれることもあるが、担当者が研修を通して学び合うという段階にある（知内）

コンソーシアムの構成員に組み込んで連携して事業を展開している（北広島）

障がい者団体とつながるために社会福祉協議会と連携している（苫小牧・パソコン教室）

(3) どこから取組をはじめ、誰が始める？ (はじめの一步)

既存の事業から、福祉と連携してできることを模索していきたい（むかわ）

市と大学で連携協定を結んでいることから、大学を巻き込むことができた（北広島）

苦情をもとに、それを解決することから取組がはじまることもある（北広島）

第二分科会



■一年目～障害の有無によらず楽しく参加できるイベントを企画する中で生まれる「コミュニティ」について考える

■二年目～一年目に企画したイベントをコロナ後に開催するため「障害」と「楽しさ」を深く考える

■三年目～障害当事者によるイベントの参加報告



当日は…

- ・当日の内容を付箋による色分けで見える化した。透明の付箋は報告者の発言、色付きの付箋は参加者の発言、オレンジの付箋はコメントーターの発言。
- ・各グループワークにより報告内容の気付き、感想を共有。
- ・当事者の発言を重視し、発表に想定以上の時間を要したためグループワークの時間を縮小。
- ・質問やチャットのコメントが活発だった。

報告者のコメント (一例)

- ・学生は障害当事者と外出し、始めて障害者の外出の不便さを体験した。
- ・気付きを伝えて心のバリアフリーに繋がっていく。
- ・小さい頃は一人で過ごすことが多かった。就職しイベントに参加して人と関わる喜びを知った。
- ・外出の時に困っている人がいたら優しく声をかけてほしい。
- ・イベントの主催者側に障害者が来るという意識がない。障害者も娯楽を楽しみたい。

参加者のコメント (一例)

- ・アメリカではバリアフリーという言葉が無い。視点が凄いなと思った。
- ・固定概念を外す=共生社会。
- ・お祭りのトイレ問題。切実でここが変わればイベントが変わる。
- ・交流の結果、新たな学びを得た。

第1回
2019年度
もやわくカードゲーム

第2回
2020年度
もやわくカードゲーム
@オンライン

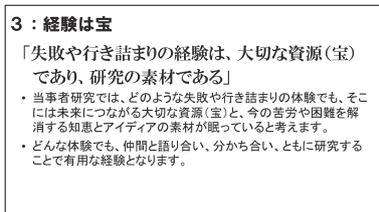
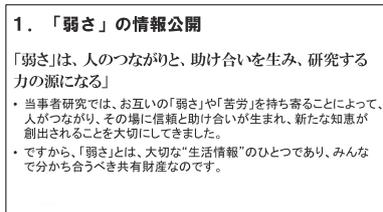
仮説
私たちは「もやもや
(苦労)」を基盤にして
こそ、「ともに学ぶ」
ことができる。

第3回
2021年度
働き方の当事者研究



開催概要

- ①開催趣旨説明
- ②自己紹介
- ③「当事者研究の15の理念」の確認
- ④「働くことの当事者研究」の実践
- ⑤感想の分かち合い



当日は、「ラジオ参加」をする人がいたり、「カメラをオンにするのは苦手だから」とチャットで参加する人がいたり、手話で参加する人がいました。

1.研究テーマの決定

「(職場で)みんなとうまくやりたい。でも…。」
→かっこつけてない?
→「かっこつけ」の当事者研究

2.研究経過

- ①一人の「かっこつけ」と、組織の「かっこつけ」がある。
- ②「かっこつけ」ていい時もあれば悪い時もある。
- ③「かっこつけ」は時に困難にもなるが、時に成長のエネルギーにもなる。
- ④「かっこつけ」も「弱さ」も、渡す人の問題でもあり、受け取る人の問題でもある。
→「かっこつけ」て、失敗しても、「かっこよく」ある研究が必要?

一回の「イベント」で「もやもや」を基盤にした「探究」は難しい。

月に一度程度で活動を継続

第4分科会 生涯にわたる学びのケイカクを考える

- シンポジウム形式（ブレイクアウトセッションなし）
- 特別支援教育、福祉、高等教育などにおける「学びの計画」の現状や課題についての報告を聞き、障害の有無によらない「生涯にわたる学び」を支えるためのケイカクのあり方について考える
- 報告者（報告順）：北海道教育委員会特別支援教育課、あいの里高等支援学校（知的障害）、北見北斗高校（普通高校）、藤女子大学、相談室あんど、みらいつくり大学校
- 指定発言：身体障害・医療的ケア当事者（元特別支援学校高等部、現在は通信制大学に在籍、みらいつくり大学校で学習およびライターとして活動）

第4分科会 障害の有無によらない生涯にわたる学びのケイカクのあり方のポイント

- 主体はあくまで学習者
- 本人の強みを伸ばしたり、新しい価値を発見することを重視
- 本人の学びや支援についての記録を蓄積できるとよい
- 必ずしも明確な目標を立てる必要はなく、「計画外の出来事」も重要
- コーディネーターや共同学習者の存在が、学びの幅や深さ、継続性につながる可能性
- 随時修正できたり、一緒に学ぶ仲間がコメントできるケイカクがあってもよいのでは
- 重症心身障害者など言葉を用いることに困難さがある人の「ニーズ」をどのように考えるかは課題

第5分科会

「学生が考える共生社会」に向けたアクション宣言

開催趣旨：現役大学生が企画準備当日の運営全てを担う「学生サミット」。2ヶ月間の準備を経て辿り着いた「共生社会」の実現に向けた学生のアクション宣言をコンファレンス当日に発表。学生が発した宣言の意義について多様な参加者とともにディスカッションすることで、その理解を深めた。

学生サミット 学びの軌跡

- 10/29 第1回打ち合わせ
- 11/12 学生同士の顔合わせ①
- 11/30 学生同士の顔合わせ②
- 12/5 ｲﾝﾀ参加①(ｷｯｸ ﾏｯﾌﾟ ﾂｰﾑ)
- 12/14 お話し会①(医療法人稲生会理事長・土島先生)
- 12/17 お話し会②(衆議院議員・荒井ゆたか氏)
- 12/20 お話し会③(住み残りの友達国際交流)
- 12/26 ｲﾝﾀ参加②(ﾌﾞﾗｲﾄﾞ ﾜｰｸ ﾁｰﾑ 体験)
- 12/26 ﾞﾌﾞ ﾞﾌﾞ -MTG
- 1/4 ｲﾝﾀ参加③(とんとこクッキング@医療法人稲生会)
- 1/9 ｲﾝﾀ参加④(重度障害当事者の方のお宅訪問・餅つき)
- 1/13 お話し会④(LGBTQ当事者の方のお話し会)
- 1/16 お話し会⑤(とんとこクッキングの振り返り)
- 1/29 ｲﾝﾀ参加⑤(写真展)

当日の概要

- 参加者 45名
内訳：発表学生7名、一般学生5名、当事者8名、当事者家族2名、社会教育関係7名、教諭4名、その他9名
- タイムスケジュール
 - 趣旨説明 (10分)
 - 学生チーム「アクション宣言」発表 (30分)
 - グループワーク (45分)
各グループ、学生による進行 (全5グループ、各8~9名)
学生から提示されたディスカッションテーマに基づく進行
 - アクション先行 or 理論先行 どちらが良い？
 - 学生から学ぶこと、大人から得られる学びって？
 - 学生による共有報告 (25分)
 - まとめ (10分)

第5分科会

「学生が考える共生社会」に向けたアクション宣言

アクション宣言

共生社会とは何か

直接的な答えは出なかった
自分たちは考え続けるスタート地点
に立ったに過ぎない

学生によるアクション宣言として

学び、考え、ふれ続けたい
「継続こそが肝心」

いつの間にか学べる場をつくりたい

「医療法人稲生会の一室から始める」

参加者とのグループディスカッションから～

- Z世代だからこそリアルに「触れる」ことの重要性を意識しているところに感銘を受けた
- アクション先行型でどんどん進めてほしい。互いに学びあうことを大事にして欲しい
- 経験豊富な大人から失敗談を聞くとためになる。いかに失敗談を引き出すかがポイント
- 大人のアンラーン（学び直し）も重要。空っぽの器として、学生とともに一緒に学んでいきたい
- 子どもから見てカッコよく見えたり頑張っている大人とたくさん出逢える機会があったら良い（学生）
- 異なる文化や立場の方のことを理解して認めあうことを小さい頃から経験する場が必要であると感じる（学生）
- 稲生会のみならず様々な人たちとの設定をもち続け、広げてほしい
- 医療的ケア児や肢体不自由の障害者のみならず多様な方々の話を聞いていきたい（学生）

第3部 分科会報告とまとめ

- 第1～5分科会の「見える化」を全員で共有
- 参加者からの意見（一部）
 - 身体障害の当事者：学「やりたい」という意欲生の分科会に参加。理論と行動どちらが先であっても、を応援したい
 - 聴覚障害の当事者（手話⇒手話通訳者が音声言語に通訳）：障害のあるひと ないひとが当たり前のように一緒に学べるインクルーシブ教育が必要
 - 知的障害の当事者：中重度の知的障害者には内容が難しいのでは
 - オンラインでも、ローカルな要素を重視した学びの場があるとよい
- 第5分科会の「アクション宣言」より、「思いがけず学びにつながる場（学ばさる場）」の必要性が認識された

Ⅲ 各管内の取組

実施報告書

教育局名	空知教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 中西 めぐみ

1 開催日時及び開催地

<p>〔障害者の生涯学習オンライン説明会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年10月5日(火) 11:00～11:45 北竜町 (オンライン) 令和3年10月5日(火) 13:30～14:15 声別市 (オンライン) 令和3年10月6日(水) 11:00～11:45 深川市 (オンライン) 令和3年10月6日(水) 13:30～14:15 雨竜町 (オンライン) 令和3年10月12日(火) 11:00～11:45 夕張市 (オンライン) <p>〔障害者の生涯学習推進研究協議会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月15日(水) 15:00～16:30 局会議室 (オンライン) <p>参加市町：奈井江町、月形町、夕張市、深川市</p>
--

2 実施内容

<p>〔障害者の生涯学習オンライン説明会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育局からの説明 (15分程度) ・ 「障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律」等、障がい者の生涯学習を推進するための基盤整備に関すること ・ 空知管内における障がい者の学習活動及び学習活動支援の現状について ○ 協議 (30分程度) ・ 障がいの有無に関わらず共に学ぶ場づくりについて <p>〔障害者の生涯学習推進研究協議会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講演 (60分程度) 「誰もが読書をできる環境を整えるために～できるところから始めよう!～」 講師：滝川市立図書館館長 深村 清美氏 ○ 質疑応答 (15分程度)

3 事業成果

<p>〔障害者の生涯学習オンライン説明会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者の学びの機会や場に関する情報交換をすることができた。 ・ 障がい者の生涯学習をめぐる社会情勢の変化や現状と課題について理解を深めることができた。 <p>〔障害者の生涯学習推進研究協議会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「障がい者のニーズ＝特別なニーズ」と捉えがちだが、滝川市立図書館の実践を聞くことで、参加者は障がい者にとって学びやすい場とは誰もが学びやすい場であると気が付くことができた。

実施報告書

教育局名	石狩教育局
担当者職氏名	社会教育主事 小田島 美雪

1 開催日時及び開催地

令和4年2月3日(木) 13:30～15:00
※Web会議システムZoomを使ったオンライン

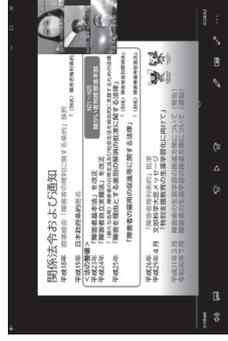
2 実施内容

<p>○出席者 石狩市教育委員会生涯学習部公民館兼社会教育課社会教育主事 藤来 翔希氏 石狩教育局教育支援課社会教育指導班 久末 考男、小田島 美雪</p> <p>1 説明(説明：石狩教育局 社会教育指導班) ・ 事業趣旨や、北海道の取組などについて、資料を基に説明する。</p> <p>2 協議(進行：石狩教育局 社会教育指導班)</p> <p>(1) 石狩市の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石狩市は、関係する部署(保健福祉部局、青少年育成等)との横のつながりが薄く、実際の取組はできていない。 ・ スポーツ推進員には、障がい者スポーツに関心のある委員がいる。 ・ 総合型地域スポーツクラブ(アクトスポーツ)が、次年度開館する児童館の指定管理者になっており、スポーツの観点から事業に関心を持ってくれないか。また、市民図書館も障がい者の図書館利用の推進に取り組んでいる。今後の連携体制づくりも踏まえて、一緒に事業ができたらい。 (2) 今後の取組について ・ スポーツや読書など、石狩市の現在の生涯学習資源を活かし、身近なところから石狩市の事業推進に取組めたら良い。

3 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明と協議を通じて、石狩市教育委員会の事業担当者と事業推進の意義について共通理解を得られた。 ・ 今後は協議で話題に上がっていたスポーツ推進員や総合地域スポーツクラブ、図書館等の関係者も踏まえて、事業についての理解の促進と、今後の実践についての協議を進めていくことを確認できた。
--

4 協議会の様子



説明の様子



協議の様子

実施報告書

教育局名	後志教育局
担当者職氏名	社会教育主事 影山英明

1 開催日時及び開催地

【事前説明会】
① 令和3年10月14日（木）：オンライン
② 令和3年9月28日～11月25日：管内20市町村
【協議会】
③ 令和4年1月21日（金）：蘭越町→延期（実施日未定）
④ 令和4年2月中：赤井川村を予定

2 実施内容

① 管内社会教育担当者への事前説明会（オンライン）
・ 令和3年度の障がい者の生涯学習推進協議会についての説明を行った。
・ 管内20市町村への、障がい者の社会教育事業参加への事前聞き取りの依頼をした。
② 各市町村を訪問しての事前聞き取り
・ 各市町村の現状に応じた研究協議会を行うため、社会教育担当者（仁木町のみ障がい福祉担当者が同席）への聞き取りを行った。
③ 蘭越町
・ 社会教育担当者、保健師、社会福祉協議会職員の参加を予定している。
・ オンラインを検討したが、蘭越町社会教育担当者より実際に同じ場所での協議を希望されたため延期した。
④ 赤井川村
・ オンラインも含めて検討中である。

3 事業成果

・ 事前聞き取りの中で、教育委員会社会教育担当者へ事業の意義や内容を説明することができた。
・ 社会教育担当者には、障がいがあるなしにかかわらず、社会教育事業の対象であることを知る機会となった。

4 その他

事前説明会で現状を把握し、各市町村毎に事情に合わせた研究協議会を実施する予定だったが、コロナの再流行により延期になり現段階で未実施である。情勢を伺いながら今後実施していく予定で、研究協議会を実施後に改めて報告する。

実施報告書

教育局名	胆振教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 佐々木憲一

1 開催日時及び開催地

・ 開催日時	令和3年10月28日（木）10:00～12:00
・ 開催地	むかわ町（むかわ町産業会館 青年研修室）

2 実施内容

○ 参集範囲	市町社会教育委員会職員、市町社会福祉協議会職員
○ 説明	「障がい者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」
・ 説明者	胆振教育局社会教育指導班主査 佐々木 憲一
・ 国の障がいの字ひに関する当面の強化策についての説明を通じて、障がいの生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深める。	
・ 障がいの有無にかかわらず共に学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学ぶ。	
○ 協議	「むかわ町における障がいの有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」
・ 進行	胆振教育局社会教育指導班主事 山本 憲一郎
・ 町内に在任して障がいの有る方について情報共有し、学習ニーズの実態把握や、むかわ町で実施している事業へのマッチング等について協議する。	

3 事業成果

【研究協議での意見等】
○ 保健福祉部から
・ 社会福祉士として、障害支援区分更新のために種別富内地区の障害者支援施設『ほべつ誠光』『ほべつ誠和』他、町外の支援施設も訪問することが多い。その際に普段の様子を観察しているのと、利用者の中には人間関係を構築できず孤立してしまい、外出もしないケースがあり、気にかけている。そのような利用者に向けて、『生涯学習』というアプローチで、創作的なことやスポーツなどを楽しんでいただけの機会があれば、非常に助けになると思う。
○ むかわ町教育委員会から
・ 町で行われている生涯学習の多くは、会館施設やスポーツ施設に参加者が直接集まる形式で実施している。『ほべつ誠光』『ほべつ誠和』へ指導者が訪問し、現地で行う形であれば、「外出に気乗りしない」利用者の負担は減るのではないか。

実施報告書

教育局名	日高教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 石山浩幸

1 開催日時及び開催地

令和3年12月14日(火)：浦河町総合文化会館
 令和4年1月19日(水)：新冠町(オンライン実施)
 新ひだか町(オンライン実施)
 1月26日(水)：日高町(オンライン実施)

2 実施内容

当日は、各町教育委員会の生涯学習担当者はもとより、町長部局保健福祉部職員(障害者福祉担当)や、町社会福祉協議会職員らも参加した。

協議の中では、「社会教育事業等で対応の際は、福祉部局との連携が重要」「『ヘルプマーク』の普及が進めば声掛けしやすくなって、状況は良くなるのでは」「社教職員も、基本的なコミュニケーションスキルを向上させ、対応力や経験値を高めなければ」といった前向きな意見が多く出た。

3 事業成果

生涯学習担当者と福祉部局職員等が同席することで両者の実情交流が進み、互いに連携して取り組む重要性を共有できたことが、大きな成果と言える。

教委側も福祉部局側も、相手方の事情やポテンシャル等を互いに確認でき、具体的な連携接点を探る協議ができたので、今後はその実現とさらなる推進が待たれるところである。

また、本事業を、町の職員研修に位置付けてくれた町もある。今後は、あらゆる機会を通じて、多くの拠点で、障害者の生涯学習を推進しようとする機運が高まるよう、その機会を提供し続けたい。

実施報告書

教育局名	日高教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 石山浩幸

1 開催日時及び開催地

令和4年2月2日(水)：平取町(オンライン実施)

2 実施内容

当日は、町教育委員会の生涯学習担当者はもとより、町社会福祉協議会職員や学校運営協議会委員も参加した。

社協では高齢者や障害者(おもに知的障害者)の生活支援を重点に取り組んでいるため、今後、生涯学習の環境整備に向けては、社協と町教委とで連携して進めていくことが必要だという認識が共有された。

3 事業成果

協議の中では、「障害を理由に劣等感をもつことのないよう、地域全体で障害への理解を深めていくことが重要だ」「卒業後も大切だが、人格形成に大きく影響する就学期の関わりはさらに大切。小・中学校の教職員とも一緒に学びながら、地域全体で同じスタンスで障害のある児童・生徒に接していきなさい」といった前向きな意見が多く出て、地域ぐるみでこの課題に取り組もうとする機運が高まった。

実施報告書

教育局名	渡島教育局
担当者職氏名	社会教育主事 南部 晃 宏

1 開催日時及び開催地

<ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月15日(月) 知内町 令和3年12月22日(水) 七飯町 令和4年1月18日(火) 木古内町Zoom 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月21日(火) 森町 令和3年12月24日(金) 鹿部町Zoom 令和4年1月19日(水) 函館市Zoom
---	---

2 実施内容

<p>参加範囲 教育委員会職員、福祉部担当職員、社会福祉協議会職員</p> <p>実施内容 (1)説明：障害者の生涯学習の推進について（渡島教育局社会教育指導班）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「障害者の生涯学習の推進」が求められる背景 「障害者の生涯学習の推進」に係る道内取組の現状 道教委の取組 障害の基礎知識 取組の実践事例 <p>(2)協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 共に学ぶ場づくりへ向け、不安なこと 共に学ぶ場の充実へ向け、今後取り組めそうなこと
--

3 事業成果

<p>○共生社会の実現へ向けた課題及び必要な取組について理解することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会における学びの場が少ないこと、学習プログラム整備が十分でないこと。 障害をつくるのは社会の環境（周囲の人の意識を含む）という意識を高める必要があること。 実施事業で合理的配慮を行うためには、チラシ等をきっかけに、主催者と参加者で、コミュニケーションを丁寧にとる必要があること。 配慮が公平だと感じられるよう、障害のない参加者とのコミュニケーションも大切である。 <p>○事業を進める上での課題や取り組めることを明確化することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業参加の呼びかけの際に、「障害者」という言葉の使い方に躊躇することがある。 多目的トイレなどは、施設には整備されているが、野外での事業実施の際に気がかりである。 どんな配慮が必要か、コミュニケーションをしっかりとりたい。 ネイバルの募集チラシが参考になった。 「過重負担のない範囲での合理的配慮」とあるが、“過重”をどの程度と捉えるか難しい。 事業案内チラシでの呼びかけ、フォントの工夫など、できることから取り組んでみたい。 指定管理者の選定の際に、「障害者への合理的配慮」の視点も組み込むことを考えたい。 福祉部局や社会福祉協議会と協議する中で、情報共有、連携のきっかけとなった。 部局、団体ごとにも実施している関連事業の情報交流の必要性を感じた。

実施報告書

教育局名	檜山教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 齊藤伸一

1 開催日時及び開催地

<ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月25日(木) 9:45～11:00 オンライン（檜山合同庁舎302会議室・奥尻町海洋研修センター）

2 実施内容

<p>(1)趣旨説明（9:50～10:05）【15分間】</p> <p>「生涯にわたる学習活動の促進について」</p> <p>説明者：檜山教育局教育支援課長 山内 功</p> <p>(2)行政説明（10:05～10:15）【10分間】</p> <p>「障害者の生涯学習の推進方策について」</p> <p>説明者：檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 齊藤 伸一</p> <p>(3)交流・協議（10:15～10:55）【40分間】</p> <p>「町における障がい者の学びの今後について」</p> <p>進行：檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 齊藤 伸一</p>

3 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会と保健福祉課において、障がい者を対象とした事業や、障がい者も参加可能な事業について、どのようなことを実施しているのか、互いに把握することができた。 ○保健福祉課は、障がい者への事業の実施について困っていたが、教育委員会事業に連携・協働していくアイデアも生まれた。 ○障害者手帳の発行と、実際の居住には大きく乖離があることがわかった。
--

実施報告書

教育局名	檜山教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 齊藤伸一

1	<p>開催日時及び開催地</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月22日（水）13:30～15:30 今金町総合体育館「あいきゅーぶ」研修室 <p>2 実施内容</p> <p>(1) 趣旨説明 (13:35～13:50) 【15分間】 「生涯にわたる学習活動の促進について」 説明者：檜山教育局教育支援課長 山内 功</p> <p>(2) 行政説明 (13:50～14:05) 【15分間】 「障害者の生涯学習の推進方策について」 説明者：檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 齊藤伸一</p> <p>(3) 情報提供 (14:05～14:25) 【20分間】 「生徒の余暇活動や卒業後の学びについて」 説明者：北海道今金高等養護学校教諭 山本 拓郎氏・中 島 朋 之 氏</p> <p>(4) 交流・協議 (14:40～15:25) 【45分間】 「町における障がい者の学びの今後について」 進 行：檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 齊藤伸一</p>
---	--

3	<p>事業成果</p> <p>○ 今金町においては、町全体で障がいの有無に関わらず共生でできるまちづくりが進んでおり、町民の障がい者に対する理解も根付いていることが確認できた。</p> <p>○ 今金高等養護学校、社会福祉法人光の里、町教委、町保健福祉課の間には、就学中から卒業後までをサポートする緩やかなネットワークが形成されており、情報共有や課題解決が円滑に行われていることが確認できた。</p> <p>○ 町教委においては、対象を障がい者に限定した事業は実施していないが、多くの事業に障がいのある方の参加実績が見られる。</p> <p>○ 障がいのある方の中には、多くの人々の中でも活動を敬遠する方もいれば、ゆっくりに取り組んだり繰り返し取り組みたい方もいるなど、特性に応じた学びの方法があることがわかった。</p> <p>△ 共生のまちづくりに関して、成功事例だけが注目されがちだが、失敗した事例など負の部分についても、今後考える機会を設けるべきだという意見も複数聞かれた。</p>
---	---

実施報告書

教育局名	上川教育局
担当者職氏名	社会教育主事 佐藤麻友美

1	<p>開催日時及び開催地</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月10日（水）：南富良野町 南富良野町保健福祉センター 令和3年12月1日（水）：名寄市 名寄市民文化センター 令和3年12月13日（月）：美瑛町 町民センター 令和3年12月14日（火）：当麻町 当麻町公民館 令和3年12月15日（水）：上川町 上川町かみんぐホール 令和3年12月17日（金）：下川町 下川町公民館 令和3年12月20日（月）：旭川市 旭川市教育委員会 令和3年12月23日（木）：鷹栖町 鷹栖地区住民センター <p>2 実施内容</p> <p>・ 参集範囲 教育委員会職員、首長部局職員、社会福祉協議会職員、施設職員、小学校教職員、中学校教職員、高等学校教職員、社会教育委員、スポーツ推進委員 等 (市町村によって異なる) ・ 協議内容 市町村における障がいの有無に関わらず共に学び場づくりに向けて</p>
---	--



【下川町】

【鷹栖町】

3	<p>事業成果</p> <p>・ 市町村教育委員会社会教育担当者を中心に、保健福祉部局や社会福祉協議会、障害者施設の職員などに参加いただき、お互いの取組状況や今後の連携について情報交換をすることができた。</p> <p>・ 本協議会をきっかけに、今回の参加者を中心とした情報交流の場を引き続き定期的に開催していく方向で検討を始めた町があった。</p> <p>・ 今後、障害者の生涯学習を推進する上で、今回のような学習会の開催を求める声が多く寄せられた。次年度以降も市町村担当者との連携を図り、市町村の現状や課題を踏まえ、障害者の生涯学習に係わる支援を推進し、部署を超えて取り組む機運を醸成していく。</p>
---	---

実施報告書

教育局名	留萌教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 高橋 枝里子

1 開催日時及び開催地

- ①令和3年12月20日（月）：苫前町（苫前地区コミュニティセンター）
- ②令和3年12月22日（水）：天塩町（オンライン開催）

2 実施内容

【協議内容】
 ①障がい者の現状は、障害手帳保有者のほとんどが高齢者。障がい者対象の事業は行っていないが、高齢者事業や他の事業でも、障がいの有無に関わらず個々の困りに丁寧に対応している。障がい者の理解啓発のため、小学校で福祉体験会を行っている。また、特別な支援が必要な子供がいる学校で地域の方が講師を行う場合は、その特性と関わり方を事前に伝えていく。
 ②障がい者の多くが高齢者で、60歳以下は精神障がいの方が多い。平成23年くらいいから障がいのあなるなしに関わらず利用できるサロンを開設している。現在は高齢者4名程度、30代の母親が利用しており、就労施設に通っている自閉症の20代男性が参加することもあった。ただ、若い精神障がいの方は、人との関わりを望んでおらずその扱いが難しい。
 【参集範囲】
 ①社会教育課主幹・係長、子ども教育課主査、保健福祉課主幹・保健師長、社会福祉協議会事務局長・主事（計7名）
 ②生涯学習課係長・主事、福祉課福祉係長、福祉課ふれあい係長（計4名）

3 事業成果

【共通】
 ・障がいの有無に関わらず、学習機会の必要性について理解していただいた。
 ・普段、社会教育事業に参加しにくいと感じている障がい者のニーズがあるかもしれないので、チラシに「障がいの有る方もご参加ください」の文言を入れて検証するのによいと書いていただいた。
 【苫前町の意見】
 ・ディスプレイ（最新のコリスビー競技）を町として推進しているが、障がいの有る方も参加しやすい内容のため、特別支援の子どもも運を含めて参加してもらおう機会をつくる。
 ・障がいの有る方向けのセミナーを企画してくれれば、福祉部局とも連携して進めやすいと感じた。

実施報告書

教育局名	宗谷教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 渡辺 準

1 開催日時及び開催地

- 令和3年11月9日（火）：猿払村（オンライン実施）
 中頓別町（オンライン実施）
 礼文町（オンライン実施）
 利尻富士町（オンライン実施）

2 実施内容

○4町村（猿払村、中頓別町、礼文町、利尻富士町）の社会教育担当者とZoom会議システムを使い説明・協議を行った。
 ○行政説明（宗谷教育局社会教育指導班主査 渡辺 準）
 ・障害者の生涯学習の推進方策について【概要】（文科省HP）
 ・障害者の生涯学習啓発リーフレット
 2つの資料について、説明、先進事例の紹介、リーフレットのワークシート記入等を行った。
 ○協議
 各市町村で実施する生涯学習事業の企画立案に係る実情、課題等と交流し、障害者の生涯学習推進に向けて工夫できることについて協議した。

3 事業成果

・現在実施している生涯学習事業（講座）は、基本的に障害の有無に関係なく誰もが参加できることとしているが、障害者が参加した実績はほとんどない。もしかすると事前に断念している方がいないかどうかを調べる必要があると思う。
 ・事業の（案内）チラシに障害のことを強調することで、敬遠されることもあると思うので気をつけたい。

実施報告書

教育局名	オホーツク教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 村上真琴

1 開催日時及び開催地

小清水町	(金)	12月10日	会場：小清水町教育委員会
大空町	(金)	12月10日	会場：女満別研修会館
紋別市	(火)	12月14日	会場：滝上町教育委員会
滝上町	(火)	12月14日	会場：斜里町公民館ゆめホール知床
斜里町	(火)	12月21日	会場：斜里町生涯学習総合センター
清里町	(月)	12月21日	会場：清里町生涯学習総合センター
興部町	(月)	12月20日	会場：興部町中央公民館
西興部村	(月)	12月20日	会場：西興部村教育委員会
北見市	(水)	12月22日	会場：北見市端野総合支所
網走市	(水)	12月22日	会場：オホーツク・文化交流センター
美幌町	(金)	1月14日	会場：美幌町民会館
訓子府町	(火)	1月18日	会場：訓子府町公民館

2 実施内容

開会 10:00 (14:00)
 説明 10:05 (14:05)
 「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」
 協議 11:00 (15:00)
 「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」
 閉会 12:00 (16:00)

3 事業成果

障害者の生涯学習の推進に向けた協議では、下記のような意見があり、地域における障害者の学びの場の確保や障害に対する理解を広げていくための取組の必要性について理解を深めるとともに、事業の実施や支援体制の構築にあたっては、保健福祉部局や社会福祉協議会等との連携が欠かせないことを確認することができた。

○地域に住む障害者の実態に即して主催事業や講座等を合理的配慮の観点から見直していくためには、関係性も改めて相談ができる環境を整える必要がある。
 ○障害者の生涯学習について取り組んでいかなければならないと認識はあるが、どのようなふうにすればよいか困るのが実態である。
 ○職員に知識がなくとも保健師や親が情報をもっている。一人一人に丁寧に対応していくために必要な配慮等についても保健師や親が情報をもっている。連携は欠かせない。
 ○保健福祉部局との連携はある程度あるが、社会福祉協議会との連携が求められる。こうした関係機関との連携についても考えていきたい。
 ○小学校や中学校を卒業した後、他の地域の養護学校等へ通う子は、地元との関わりが保たなくなってしまう。そうした空白の期間が大きな課題である。
 ○教育・保健・福祉・医療などの関係者と必要な時に情報の共有ができる「支援ファイナル」を有効に活用していく必要がある。
 ○子どもを対象とした事業では、チラシ等にも障害のある子の参加について記載し参加を促している。成人を対象とした事業でもできることから考えたい。
 ○ポッチャーやゴールボール等の障害者スポーツの普及を通じて、障害に対する理解の促進を図るとともに、障害者の生涯学習の場づくりに取り組んでいきたい。
 ○障害に対する社会的理解を広げていくための取組として講座等の企画も考えてみたい。こうした機会を多く重ねていくことが大切と思う。
 ○設備等の問題は大きいのが、実際に足を運ばなくても学べる方法はある。ICT等を活用した学習機会の提供は、こうした課題の解決にも有効だと思う。
 ○「手話の会」等のサークル活動がコロナの影響で滞ってしまっている。働きかけを考えたい。
 ○障害者も含め、外国人やLGBT等についても考えていかなければならない多様性の時代である。社会教育委員からの意見もあり、社会教育計画への位置づけについて考えていく必要がある。

実施報告書

教育局名	十勝教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 田尾和祐

1 開催日時及び開催地

開催日時
 令和4年1月19日(水) 14:00～15:30
 令和4年1月27日(木) 14:00～15:30
 開催地
 1月19日(水)：足寄町役場
 1月27日(木)：Zoomによるオンライン開催

2 実施内容

・参集範囲
 1月19日(水)：本別町、足寄町、陸別町
 1月27日(木)：幕別町、豊頃町、池田町、浦幌町
 ・実施内容
 ①説明
 「障害者の生涯学習の推進方策について」
 ②協議
 「市町村における障害の有無に関わらずともに学ぶ場づくりに向けて」
 ③振り返り・情報交流
 発表者：十勝教育局道立学校運営支援室主事 吉永一輝氏

3 事業成果

【協議】
 ・「障害者が参加しやすい学びの場をつくるために必要なバリアの解消方法を考える」をテーマとし、①物理的なバリア、②制度的なバリア、③文化・情報面でのバリア、④意識上のバリアの観点から、現状の課題及び改善に向けた合理的配慮について考えた。
 【参加者の意見】
 ・障害者にとっては講座等への参加を検討するときに、障害に応じた個別対応をしてもらえるか不安な面があるため、講座案内に可能な個別対応について明記すべきである。
 ・講座等の案内が障害者に届いていない可能性があるため、広報の方法を工夫する必要がある。
 ・集団の中で活動することが難しい方のために少人数で実施する講座の開設や、集団での講座においてチームリーダーのようなように指導を補助する方を配置すると、障害者が参加しやすい学びの場をつくることができる。
 ・障害者にとっても適切な事業を考えるためには、運営者が障害者との対話を増やし、障害者について理解を深めるべきである。
 【振り返りでの発表者(障害当事者)の意見】
 ・障害者が参加しやすい学びの場づくりに向けて、障害当事者を含めた対話の機会を増やしたい。
 ・障害者が参加しやすい学びの場づくりの例として、取組・調理体験を実施するときには複数の役割を事前に準備し、障害者自身が役割を選択できるようにすると、その人に合った体験をすることができると。

4 協議会の様子

※1 開催要項、研究協議会に係る資料等がありましたら添付してください。
 ※2 本報告書の内容は後日作成、配付する事業報告書に掲載します。



実施報告書

教育局名	釧路教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 河村 武司

1 開催日時及び開催地

令和3年11月8日(月) 13:00~15:00
浜中町総合文化センター 視聴覚室

2 実施内容

参集範囲 浜中町教育委員会社会教育係長、スポーツ係長、社会教育主事
現状について
・町で把握している、障がい者は300~350人に当たる。ただし、そのほとんどは、高齢による健康障がいによる肢体不自由、病弱等によるもので、高齢者以外の障がい者については実数を把握できていない。
・高齢者の生涯学習活動は、社会福祉協議会が中心となって実施されており、そこに障がいを持つている人も加わることができる。
・特別支援に該当する児童生徒は、町内小・中学校の特別支援学級在籍後は、その多くが中標津高等養護学校へ進学する。卒業後、自宅の寮業を手伝うか、自立支援作業所(厚岸町の工房らうぶ)に勤めている。
・日中の活動が忙しいよう、夜間や休日などのような活動をしているか、学習ニーズがあるかまでは把握していない。
・町内施設については、バリアフリー化はほぼ終了しているが、多目的トイレや点字掲示板までは行き届いていない。施設も老朽化し、緊縮財政の中ハード面の整備には限界がある。
・社会教育事業においては、障がい者の参加を拒んでいないし、申込があったときに随時対応している。

3 事業成果

【協議内意見】
・国、道が進めようとする、「障がい者の生涯学習」の必要性については把握した。
・学校で年々増加している、情緒障がい者、知的障がい者に対して学校では対応していると思うが、教育委員会の生涯学習を担当する職員はどのような対応したらよいかというノウハウを全く有していないため、その人たちが各種事業に一人で参加して顕著な症状が出たときの対応がわからず参加できません。」の一言をいれるのに躊躇するところがある。

4 協議会の様子



説明の様子



協議の様子

実施報告書

教育局名	釧路教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 河村 武司

1 開催日時及び開催地

令和3年11月18日(木) 13:00~15:00
白糠町社会福祉センター 2階研修室

2 実施内容

参集範囲 白糠町教育委員会社会教育係長、文化振興係長
現状について
・教育委員会社会教育課としては、障がい者の人数等について全く把握していない。
・防災担当部局では、町民の避難誘導のために障がいの状態を把握しているため、福祉部局以外でも町民の状況把握は必要だと感じた。
・教育委員会の施設では、バリアフリー化、エレベーターの設置、多目的トイレの設置までは進んでいるが、点字掲示板等までは整備できない状況である。白糠高等養護、鶴野特別支援に該当する児童生徒は、町内小・中学校の特別支援学級在籍後は、自立支援作業所に動いている。
・中標津高等養護学校へ進学する。卒業後、自宅の寮業を手伝うか、自立支援作業所に勤めている。
・白糠町内の自立支援作業所では不定期の活動で収入が安定しないため、多くの人が釧路市内の自立支援作業所に勤務のため通勤に時間を要している。
・日中の活動が忙しいよう、夜間や休日などのような活動をしているか、学習ニーズがあるかまでは把握していない。
・成人の障がい者については、これまで社会教育事業への参加申込がなかったため認識をしていなかった。子ども向け事業を実施する際、事前受付では特に何も報告がなかったが、当日活動してから、多動や知的障がいに戻られる症状が弱れ、職員が対応できなかったことがあった。

3 事業成果

【協議内意見】
・「障がい者の生涯学習」の視点が必要であることを認識できた。
・現状で示したように、情緒障がい者、知的障がい者の事業参加に対して適切な対応ができなかった経験から、教育委員会の生涯学習を担当する職員が障がいを持つ人への研修の機会があれば参加したいと考えている。
・事業実施者としては、参加者の障がいの状況を知り適切な対応を図りたいところであるが、保護者から参加申込時に正しく伝えていただく方法を検討したい。

4 協議会の様子



説明の様子

実施報告書

教育局名	根室教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 安間 邦雄

1 開催日時及び開催地

令和3年11月9日(火) 10:00~11:30
根室市総合文芸館

2 実施内容

- (1) 参加者
社会福祉部社会福祉課長1人、社会福祉部社会福祉課主査1人、社会教育主事2人、社会体育課主査2人
- (2) 協議内容
・障害者のレクリエーション大会を社会福祉部局が担当している。
・社会体育事業(マラソン大会)に聴覚障害者が市外から参加した。その際、大会運営全てに手話通訳者を付けて、対応した。
・手話通訳者は社会福祉部の常勤者。手話サークル会の登録者は市内に10名程度いて、必要に応じて事業等の手伝いをお願いしている。

3 事業成果

- ・障害者差別解消法上の「合理的配慮」の判断が難しいので、ケースごとに教育委員会と社会福祉部局が連携していくことを確認した。
- ・今後も、教育委員会社会教育課内の全ての事業において、障害者からの参加希望があれば、参加できるような支援体制をとる、受け入れることの重要性について確認した。
- ・障害がある人でも体育施設を使用しやすいよう施設のバリアフリー化や多目的トイレの設置を進めていく必要性について理解を深めた。
- ・成人式は、どのような障害がある人でも参加できるように配慮していく共通理解を全員で図ることができた。

4 協議会の様子



実施報告書

教育局名	根室教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 安間 邦雄

1 開催日時及び開催地

令和3年12月15日(水) 10:00~11:30
標津町生涯学習センターあすばる

2 実施内容

- (1) 参加者
地域包括支援センター職員2人、保健福祉センター職員2人、建設水道課職員4人、財政課職員2人、消防署職員2人、総務課職員1人、児童館職員4人、社会教育施設職員3人
- (2) 協議内容
・障害がある町民100名程度を保健福祉部局で把握している。障害がある人のための事業等は特に行っていない。
・総務課では、選挙の時の期日前投票所をバリアフリー化することが課題である。(一般の投票所はすでにバリアフリー化している)

3 事業成果

- ・障害がある人のニーズを把握するため、障害がある方とよく話し合い、「合理的配慮」をしていくことの大切さについて、理解を深めることができた。
- ・すでに町として障害者支援をしている様子であった。各部署と同士の連携を取り合う機会を設けたことで、さらに支援体制を強化できた。
- ・本研修会を町役場職員の研修会に位置付けたため、教育委員会・保健福祉部局以外の各部署から参加者があった。障害者の差別解消に向けて、町全体で考えていこうという姿勢が伺えた。

4 協議会の様子



実施報告書

教育局名	根室教育局
担当者職氏名	社会教育指導班主査 安間 邦雄

1 開催日時及び開催地

令和4年1月24日（月）：別海町（オンライン実施）

2 実施内容

- (1) 参加者
社会福祉協議会事務局長1人、体育館職員2名、公民館職員1人、生涯学習課職員2名、町教育委員会教育委員1人
- (2) 協議内容
・町内に障害がある方は、950名以上いる。そのうち約50名が18歳未満であることを確認した。
・障害者だけを対象にした主催事業は特に実施していないが、公民館で活動しているサークルに障害がある方がいて、生涯学習を行っている。
・今年4月にオープンする生涯学習センターの館内表示は全てUDフォントを使用し、視覚障害者に配慮している。
・モルック、ボッチャ等のアダプテッド・スポーツの道具を体育館や公民館で保有している。町民から貸し出しの要請が月に1回程度あるのでその都度、活用している。その他の活用方法も今後、検討していきたい。

3 事業成果

- ・今年4月から公民館機能を持つ生涯学習センターがオープンし、教育委員会生涯学習課職員、公民館職員、社会福祉協議会の職員が、同センター内で仕事をすることになる。今後、3者がお互いに連携しながら障害者支援を行っていく合意形成ができた。
- ・成人式で、障害者の有無について事前把握に努めている。障害障害者から要望があった場合、町長挨拶などに手話通訳を付けるよう配慮している。今後も引き継ぎ、合理的配慮をしていきたい。一方、手話通訳者の手配が困難な時は、「UDトーク」等を使った支援も検討していくという新しい方策が示された。

4 協議会の様子

